

一時國庫金ヲ流用スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキモ結局外國市場へ売出サシムル計畫ナリシニ時局ノ為右計畫ハ当分ノ間実行困難トナリタルニ付今後北京ニ於テ交渉繼續ノ上正式ニ調印ノ運ヒトナルモ差当リ之ヲ遂行スヘキ見込立タズ殊ニ欧米ノ支那借款交渉モ立消エ又ハ実行中止ノ状況ナレハ旁本件交渉ハ当分懸案ノ儘トシテ中止スルノ外無之尤モ支那政府ニ於テハ既ニ交渉委員ヲ任命シタル今日時局發生ノ口実ヲ以テスルモ右交渉ノ無期限中止ハ不体裁ナレハ兎ニ角交渉ヲ繼續シ調印後同契約第二十四条ニ依リ当分契約ノ履行ヲ延期スルコト、スルモ一策ナルニ似タルモ同条ニハ本契約調印後公債募集目論見書發行前事變發生云々ト

アルニ付契約調印前ニ發生セル今日ノ時局ヲ以テ同条ニ依リ延期ノ理由トナスヲ得サルノミナラス仮リニ同条ヲ時局ヲ利用シ得ル様修正スルトスルモ目下世界經濟界ニ重大ナル變化ヲ生シタル為従前假定シタル利率其他ノ条件ハ大ニ改正ヲ要スルコト、ナリ原案ノ儘交渉ヲ進行スルハ我國ニ取リ頗ル不利益ナルヲ以テ結局本件ハ当分懸案トシテ交渉ヲ中止スヘキ旨別紙乙号写ノ通大藏省ヨリ正金銀行へ回答方取計フ筈ニ有之候間右様御承知相成度此段申進候也

註 別紙甲・乙両号省略

事項二 奉天省借款交渉ニ関スル件

三五 一月一日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天省ニ於ケル小借款ヲ大借款ニ切換ノ計畫

ニ関スル熊財政總長講話ニ付山座公使ヨリ稟

請ノ件

附記 大正二年十一月三十日附落合總領事ヨリ牧野外

務大臣宛機密公第二七五号

奉天省外債ニ関スル件

第壹号

十二月三十一日北京發奉天宛第八一号

第一一五六号(外務大臣宛)

十二月二十七日熊希齡ニ面会ノ際熊ハ奉天民政長目下上京中ナルカ彼ハ赴任以來銳意財政ヲ整理シタル結果収支相償フニ至リタルモ從來小借款多ク処分ニ困難ナルニ付此際之ヲ一括シテ大借款ニ切換ヘタク尚他國資本家中之ニ応スルモノモアル由報告セルニ付自分ハ這般ノ借款ハ先ツ日本國ニ議ルヘシト申聞ケ置キタリトノコトニ付本使ハ勿論ノコトニシテ若シ日本ニ議ラスシテ他ヨリ借入ル、カ如キコト

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 三五

事項二 奉天省借款交渉ニ関スル件

アラハ必ス非常ノ面倒ヲ惹起スヘキニ付委細ノ事情ヲ打明ケ横浜正金銀行ニ相談セラルヘシト述ヘタルニ熊ハ爾カク取計ハスヘキカ其節日本側ヨリ苛酷ノ条件ヲ提出スル如キコトナキ様予メ希望スト言ヒ居リタリ

奉天ヨリノ報告ニ依レハ財政司長モ上京スル由ニ付遠カラス我ニ対シ借款談ヲ持出スコトナルヘク右ノ趣横浜正金銀行ヘモ御伝ノ上十二月二十三日附機密第三六七号貴信落合意見末段ノ如ク予メ条件等御詮議置相成タシ

註 大正二年十二月二十三日牧野外務大臣ヨリ山座公使宛機密

第三六七号トハ落合總領事來信機密公第二七五号ノ写(左

掲ノ附記)ノ送付状ナリ

(附記)

機密公第二七五号

(大正二年十二月五日接受)

大正二年十一月三十日

在奉天

總領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

奉天省外債ニ関スル件

奉天省ノ外債ニ関シテハ趙爾巽総督時代以来張都督ニモ南滿洲ニ於ケル我特殊ノ地位ニ鑑ミ借款ノ必要アル場合ニハ必ス先ヅ日本ニ相談スヘキ旨ヲ告ケ彼等ニ於テモ亦タ先ヅ日本ニ相談スヘシト称シ居リ先般許民政長就任ノ際ニハ張都督ヨリ右ノ口約ヲ許ニ引継ク様取計ハシメ置タル次第ハ報告致置タル通ニ有之候然ルニ本月二十五日附往電第二三七号ヲ以テ及報告置候通り許民政長ニ於テハ軍需品買入代金ヲ独乙商人礼和洋行ノ申出ニヨリ借款ニ引直サントスルノ意向無之ニ非サル様被認タルヲ以テ如何ナル借款タリトモ約束通り先以テ日本側ト相談スヘキ旨注意ヲ与ヘ置タル次第ニ有之候処実ハ先般交渉中ナリ朝鮮銀行ノ借款談ハ僅ニ壹百万円ノ額ナリシニ係ハラス最初該銀行支店長ガ直接交渉ニ当リシトキハ數ヶ月在再決セス本官ノ交渉ニ移リタル後ハ迅速ノ成立ヲ勉メタルモ其提出セル条件カ外観上甚シク苛酷ナリシモノノ如ク張都督スラ頗ル迷惑ノ意ヲ洩シ居リタル次第ニテ日本側ノ借款談ハ頗ル面倒ナリトノ感ヲ懷ケルモノ多キ今日許民政長ニ於テハ或ハ張都督ノ如ク其借款ノ必要ナル場合ニ於テハ先ヅ日本側ト商議ヲ重ネ百方折衝ヲ勉メタル上結局日本ニ於テ拒絕スルノ態度ニ出デ

ヤト問試ミタル処民政長ニ於テハ先ヅ奉天省ノ行政整理ニヨリ費用幾何ヲ減少シ得ルヤハ未タ考究中ニシテ其結果更ニ前途ノ見込ヲモ調査考究シ根本ノ財政策ヲ立テタル上ニアラザレハ明確ナル借款額ヲ言明スルコト能ハズト答ヘ居リ候且同民政長ノ希望トシテハ滿洲ニ於ケル日支合弁事業及ヒ採木公司專採区域擴張ノ如キヲ借款ノ条件ト為スコトナク別問題トシテ商議シタシトノ事ニ有之候間本官ハ日支合弁事業ノコトタル今日ニ始マリタルコトニアラズ南滿洲方面ニ於テ日支実業上ノ提携ヲ唱導スル者兩國官民共非常ノ多數ニシテ殆ンド万口一声ト云フベキ勢ナルニモ拘ハラズ常ニ口舌ノ間ニ止リ今日迄一向実現スル処ナカリシニヨリ此機ヲ利用シテ其実現ノ根拠ヲ設ケンシタル次第ナリ又採木公司專採区域ノ如キモ日支合弁ナル採木公司ノ利益ノ為メ其擴張ヲ計ラントスル者ニシテ此兩事ハ日本ノ利益ノミナラス支那ノ為メニモ亦タ大ナル利益ニシテ彼我ノ利益ノ為メ借款談ノ有無ニ係ハラズ必ズ之ヲ実行セサル可カラサル者ト認メ居レリ特ニ兩國ノ利益上重大ノ關係アリ速ニ実行ノ必要アルモノハ水田經營事業ニアリ此事ハ借款談

ザル限り他國ト商議ヲ開カザルガ如キ誠実ナル態度ニ出ヅルヤ疑無キ能ハス或ハ借款ノ場合独乙又ハ他國ト内密ニ借款ノ商議ヲ進メ置キ日本ニ對シテハ今日迄ノ關係上形式的ニ一応借款ノ相談ヲ持懸ケ日本ニ於テ提出シタル条件ニシテ稍々苛酷ナルカ又ハ他國側ノ承諾セントスル条件ニ比シ不利益ナル場合ニ於テハ之ヲ口実トシテ我方ノ話ヲ打切り直チニ他國ト借款契約ヲ訂結スルノ手段ニ出ヅルガ如キコト無之哉ト懸念致サレ候一方翻テ奉天省財政上ノ実情ハ日々窮迫ヲ重ネ遠カラサル内中央政府ヨリ特別補助金ノ支給ニテモアラサル限りハ必ス借款ニ訴フルノ外如何共致方ナカルヘキハ觀察者ノ皆一致スル所ニシテ現ニ許民政長モ此辺ノ消息ヲ洩シ居リ朝鮮銀行ニ對スル百万円借款談ノ如キ決シテ謝絶セントスルニアラス只財政ノ大改革ヲ施シ根本ノ方策ヲ定メタル上改メテ借款ノ相談ヲ為スヘク其レ迄一時商議ノ進行ヲ中止シ居ルト云フニ過ギズ又借款額ハ未タ決定セザルモ壹百万円ノ如キ少額ニテハ致方無シト申居レル次第ナルヲ以テ早晚借款談ハ必ス提起セラルヘク本官モ可成事前ニ先方所要ノ金額其他ニ関スル意向ヲ探ラント欲シ先般民政長ニ概略幾何ノ借款ヲ必要トセラルル見込ナル

一時中止セラレアルニ係ハラス引続キ実行ノ運ニ至ル様尽力ヲ望ム又先般朝鮮銀行借款談ノ最終ニ提議シタル諸件ハ之ヲ借款ノ条件トシテ借款契約内ニ列記セントシテ提出シタル者ニ非ス借款ノ条件トシテ契約ニ認ムベキコトハ年限、利率、担保等ニシテ合弁事業及ヒ伐木專採区域擴張共双方ニ於テ予テ希望セラレ居リ未タ実行ニ至ラザル者ヲ借款ノ機會ニ實現セシメントシタルモノニシテ形式上別個ノ申合トナス積ナリシコトヲ説示シ置候又該諸条件ハ決シテ日本側ノミノ利益ヲ謀ルモノニアラス双方ノ利益ヲ目的トシタルモノニシテ且該条件全体ヲ以テ絶対的ノモノトナスニアラズ多少ハ尚ホ交渉ノ余地アル次第ナリト説明致置候要之當省財政上ノ關係ニ於テ早晚必ス借款ノ必要有之事ハ疑ナキ次第ニシテ之ヲ他國側ヨリ起サシムルガ如キコト無之様配慮致居候得共許民政長ニ於テハ前陳ノ如ク或ハ他國ト内密ニ借款ノ議ヲ進行シ予テノ約束上唯タ形式的ニ日本側ニ借款ヲ申込ミ其条件ニシテ稍々苛酷ナルカ或ハ遷延決セサルカ如キ場合ニハ日本側トノ交渉終極トナシ直ニ他國トノ借款ヲ訂結スルガ如キコト無之哉懸念ノ至リニ有之且

當省ニ於テハ目下頻リニ行政整理ヲ実行シ居リテ何時借款
談ヲ支那側ヨリ持出シ来ルヤモ難計形勢ニ付其相談ヲ持出
シ来ルヤ相当ノ条件ヲ以テ之ニ応シ迅速ニ成立ヲ見ルコト
ヲ得ルニ至ルベキ様今日ヨリ予メ準備シ置クノ必要可有之
ト被存候処其金額ニ至テハ目下精細ニ之ヲ知ル能ハサルモ
大体ノ見當ハ四五百万乃至一千万円位ノ処ナルヘクト被存
候間帝國政府ニ於テ此際右ノ事情御考量ノ上今後借款談始
マラバ直ニ之ニ応シ余リ苛酷ニ過ギザル条件ニテ交渉ヲ迅
速ニ進メ得ル様御詮議置相成度此段及上申候 敬具

三六

一月二日 福島関東都督ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天ノ財政難・政情等ニ関シ奉天都督張錫鑾
師長張作霖同馮麟閣ノ談話報告ノ件

秘第六〇五号

去ル二十七日張都督ノ打明ケ懇談スル所ニ依レハ租税ハ予
定ノ如ク納入セス財政ハ日ニ困乏ニ赴キ都督ハ十月以來俸
給ヲ受領セス其以下文官ノ俸給ヲ受ケサルコト既ニ六ケ月
ニ及ヒ如何トモ為スコト能ハスト依テ文官大小ノ吏員ハ如
何ニシテ生計ヲ続ケツ、アリヤト問ヒシニ甚ダ慚愧ニ堪ヘ

ヲ為セリ其主ナル点左ノ通り

兩師団長トモ張都督ノ老衰事ニ堪ヘサルヲ憤慨シ張作霖ノ
如キハ自ラ代テ當ラントスルノ意図アルカノ如ク察セラレ
タルニ依リ大ニ之ヲ戒メ滿洲目下ノ形勢老都督ヲ輔佐スル
ヨリ良策ナキコトヲ繰返シテサラハ代テ来ルヘキハ何人ナ
ルヤ恐クハ候補者ヲ得ルコト至難ナラン世評ノ如ク藍天蔚
ノ如キ人物来ラハ如何ト云ヒシニ張作霖怫然トシテ曰ク一
歩モ滿洲ノ地ヲ踏マシメスト馮麟閣ハ大ニ悟ル所アリテ張
都督ノ一日モ長ク其職ニ在ルヲ希望セリ張作霖ハ能ク馮麟
閣ニ兄トシ事ヘ兩者ノ握手極メテ堅シ袁世凱ハ屢々人ヲ派
シテ兩者ノ離間ヲ図リ苦肉ノ策ヲ廻ラセルモ更ニ其効ナク
却テ兩者ノ關係堅実トナレリ抑モ此ノ兩師団ノ兵ハ親分子
分ノ情誼アリ將校ノ如キハ悉皆滿洲人ニシテ僅少ノ山東人
ヲ混スルノミ張馮二人ノ祖先ハ山東ヨリ移住セシ者ナリ故
ニ團結固ク比較的善戦ノ兵ナリ故ニ袁世凱ノ力ヲ以テ此ノ
兵ヲ擊破スルコト容易ノ業ニ非ス支那兵ノ蒙古兵ニ対スル
戦闘ハ大ニ兩人ノ失笑スル所ナリ但シ本官ハ彼等ニ向ヒ敵
ニ輕率妄動ヲ戒メ置キタリ張作霖ハ近来兵ト金トノ關係最
重要ナルコトヲ感シ日支合弁ノ名ノ下ニ広ク蒙古地方開墾

サルモ或ハ友人ノ資力アル者ニ就テ一時ノ借財ヲ為スカ或
ハ出入商人ヨリ物品糧秣等ヲ納メシメテ其代価ヲ払ハズ出
来得ル丈之ヲ延期セシムルトニ在ルノミナリ是レトテモ一
時ノ事ニテ到底更ニ數ケ月ヲ持續スルコト難シ將來ニ想到
セハ実ニ暗黒ナリト大息セリ軍隊及警察ノ動靜ハ都督ノ最
苦痛トスル所ナルヲ以テ如何ニ処置シツ、アルヤヲ問ヒシ
ニ曰ク徐世昌ノ總督タリシ時代ニハ陸軍費十七萬元ニ過キ
サリシガ今ハ実ニ四十七萬元ニ達セリ幸ヒ本月ハ支給シ得
タルモ来月ハ如何ニスヘキヤト心配中ナリト都督ハ從來ノ
元氣ナク頗ル衰弱セリ袁大總統ニ二ケ月ノ休暇ヲ請ヒタル
モ許サレス倒ル、迄奮勵スル覚悟ナリト申シ居レリ目下ノ
処辭職ノ模様ナキモ健康狀態甚タ覺束ナシ若シ他人ノ来テ
都督タルコトアラハ忽チ紛糾ノ起ランコトヲ虞ル許民政長
ハ最初輕率失言等ノ為一般ニ信用ナシ今北京ニ在ルモ到底
帰來セサルヘシ張都督曰ク彼ハ學識才能アリ事務ヲ執ルニ
敏活ナルモ一方ノ頭トナリテ人ヲ使フノ材ナシト此日尚張
作霖馮麟閣ニ面会スルノ約アリシヲ以テ之ヲ張都督ニ話シ
貴官トノ融和ヲ計ル考ナリト言ヒシニ大ニ喜ヒタリ
午後一時張馮二師団長来ル食事ヲ共ニシ食後長時間ノ談話

ノ意アルヲ以テ不言ノ下ニ実行スル様勸奨シ置キタリ

近来袁政府ハ奉天ノ宝藏ニ在ル古器珍宝ヲ二百萬兩ニテ清
皇室ヨリ買取シ北京ニ博物館ヲ建設スルトノ名義ノ下ニ奉
天地方ノ人心ニ動揺ヲ来サ、ル範圍ニ於テ密ニ搬出シツ、
アリトテ張作霖等ノ激昂甚シ惟フニ北京ニ於テハ更ニ數倍
ノ価格ヲ以テ之ヲ外國人ニ売却シ財政一部ノ急ヲ救フ考ナ
ラン兎ニ角種々ノ情況ヨリ推考スルニ滿洲ノ形勢ハ益々悲
運ニ傾キツ、アリ

三七

一月二日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

中井等ノ奉天省借款仲介ニ関シ報告及之ニ対
スル日本政府ノ方針ニ付請訓ノ件

附 記 一

大正二年十二月二十九日牧野外務大臣發落合
總領事宛電報第一五九号

奉天省借款ニ関シ鮮銀支店長ト支那側トノ間

ニ談合纏リタリトノ報道ニ付取調方訓令ノ件

二

大正二年十二月三十日落合總領事發外務大臣
宛電報第二四九号

右報道ニ関シ回報ノ件

三

大正二年十二月三十一日牧野外務大臣發落合

總領事宛電報第一二六一号
奉天省借款ヲ仲介シ居ル中井ヨリ事情聞取り
真相報告方訓令ノ件

第二号

貴電第一六一号ニ関シ中井一月二日来館是迄本官ニ秘シタルハ支那側ト交渉ノ衝ニ当レル井深カ支那側ニ於テ本官ニ対シ秘密ニ附シ度意嚮ナル旨ヲ申居レル為メナル処中野ヨリ本官ニ会见スヘキ様電報シ来リタルニ付取急ギ本官ヲ来訪シタル次第ナル旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ本件ニ付支那側ノ当局者ハ何人ナルヤヲ質シタル処中井ハ万事井深カ取次キ居ル次第ニシテ自分ハ知ラス尤モ井深ハ茲兩三日内ニ出発上京スル筈ニ付近々ノ内自分直接支那側ノ当局者ト交渉スル筈ナリト申シ居レリ尚一月一日井深年賀ノ為メ来館ノ節本官ヨリ内々本件ニ関スル同人ノ立場ヲ質シタルニ同人ハ民政長モ財政司長モ未タ知己トナラス財政司長ノ旨ヲ受ケ居レリト云フ或ル支那人ヲ相手トシテ交渉シタルニ過キサル由ナリ(井深ハ先般帰朝中応募ノ期満チテ今ハ支那官憲ト無関係ナリ御参考迄)以上ノ次第ニ付本件見込アルト否トハ井深モ中井モ未タ断言シ得サル次第ナリ本件ニ付帝

(附 記二)

大正二年十二月三十日在奉天落合總領事発收

野外務大臣宛電報

朝鮮銀行及支那側間ニ奉天省借款纏リタリト

ノ報道ニ関シ回報ノ件

第二四九号

貴電第一五九号ニ関シ中井ハ二十七日頃当地ニ達シ二十九日朝鮮銀行主任ニ対シ貴電ノ如キ条件ニテ当省借款引受方ヲ提議シ且本件ニ付テハ中野ニ依リ帝国外務省ト談合調ヒ居リ跡引受ハ勿論借款金額調達困難ナラハ三百万円迄位ハ外務省ニ於テ(不明)ヲ以テ調達セラルヘク又本件ハ差当リ本官ニ知ラシメスシテ纏ムル様小池政務局長ノ意向ナリトノコトナルガ中室主任ハ前々ヨリノ行懸上本官ニ相談セサル能ハスト答ヘ置キタル処中井ハ頗ル不満ナリシト中室ハ右ニ付京城へ電稟中ナルモ未タ回答ナシ同人ハ本件ノ話ハ真面目ナリヤ多少氣遣ヒ居レリ本官ハ右外務省ノ話云々ハスルコトノアルヘキ筈ナシト認ムル旨答ヘ置キタルガ中室ハスルコトヲ本官ニ洩ラシタリト云フコト先方ヘ知レテハ自分頗ル迷惑スルニ付極メテ秘密ニセラレタク又中井ノ

国政府ハ中野ニ対シ如何ナル御沙汰ヲ与ヘラレ居ルヤ心得ノ為メ電報アリタシ中井ハ矢張り朝鮮銀行ヲシテ出資セシメントシ朝鮮銀行ニテハ帝国政府ヨリ直接沙汰アルコトヲ希望シ居ルモノ、如シ本官ハ此種借款問題ニ無責任ナル仲介者ノ多数アルコトハ甚タ好マシカラスト認ム

註 左掲ノ附記三

(附 記一)

大正二年十二月二十九日牧野外務大臣発在奉

天落合總領事宛電報

奉天省借款ニ関シ朝鮮銀支店長ト支那側トノ間ニ談合纏リタリトノ報道ニ付取調方訓令ノ件

第一五九号

奉天省借款ニ関シ朝鮮銀行支店長ト支那側トノ間ニ左記条件ヲ以テ談合纏リタル趣在貴地中井喜太郎ヨリ中野次郎ニ電報アリタル処右ハ果シテ事実ナリヤ至急取調ノ上回電アリタシ

金貨五百万円 利子七分五厘 手取九五 期限五年 担保酒煙草税 材木公司ノ株 採伐区域ノ拡張 附帯条件 鉱山土地ヲ抵当トシテ他国ヨリ借款セザルコト

話ガ根拠アルコトナリヤ否ヤ確メタキモノナリト申居レリ本官ハ中井ノ態度前記ノ如クナル以上何等援助ヲ与ヘサルハ勿論ニシテ又且下民政長モ財政司長モ不在中何レノ筋ヨリ中井ガ前記ノ如キ条件ヲ聞出シタルカ等ハ尚取調ノ上ニ非サレハ明カナラス

註 前掲附記一

(附 記三)

大正二年十二月三十一日牧野外務大臣発在奉

天落合總領事宛電報

奉天省借款ヲ仲介シ居ル中井ヨリ事情聞取り

真相報告方訓令ノ件

第一六一号

貴電第二四九号ニ関シ中井ヨリ貴官ニ知ラサスシテ纏ムル様政務局長ノ意向云々ハ全然事実ト相違シ居リ中井出発ノ際ニモ同人ニシテ何等行動スル場合ニハ万事貴官ニ打明ケ協議スベキ旨同官ヨリ申聞ケタル位ナレハ右ハ何カ行違アル次第ト存ズ中野ヨリモ昨日中井ヘ電報ノ序ニ詳細貴官ニ報告スルヤウ申遣ハシタル趣ニ付中井ヨリ十分事情御聞取ノ上真相御取調相成結果電報アリタシ

註 前掲附記一

三八 一月六日 牧野外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天省借款談ニ関シ日本政府ハ中野ニ沙汰シ
タルコトナキ旨回訓ノ件

第一号

貴電第二号ニ関シ政府ヨリ中野ニ対シ何等沙汰シタルコト
ナシ今回ノ借款談ハ中井井深等ニ於テ支那側ト開談シ之ヲ
中野ヨリ取次キタル迄ニ過キサル義ト御承知置相成タシ

三九 一月十三日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛

奉天省借款ニ関スル中井ノ言動ハ甚ダ好マシ
カズト認メラルル件

機密公第一〇号 (一月十九日接受)

大正三年一月十三日

在奉天

總領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

奉天省借款ニ関スル中井喜太郎言動報告

本件ニ関シテハ拙電第二号ヲ以テ報告致置タル廉有之候処
本官ハ翌三日ヨリ転地療養ニ赴ク予定ナリシヲ以テ不在中
本件ニ関シ報セラルヘキコトモアラハ井原領事ニ報告アリ
タキ旨申聞置候処本月八日中井来館井原領事ニ面会シ許民
政長モ亦々上京後帰任セサルコト、為リ王財政司長モ辭職
ト決定シタルヲ以テ今日迄ノ借款談ハ之レニテ打切り何レ
新タニ民政長及ヒ財政司長任命セラルヘキニ付キ其上ニテ
更メテ借款談ヲ持出ス筈ナレハ為念通知スト述ヘタルニヨ
リ同官ハ民政長並ニ財政司長更迭スル場合ニハ本件ニ関ス
ル從來ノ關係ハ断絶スルコト、為リ其借款談ナル者ハ全然
新タナルモノト為ル諷ナルガ右任命ヲ待テ此度ハ中井ノ方
ヨリ支那側ニ対シ借款談ヲ持懸クル積ナルヤ又タ今日迄支
那側ト直接面談シタルコトアリヤト尋ネタルニ今日迄支那
側借款ノ相手タリシ者ハ財政司第一科長タル黃ト称スル者
ニシテ直接面会シタルコトナシ又新民政長及ヒ財政司長ノ
任命アリタル場合ニハ中井ノ方ヨリ借款談ヲ持懸クル筈ニ
テ夫レ迄当地ニ滞在スル積ナリト答ヘ又タ井深カ五日当地
ヲ出發帰國ノ途ニ就キタル後支那側ト中井トノ間ニ連鎖ト
為ルヘキ日本人ノ有無ヲ尋ネタルニ対シ之レアル旨ヲ述ヘ

其ノ人名ハ秘密ニ致シ置キ呉レトノ依頼アルニヨリ漏シ難
シト答ヘタル由ニ有之候斯ノ如クニシテ中井ハ当館ニ対シ
未タ充分ニ腹藏ナク報告スルノ態度ニ出デザルヲ以テ如何
ナル者ノ仲介ニヨリ如何ナル程度ノ話ヲ為シタルモノナリ
ヤ亦其者等ガ民政長財政司長等交迭シタル今日尚ホ当省財
政当局者間ニ勢力アリヤ否ヤモ明ナラサル次第ニ有之候処
中井等ハ元ヨリ自カラ資金ヲ有スルニアラス又支那ノ地方
官ニ対シ特ニ信用アル次第ニハアラス中間ニ立テ万一借款
談ノ僥倖ニ成立スルコトモアラハ口銭ヲ得テ私慾ヲ満タサ
ントスルモノノ手ニ就テ交渉ヲ試ミ居レルモノノ如ク一方
資金ハ之ヲ朝鮮銀行ニ出資セシメントシ同銀行ニ対シテハ
本件ニ付東京中野ノ手ニ於テ外務省及大蔵省ト充分ノ話合
附キ居レルモノノ如ク吹聴致シ居レル次第ニシテ其ノ言動
ハ甚タ信用ヲ措キ難キ廉有之同人等ノ行動ニシテ毫モ累ヲ
帝國政府ニ及ボサザル性質ノモノナラハ敢テ干渉スヘキ限
ニアラサルモ、当省借款問題ノ如キ重大問題ニ而カモ結局帝
國政府ノ保証ヲ目的トナシ居ルコト明ナル事柄ニ関シ中井
ノ如キ別ニ当地支那官憲ト何等特殊ノ關係アルニアラス又
奉天省ニ於ケル今日迄ノ借款問題ノ成行ヲ知悉セルニモア

二 奉天省借款交渉ニ関スル件 四〇

ラサル人物ニシテ自ラ資金ヲ有セルニモアラス又資本家ト
ハ何等關係ヲ有セサル無名ノ日本人ヲ中ニ立テ、種々画策
行動スルカ如キハ甚好マシカラス特ニ責任アル支那官憲ト
資本主タラントスル朝鮮銀行主任者等ハ彼ノ斡旋ニ信頼ス
ル模様無ク朝鮮銀行側ニ於テハ責任アル日本官憲ヨリ直接
ノ相談ヲ為ササル以上決シテ本件借款談ニハ応セサル意向
ナリト認メラレ候間中井ノ如キ運動ニテハ奏効ノ見込無キ
ノミナラス却テ当省ノ財政及借款問題ニ関シ我方ノ執リ来
レル方針ニ累ヲ及ホスカ如キコト無キヤ懸念ノ至ニ堪ヘス
スル状態ノ下ニ同人力單ニ借款談ヲ目的トシテ引続キ当地
ニ滞在スルコトノ望マシキヤ否ヤ甚疑ハシキ次第ニ有之候
右報告旁申進候 敬具

四〇 一月二十三日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

五百万円借款ニ関スル中井ノ奉天都督及財政
司長トノ打合状況報告ノ件

第一二号

一月十三日附機密第一〇号拙信ニ関シ中井ハ一月二十二日
張新財政司長ヲ訪ヒ其紹介ヲ以テ張都督ニモ面会シ中井ヨ

リ借款談ヲ申入レ左記条件ヲ以テ成立スル様同都督ヲシテ承諾セシメタル由報告シ来レリ

(一)金額五百万円(二)仮契約調印後二週間内ニ何レニモ異議ナキトキハ本契約ヲ締結ス(三)手取表面九十四、實際九十六半(四)利率七分五厘(五)担保ハ奉天統稅捐ノ出產銷場兩稅洋銀約三百二十万円(六)元金ハ二年据置第三年百六十万円第四年百六十万円第五年百八十万円ヲ償還ス

四一 一月二十三日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

中井ノ奉天省借款交渉ニ対スル日本政府ノ意

向伺出ノ件

第一三三號

往電第一二二號ニ関シ本官ハ中井ニ斯ノ如キ条件ニテ契約ヲ結ビ調金ノ見込確カナリヤト問ヒタルニ同人ハ本官電報東京ニ達セハ資金調達ノコトハ直ニ行ハル、様外務省及大蔵省ニテ配慮セラル、答ニナリ居レリト申居レリ本官ハ貴電第一一號ニ顧ミ中井ノ右ノ話ハ甚タ疑ハシト認ムルノミナラス帝國政府ニ於テ別電ノ如キ我方ニ利益ノ尠キ条件ニテ大借款ヲ援助セラル、コトナカルヘキヤニ思考スルモ果シテ

ナルニ付御含置相成度シ

四三 一月二十五日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天省借款ニ関シ張都督トノ會談報告及中井ノ関与ヲ中止セシムル様稟請ノ件

附記 大正二年十二月十三日落合總領事發牧野外務大臣宛電報第二四一號

奉天財政司ヨリ五百万円借款ニ付意見ヲ求メ来レル件

第一四號

貴電第一一號ニ関シ一月二十五日張都督ヲ訪ヒ中井ノ借款談ノコトヲ尋ネタルニ都督ハ姓名ハ記憶セサルモ中井ナラント思ハル、日本人ヲ先日引見シタルコトアリ之ハ借款ニ關係シタル次第ナルモ都督ト同人トノ間ニ借款ヲ纏メタルガ如キコトナシト答ヘタルニ付本官ハ當省借款談ニ關スル成行ヨリ往電第二四一號^(註)ノコトヲ挙ケ借款ヲ要セラル、場合ニハ本官ニ相談セラル、コト可然ト述ヘタルニ都督ハ直チニ同意シ當省モ相變ラズ借款ノ必要ニ迫ラレ此ノ前本官ニ依頼シタルヨリモ多額ノ借款ヲ希望セリ目下財政司長病

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 四三

如何ナル御詮議ニ相成居ルヤ心得ノ為電報アリタシ

四二 一月二十四日 牧野外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

中井ノ奉天省借款交渉ニ関スル措置振訓令ノ件

第一一號

貴電第一三三號ニ関シ

中井ハ借款ニ付キ政府ヨリ何等ノ内命ヲモ受ケ居ルニアラズ就テハ貴官ヨリ支那側ニ対シ中井トノ借款談ハ事實ナルヤ否ヤヲ問合セ先方ニ於テ之ヲ是認シタル場合ニハ一個人ヲ對手ニスル話ヲ進メズシテ貴官ト協議スヘキコトヲ説示シ更メテ貴官ニ申出テシムル様御取計アリタク又借款交渉ニ関シ從來ノ行懸上中井ヲ利用セラル、場合ニハ貴官ノ内意ヲ受ケズシテ行動スヘカラサル旨篤ト同人ニ御注意アリタシ將又帝國政府ニ於テハ吉林奉天兩省財政困難ノ實情ニ顧ミ且他國筋ノ借款ヲ防ク為早晚借款ヲ供給スルノ覚悟ナルモ御来示ノ如キ条件ハ到底満足ノモノト認ムル能ハズ就テハ支那側ニ於テ此際真面目ニ借款ヲ希望スルニ於テハ先ツ我方ノ満足スヘキ十分ナル担保ヲ提供セシムルコト必要

氣ニ付快癒ノ上ハ直チニ本官ヲ訪問シ依頼セシメント欲シ居レル次第ナリト答ヘタルニ付本官ハ所要金額ト之ニ相当スル担保ヲ考慮ノ上本官ニ依頼アラハ本官ハ及ブ限り成立ニ尽力スヘシト告ケ置キタリ愈々支那側ヨリ借款談ヲ申シ出サバ中井借款談トハ全然別ノモノト為スヲ要スヘキハ勿論是迄ノ成行及ヒ中井ノ運動振ニ顧ミ同人ヲ此上當省借款問題ニ關係セシムルハ得策ニアラスト認ムルニ付本省ヨリ中野ニ中井ノ如キ借款談ハ政府ニ於テ後援ヲ与ヘラル、限リニ非サル旨御申聞ケノ上同人ニ於テ断念スル様御取計相成タシ

註 大正二年落合總領事來電第二四一號附記トシテ左ニ掲載ス(附記)

大正二年十二月十三日在奉天落合總領事發

牧野外務大臣電報

奉天財政司ヨリ五百万円借款ニ付意見ヲ求メ

来レル件

第二四一號

当地三井主任ハ先日王財政司長ヨリ五百万円ノ長期借款(利率五分担保ハ年額六〇〇、〇〇〇円程ノ牛馬稅ノミ)

ノ相談ヲ受ケタル所斯カル条件ニテハ相談ニ応スル迄モナシト考ヘタルモ一応山本條太郎ニ問合せタルニ十二月十二日電報回答ニ依レハ其条件ハ到底支那側ニ伝ヘ得ラルルモノニアラス此儘謝絶スヘキヤト思フモ一応本官ハ兎ニ角押問答ナリトモ試ミ直ニ話ヲ打切ラヌ様取計ヲ希望スル旨答ヘ置ケリ然ル所同日夕方財政司長ハ民政長ノ命ニ依リ本官病氣見舞トシテ来訪シ本官ハ輕快ニ付引見シタル所王ハ先般ノ朝鮮銀行借款カ当方ニ尽力ヲ煩ハシタル儘立消トナレハ民政長ニ於テ本官ニ対シ済マズト思ヒ居レルニ付一、〇〇〇、〇〇〇ニテハ不足ナレトモ利権ニ関スル附帯条件ヲ全ク別ノ話トシテ借款丈ノコトトシテ再ヒ交渉スルカ又ハ此前ノ如キ交渉振ヲナスナラハ金額ヲ増シテ五百萬トナスコトヲ得ヘキヤ本官ノ意見如何ト問ヒタルニ付本官ハ斯ノ如キ質問ヲセラルルヨリモ本省借款是迄ノ額ト財政上ニ於ケル本省ノ信用程度等ヲ十分ニ攻究シ資本家ニ於テ相談ニ応シ得ラルヘキ相当程度ニ於テ如何ナル条件ニテ如何程ノ借款ヲナシタシト具体的ニ相談セラルル方可然ト答ヘタル所王ハ能ク攻究ノ上近日改メテ相談ニ来ルヘシト答ヘタリ

右北京へ郵送

四四 二月四日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

五百萬圓借款ニ関シ奉天省財政司長来談ニ対シ担保ニ付攻究方説示ノ件

第二二号

往電第一九号ニ関シ財政司長二月四日来訪借款ニ付キ本官ニ対シ正式依頼ヲ為スニ先ダチ大体腹案ヲ作り予メ北京政府ノ承諾ヲ得置ク必要アルニ付キ内々本官ノ意見ヲ承リタキ旨ヲ述ヘ且五百萬圓ノ長期借款ヲ起シ大倉組満鉄ノ短期借款ハ右ノ内ヨリ弁償シ尚利権開發ニ使用シタキ旨ヲ語レルニ付キ本官ハ本省借款談ニ関スル從來ノ沿革ヲ説キ利率手取額等ハ大体ニ於テ定マレル本省ノ信用程度ヲ標準トシテ銀行トノ間ニ協定スルコト困難ナラサルモ五百萬ノ借款ニ相当スル担保品ヲ發見スルコトハ本省ニ於テ容易ナラサルヘシト思考ス故ニ担保品ノコトハ特ニ講究ヲ要シ若シ担保不足ノ場合ニハ他ニ更ニ出資者ヲ安心セシムヘキ方法ヲ設クル必要アルヘシ又以前借款談ト同時ニ提議シタル合併事業ニ関スルコトモ水田事業ニ付テハ一応承諾ヲ得タル次

第ナルカ尚其ノ他ニ関シテモ亦借款談ト共ニ相当協定スル必要アルヘシト述ヘ置キタリ

四四 二月四日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天省借款ノ条件ニツキ意見具申ノ件

附記一 大正二年十月二十一日牧野外務大臣發落合總領事宛電報第一四八号

朝鮮銀行ヨリ百萬圓ノ奉天省借款供与ノ条件ニ関シ訓令ノ件

二 大正二年十月二十四日牧野外務大臣發落合總領事宛電報第一五〇号

同右件

第二三号

当省借款談モ遠カラス具体的ノ交渉ニ入ラントスルニ付テハ御詮議ノ次第成ルヘク速ニ承知致シ置キタシ且下都督兼民政長及財政司長ハ共ニ親日主義ノモノト認ムルニ付成ルヘク我ニ有利ナル条件ヲ以テ借款ヲ纏ムルコトハ今日恰モ好時機ナリト認ム且当省借款ニ付テハ外国筋ヨリ時々運動アル外近頃本邦人ニモ多数手ヲ出サントスルモノアリ且其運動区々ニ亘リ甚タ好マシカラサル事態ヲ生シ居レルニ付

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 四五

長ク此儘ニ放任スルハ不可ナリト思考ス本官ハ今回ノ借款談ヲ機會トシテ水田合併事業及当省民政長若クハ財政司長ノ下ニ本邦人ヲ傭聘セシムルコトハ之カ実行ヲ見ル様尽力セント欲ス但シ客年十月二十一日附貴電第一四八号ノ条件ハ當時頗ル苛酷ニ過クルト認メラレタル次第ナレハ今回ハ借款申込額モ多キニ付成ルヘク多大ノ利権獲取ニ努力スヘキモ尚右ノ事情御斟酌置キアラシコトヲ請フ

註 大正二年十月二十一日牧野外務大臣發電報第一四八号及同年十月二十四日同大臣發電報第一五〇号ヲ附記トシテ左ニ掲載ス

(附記一)

大正二年十月二十一日牧野外務大臣發落合總

領事宛電報

朝鮮銀行ヨリ百萬圓ノ奉天省借款供与ノ条件ニ関シ訓令ノ件

第一四八号(至急)

貴電第二一〇号ニ関シ(一)専採區域擴張ノ件ハ此際一先撤回スベキモ他日更メテ提議スル考ニ付其際ニハ必ス商議ニ応スベキコトヲ書面ニテ約束セシメ置度又(二)米輸出ニ関シ防

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 四六

穀令ノ運用ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ相談スルコトハ同意スベキニ付以上二点譲歩ノ交換トシテ先方ヲシテ水田以外ノ一般産業（例ヘハ大豆、甜菜、柞蚕、森林、鉱山等）ニ付テモ水田同様ノ趣旨ニ依リ合併経営ヲ承諾セシメ其ノ他ノ細目ハ貴官ノ裁量ニ依リ成ルベク急速ニ纏ムル様十分御尽力相成タシ

（附記二）

大正二年十月二十四日牧野外務大臣発在奉天

落合総領事宛電報

奉天省ニ対スル鮮銀百万円借款供与ノ条件ニ

関スル件

第一五〇号

貴電第二一二号ニ関シ水田以外ノ産業ニ付テハ支那側ノ応諾スル程度ニ止メ強テ主張セサルコトトシ差支ナシ尚水田ニ関シテハ支那側ヲシテ為念書面ヲ以テ水田合併事業ニ関係ヲ有スル本邦人ノ内地ニ居住シ土地ヲ租借スルコトヲ認メシメ置度ニ付右御含ノ上可然御措置相成タシ又貴電第二一三号ニ関シ利率期限及跡引受ニ付テハ目下出京中ノ木村鮮銀理事大蔵次官ト打合ノ結果委細了解シ其旨本店ニ電報

一〇〇

セルニ付中村ヲシテ本店ニ電照セシムル様御取計相成タシ

四六 二月五日 牧野外務大臣ヨリ
在奉天落合総領事宛（電報）

奉天吉林兩省借款交渉ノ為奉天財政司長ヲ東京へ派遣スル様奉天都督へ交渉方訓令ノ件

附記 奉天借款交渉成行ニ関スル政務局調書

第一七号

貴電第二二二号及第二二三号ニ関シ帝國政府ニ於テハ奉天吉林兩省借款共ニ之ニ応シ度希望ナル処其条件、使途、貸出方法等ニ関シ支那側当局者ト当方関係ノ向々ト直接商議スルコトヲ得バ最モ好都合ナルニ付張都督ニ於テ財政司長ニ兩省借款商議ニ関シ或程度迄ノ権限ヲ与ヘ当地ニ出張セシムルコト出来マジキヤ至急御問合ノ上電報アリタシ若シ右様ノ義運ビ難キニ於テハ当省ヨリ芳沢総領事ヲ貴地ニ急行セシメ本件ニ関スル帝國政府ノ希望計画等詳細貴官ニ伝達セシムヘキニ付其上ニテ支那側ニ開談アリタシ

（附記）

奉天借款交渉成行ニ関スル政務局調書

（大正三年二月初旬調）

大正二年四月二日奉天支那官憲ハ落合総領事ニ対シ具ニ同省財政窮乏ノ実情ヲ訴ヘ焦眉ノ急ニ応スル為ニ百万乃至三百万円融通方斡旋アリ度旨申出タリ先是支那官憲ハ或ハ無担保短期八十万円ノ借款ヲ正金銀行ニ申込ミ或ハ八旗所有地ヲ担保トスル五百万円借款ヲ三谷末次郎ナル者ニ申込ミタルノミナラス英米兩國ノ資本家ト開談シタル模様モアリタルニ付帝國政府ハ本邦資本家ヲシテ之ニ応セシメント欲シ四月五日同総領事ニ対シ右借款条件ヲ突止ムヘキ旨ヲ電訓シタリ

然ルニ支那官憲ハ右条件ノ回示ヲナスコトナク五月九日更ニ滿鉄会社ニ対シ百万乃至二百万円若シ止ムヲ得サレハ四五十万円ニテモ苦シカラサルニ付至急融通アリ度旨申込ミタリ同社ニ於テハ政府ノ同意ヲ得テ同十六日奉天ノ商埠地及電話、電燈兩事業ヲ担保トシ且其費途ヲ行政費ニ限局スルニ於テハ六十万円ノ融通ヲ為スモ差支ナキ旨ヲ回答シ其結果省議會ノ同意ヲ經テ五月二十九日正式契約ニ調印シ同三十一日現金ヲ交付セリ

右小借款ノ成立ハ未タ以テ窮乏ノ極ニ達セル奉天ノ財政ヲ救済スルニ足ラサルヲ以テ支那官憲ハ六月上旬又々本溪湖

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 四六

煤鉄公司總弁島岡ヲ通シテ大倉組ニ対シ採木公司支那側持分ヲ担保トスル百万円乃至二百万円借款ヲ申込ミタリ然レトモ大倉組カ利権トシテ別ニ本溪湖城廠間ノ輕便鐵道布設権及沿線鉱山採掘権ヲ要求シタル結果談判不調ニ了レリ

然ルニ其後七月二十七日交渉使ハ井原領事ニ対シ極メテ内密ニ支那側ハ目下奉天ニ於テ英國商人ト契稅及煙草稅ヲ担保トスル百万磅借款ヲ交渉中ナル旨ヲ洩シタルニ付南滿洲ニ於ケル我特殊ノ地位ニ顧ミ同領事ニ電訓シ張都督ニ対シ外債ヲ起サントスル場合ニハ必ス本邦側ニ商議スヘキ旨前都督時代以來屢々支那官憲ノ声明シタル事實ヲ指摘シ英國借款ノ実否ヲ確ムルト共ニ万一内密借款ヲ起スカ如キコトアラハ本邦側ヨリ強硬ナル反對ヲ蒙ルヘキ旨ヲ警告セシメタルニ同都督ハ七月廿九日右借款談ノ事實無根ナル旨ヲ陳弁シ借款ノ必要アル場合ニハ必ス先ツ交誼上日本ノ援助ヲ求メ日本ニテ不可能ノ場合ニ初メテ他國ト相談スヘキモ此場合トテ内容ハ必ス日本ニ通知ス可シ云々ト言明セリ次テ八月五日支那側ハ正式ニ採木公司持分ヲ担保トスル百万円借款ヲ朝鮮銀行ニ申込ミタルカ同銀行ニ於テハ別ニ附帶利権トシテ松花江上流長白山地方森林採伐許可ヲ条件ト

一〇一

シテ提議シタル為交渉行悩ミ鮮銀側モ一先ツ手ヲ引クニ至レリ

九月十七日財政司ハ落合総領事ニ対シ奉天省現在ノ財政状態ヲ述ヘ不遠期限到着スヘキ短期外債ノ償還、交通銀行ノ二百萬元借款其他武器等ノ購入代金支払及銀行設立ノ必要ノ為諸税ヲ担保トスル一千万円ノ大借款ヲ起シ度ニ付日本資本家ヲシテ之ニ応セシムル様尽力アリ度旨ヲ述ヘ次テ十月上旬再ヒ右大借款ノ外ニ焦眉ノ急ニ応スル為百万円ノ小借款ヲ至急成立セシムル様配慮アリ度旨ヲ申込ミタリ
仍テ帝国政府ハ正金銀行ヲシテ右小借款ニ応セシメントシタルモ同行ハ資金欠乏ノ為之ニ応シ難シトノコトナリシヲ以テ再ヒ朝鮮銀行ヲシテ左記ノ条件ヲ以テ貸出サシムルコトニ決定シ十月十七日右支那側ヘ申入方在奉天總領事ニ電訓スル所アリタリ

一、金額 百万円

二、期限ニ至リ元利償還ナキトキハ採木公司支那側出資額ヲ貸主ノ名義ニ引直スコト

三、担保

(一)採木公司支那側配当金

リ

然ルニ此際許世英民政長ニ任セラレテ来任シ同人ノ意見ハ便法ヲ求メテ一時ヲ凌キ右小借款ノ交渉ヲ中止シテ直ニ一千万円大借款ノ商議ヲ為ス希望ナリトノコトナリシヲ以テ南滿借款ニ関スル從來ノ行懸ヲ指示シテ一応奉天支那官憲ノ注意ヲ喚起スルト同時ニ他方在支公使ニ電訓シ至急支那当局ニ対シ南滿ニ於ケル借款ハ必ス先ツ我方ニ申込ムヘキ筋合ナルニ付帝国政府ハ支那政府ノ奉天借款ニ関シ恣ニ他国筋ト交渉ヲ進ムルカ如キコト無之ヲ期待スル旨ヲ声明セシメ且ツ滿洲諸税ヲ輕々敷他国借款ノ担保ニ充ツルコトナキ様嚴重警告ヲ与ヘシメタリ
而シテ其後支那側ハ我提案ニ対シテハ何等回答ヲ与フルコトナク十二月上旬三井ニ対シ五百万円ノ長期借款ヲ申込ミタルカ双方ノ条件懸隔甚シク真面目ナル交渉案件トナルニ至ラスシテ立消トナレリ

然ルニ十二月廿九日在京中野次郎ヨリ五百万円借款新ニ朝鮮銀行トノ間ニ談合纏リタル旨在奉天中井喜太郎ヨリ電報アリタル趣内報アリタルヲ以テ事実ノ真相取調方落合ニ電訓シタル処右ハ何等カノ間違ヒニテ未タ其運ニ至ラサルコ

(二)木材局收入

四、附帶利権

(一)採木公司專採区域擴張

(二)奉天省内ノ水田經營ニ日支合弁会社ノ設立ヲ認メ其米穀ノ輸出許可

然ルニ支那側ニ於テハ附帶利権タル專採区域擴張ノ義ハ都督ノ權限外ノ事項ニ属スルヲ以テ借款ニ關係セシメサルコト、ナシ水田合弁ノ件ハ協議ニ応スヘキモ其生産米輸出ノ件ハ防穀令ノ運用ヲ妨ケサル範圍内ニテ相談ニ応シ度旨ヲ申出タル旨電報アリタルニ付折返シ十月廿一日落合總領事ニ対シ(一)專採区域擴張ノ件ハ他日商議ニ応スヘキ旨ヲ書面ニテ約セシムルノミニテ一先ツ撤回スヘク(二)米穀輸出ノ件ハ支那側申出ニ同意差支ナキガ以上二点讓歩ノ交換トシテ水田以外一般産業ノ合弁經營ヲ承諾セシムヘキ旨ヲ電訓シタル処支那側ニ於テハ焦眉ノ急ニ要スル小借款ニ過大ノ利権附帶セルモノトシテ喜ハサル模様ナルヲ以テ更ニ同總領事ニ対シ水田以外ノ産業合弁ハ強テ主張スルニ及ハサルモ水田ニ付テハ為念支那側ヲシテ書面ヲ以テ該事業關係本邦人ノ内地居住土地租借ヲ承認セシメ置クヘキ旨ヲ訓令セ

トヲ確メタルカ次テ大正三年一月廿三日ニ至リ中井ハ落合總領事ヲ訪ヒ張都督ヲシテ出產銷場兩税ヲ担保トスル五百万円借款ヲ承諾セシメタル旨ヲ報告シタル趣ニテ帝国政府ニ於テ右借款ヲ援助スルヤ否ヤヲ問合セ来リタルニ付一月廿四日同總領事ニ対シ中井ハ借款ニ付政府ヨリ何等内命ヲ受ケ居ルニアラサルニ付支那側ニ対シ右借款談ノ真偽ヲ確メ先方ニ於テ之ヲ是認シタル場合ニハ一個人ヲ相手ニスル話ヲ進メスシテ帝国領事ト協議スヘキコトヲ説示シ帝國政府ニ於テハ吉林奉天兩省財政困難ノ実情ニ顧ミ且他国筋ノ借款ヲ防ク為早晚資金供給ノ覚悟アルモ右様ノ条件ニテハ到底満足ノモノト認ムル能ハサルニ付支那側ニ於テ此際真面目ニ借款ヲ希望スルニ於テハ先ツ我方ノ満足スヘキ担保ヲ提供セシムルコト必要ナル旨ヲ電訓シタリ然ルニ張總督ハ右事実ヲ否認シ借款ノ必要依然トシテ急迫シ居レルヲ以テ追テ条件ヲ定メ同總領事ニ申込ム可キ旨ヲ回答シタル由ナリ

註1 前掲四五文書附記一

2 同右文書附記二

四七 二月九日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛

奉天省借款二関シ交渉ノ成行報告ノ件

附 記

大正二年四月二十三日附落合總領事發牧野外務

大臣宛機密公第一〇六号

奉天省借款ノ担保トシテ提議セラレタル随欠地

伍田地ニ関スル件

機密公第二六号

(二月十九日接受)

大正三年二月九日

在奉天

總領事 落合 謙太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

客年七月本官帰朝ノ際奉天交渉署長于冲漢ハ本官ニ対シ当
省ニ於テ近々五百万円借款ヲ起スノ必要アルコトヲ述ヘ該
借款ガ日本側ヨリ成立スル様幹旋方依頼シタルコトハ帰朝
中閣下ニ上申シテ御詮議ヲ稟請シ置キタル次第第二有之之ト
同時ニ本官帰朝中具体的ノ問題トナリタル朝鮮銀行ニ関ス
ル百万円小借款ノコトニ就テモ種々稟議シタル廉有之婦任
以後當時ノ奉天財政司長趙臣翼ヨリ前記大小二種ノ借款依
頼ヲ受ケ緩急ノ順序ニヨリ先以テ小借款ノコトヲ商議スル

コト、ナリ交渉数月ニ渉リタル処当省民政長交迭ノ為借款
方針ニ変化ヲ来シ孰レモ成立ニ至ラスシテ中止ノ姿トナリ
タル次第第二有之候

許新任民政長ハ其後王財政司長ヲシテ前記二種類ノ借款ニ
関シ本官ニ依頼セシメント為シタルコトアルハ其節報告致
置タル如クニ有之併シ爾来孰レノ借款モ未タ具体的商議ニ
入ルニ至ラスシテ今日ニ至リ候

此間張都督及許民政長ハ以前ヨリノ大方針タル行政整理經
費節減ノ実行ヲ益々進メ其結果今日ニ於テハ歲計上ニ於テ
収支償フコトヲ得ルニ至リタリト称シ居ルモ尚ホ仕払延滞
セルモノ少ナカラス又満鉄大倉組等ヨリ起シタル短期小借
款ハ追々償還期ニ近ツキ加フルニ經費ノ増加ヲ惹起サント
スル事情ハ絶エス存在スルヲ以テ財政当局者ノ弥縫遣繰頗
ル困難ナルモノ、如ク到底纏マリタル臨時收入アルニアラ
スンバ收拾スヘカラサル情態ナル処此際北京政府ヨリ多少
著シキ金額ノ補給ヲ得ルコトハ先以テ覺束ナク矢張り外債
ニヨルノ外方法無之ト認メラル、次第第二有之候

然ル処当省ノ当局者ハ趙爾巽ガ總督タリシ時代ヨリ本官ノ
要求ニ対シ本官ニ対シ凡ソ外債ノ必要アル場合ニハ先以テ

日本側ニ相談スヘシトノ言質ヲ与ヘ居リ本官ニ於テハ此言
質ガ当局人ヲ代ルトモ遵奉セシムル様隨時必要ノ処置ヲ執
リ来リ時々独逸其他外国筋ヨリ借款談ヲ提起セル形勢アル
トキハ直ニ右ノ言質ヲ捉ヘテ之カ成立ヲ防止スルコトニ尽
力シ幸ニ今日迄ハ右言質通り実行セラレ居ル次第ナル処該
言質モ無論口頭ニ止リ書類ニ存スルニアラス且其内容モ当
省ニ於テ借款ノ必要アラハ先以テ日本側ニ相談スヘシト云
フニ止リ日本側ニ於テ商議成立セسنハ他国側ニ相談スル
ノ自由ヲ保留シ居リ候次第ニツキ實際財政ノ窮乏ニ迫レル
場合日本側ニ於テ相当ノ条件ヲ以テ借款ヲ成立セシメ窮乏
ヲ救済スルコトヲ實現スルニアラズンバ当方ノ目的ヲ達ス
ルコト覺束無キ次第ニツキ適當ノ場合ニ相当ノ条件ヲ以テ
借款ヲ成立セシメ支那側ヲシテ我ニ信頼セシムルト共ニ財
政困難ニ乗シ他国筋ノ利権設定セラル、カ如キコト無之様
取計フコト必要ノコトニ存候

斯ル形勢ナルヲ以テ当省ノ官憲ニ近ツケル日本人ニシテ或
ハ支那側ノ運動者ヨリ申込ヲ受ケ或ハ自ら進シテ支那側ニ
申込ミ以テ当省ノ借款運動ヲ為スモノ一二ニ止マラサル処
其系統及目的ノ区々ナルニ從ヒ運動モ区々ニ岐レ甚タシキ

徑庭アリ即チ本邦ノ資本家ト連絡アル者ハ資金供給ノ点ニ
於テハ確實ナルナランモ支那側ニ提出セントスル条件頗ル
苛酷ニシテ殆ント談判ノ端緒ヲモ開キ難キモノニ係リ之ト
反対ニ先以テ支那側ト話ヲ纏メンコトヲ主トシテ之ニ腐心
スル者ハ巨額ノ借款ニ対シ輕易ノ条件ヲ提出シタトヒ支那
側ノ同意ヲ得ルトモ之ニ必要ナル資金ヲ得ルノ心当モ確カ
ナラサルガ如キ有様ニテ孰レモ成効ノ望無之ノミナラス斯
ノ如キ運動ノ引続キ行ハル、ヲ放任スルハ支那側ニ対スル
政策上ヨリモ弊害アリテ利益無之ト思考セラレ候
然ルニ先般来右様ノ運動頻リニ行ハル、ノ状況アリ甚憂慮
致居候処電報往復ノ上先般御訓電ニヨリ当省支那官憲ニ対
シ借款ヲ必要トセハ一個人ヲ相手トセス本官ニ申込ヘキ旨
勧告シタル処既ニ電報シ置キタルカ如ク張都督ハ目下当省
ニ於テ不相變借款ノ必要ニ迫レルニ付近日ノ内財政司長張
翼廷病氣恢復次第本官ヲ訪ヒ借款幹旋方依頼セシムヘシト
答ヘ其後財政司長ハ病氣全快シタルヲ以テ新任ノ挨拶ノ為
本官ヲ訪問シ来リ本官之ニ答訪シ其機會ニ借款談ノ端緒ヲ
開クコト、ナリタルハ隨時電報及書信ヲ以テ報告致置タル
通ニ有之候

続テ張財政司長ハ二月四日来訪当省借款ノコトニツキ正式ニ本官ニ依頼スルニ先チ借款ニ関スル諸条件等ニツキ大体ノ腹案ヲ作り之ニ対シ予メ北京政府ノ認可ヲ經置ク必要アルニツキ自分研究ノ為メ本官ノ談話ヲ乞ハントスルモノナリト前提シ尙省借款ノコトニツキ過日來大体ノ談話中所要額五百万円ナル数ノコトヲ語リタルコトアリ同司長モ当省ニ於テハ歲計上収支相償ハサルニアラサルモ短期ノ旧債ヲ償還シ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスル為メ長期ニテ該金額位ノ借款ヲ希望スル次第ナルカ右五百万円ト云フ数ノコトニ就テハ此レ迄当省ニ於テ話ノアリタル次第ナリヤト問ヒタルニ付本官ハ五百万円ト云フ額ハ趙臣翼氏財政司長タリシ時代ヨリ話ノアリタルコトニテ當時大小兩借款ノ議アリ小借款ハ焦眉ノ急ヲ救ハントスルニ必要ナル百万円ノ分ニシテコレハ昨年十月至急ニ成立セサレハ当省ノ財政立行カストノ話アリタルヲ以テ本官モ熱心ニ其レカ成立ノ為尽力シタル処許民政長ノ着任ト共ニ中絶トナリタルモノニシテ尚右小借款ト同時ニ更ニ五百万乃至壹千万円ノ大借款ヲ起シタキ旨依頼アリタルコトアリ次ニ許民政長トナリテ後王黻煒氏財政司長トシテ又本官ニ対シ百万円ノ小借款若クハ五百

万円ノ大借款ヲ起スコトニ付内談セラレタルコトアリタルナリト答ヘ更ニ本官ヨリ今回ノ借款ハ短期ノ旧債ヲ償還シ財政ヲ鞏固ニスル為ナリトノコトナラハ本件五百万円ノ借款成立セハ支那側ニ於テハ追々償還期限ノ迫レル大倉組ノ百万円及滿鉄ノ六十万円ノ借款且張都督カ客年北京ヨリ帰任ノ際交通銀行ヨリ融通ヲ求メ来ラレタリト聞及ヒタル二百万円等ハ皆之ニヨリテ弁済セラル、次第ナリヤ又独逸商人等ヨリ軍器等ヲ購入セラレ其代価未払トナレルモノ随分多額ナル由ノ処是ハ如何セラル、次第ナリヤト問ヒタルニ財政司長ハ滿鉄ヨリノ借款六十万円ノ償還期ハ接近シ来リ大倉組ノ分亦本年十月ヲ以テ償還セサルヘカラス只交通銀行ヨリ融通セシメタル分ハ奉天省ノ伍田整理ヨリ生スル収入ヲ以テ償還スレハ可ナル次第ニテ之ハ急ヲ要スルモノニアラス独逸商人ヨリ購入ノ軍器代等ハ陸軍部ニ於テ始末スヘキモノナリ此後者二種ハ今回ノ借款ヲ以テ償還セントスルニアラサルナリ同司長ノ意見ニテハ凡ソ個人トシテモ数多ノロヨリ種々ノ借財ヲ為シ居ルハ得策ニアラス之ヲ一処ニ纏ムルニ若カス依テ今回ノ大借款成テハ其内ヨリ大倉組、滿鉄ヨリノ借款ヲ償還シ其ノ剰余ヲ以テ利源開発ニ投

セントス奉天省ノ利源少ナカラス多クハ地面又ハ地中ニ存在ス近キ例ヲ挙クレハ隨欠地伍田地莊領地前清皇族ノ所有地等之ヲ整理セハ利多カルヘキガ之ヲ整理スルニ資金ヲ要シ而カモ其ノ資金ハ外資ニヨルノ外無シト認メ居レリト説キ尚ホ同司長ハ今迄五百万円ノ借款談話頭ニ上リタルトキ之ニ関スル条件等ノコトハ研究セラレタルコト無カリシヤト問ヒタルニ付本官ハ之ニ答ヘ五百万円ノ借款談ハ具体的ニ交渉セラレタルコト無ク從テ条件等ノ話ニ及ハサリキ只昨年十月朝鮮銀行ニ対スル百万円ノ小借款談ヲ交渉シタル際担保トシテ鴨綠江採木公司ノ支那側持分及木稅局收入ヲ担保トシ且借款ノ成立ニハ時々支那官憲ニ於テ採木公司採伐区域ノ拡張ニ尽力スルコト水田其他ノ実業ハ広ク日支合弁ヲ許スコト等ノ提議ヲ為シ水田事業ノコトニ就テハ既に承諾ヲ得其他ハ支那側ニテ考究シ置クヘシト答ヘラレタル次第ナリ其後十二月王財政司長ヨリ百万円乃至五百万円借款ノ話アリタルモ具体的条件等ノコトニハ言及セス尚ホ今日迄ノ借款談ノ成行ハ于交渉員ニ於テ詳細承知セラル、管ニテ張都督モ大体ハ知悉セラル、ニ付同官等ニ就テ問ハルレハ明ナルヘシト答ヘタル処張財政司長ハ是迄借款ノ沿革

其他ノ事情ニツキ一向承知セサルヲ以テ可成詳細ノコトヲ承リ今後ノ借款談ニ関スル参考トナサント欲セシナリト述ヘタルニ付本官ハ今日迄ノ經驗ニヨレハ今回ノ借款談ニ付第一ニ考究ヲ要スヘキハ担保品ノコトニアリト考フ利率手取額等ノコトハ当省ノ信用程度モ大体定マレルコトナレハソレヨリ隔絶スルコト無キ範圍ニ於テ出資者タル銀行等ト相談セハ相当ニ纏マルヘキガ担保ノ点ニ至リテハタトヘハ大倉組ノ百万円ニ対シテハ煤鉄公司支那側持分ニ撫順炭坑ノ税金、滿鉄六十万円ニ対シテハ奉天商埠地電氣事業等ソレソレ借款金額ニ相当スル担保品アリ万一償還滞ルコトアラハ直ニ右ノ財産ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得ヘク資本家モ安心シテ投資シ得タル次第ナル処五百万円トナリテハ之ニ相当スル適當ノ担保品アリヤ否ヤ本官ニ於テモ研究シ居レルモ未タ確實ノ意見ヲ有セス租稅ノ如キモノヲ以テ担保トスル意見モアリタレトモ租稅ハ第一ニ当省ノ行政費ニ充テラル、モノニシテ斯ルモノヲ担保ニ取り抵当流トナリタル場合ニ資本家ハ甚タ迷惑スル次第ナリ就テハ担保ノ点ニ付充分ニ資本家ヲシテ安心セシムル様相當ノ方法ヲ考究スルヲ要スヘシ又合弁事業ノコトハ敢テ日本側ニテ当省ノ利權ヲ

遼断セントノ目的ニ出ルニアラス双方利益ノ為漸次実行ヲ見ル様借款ノ有無ニ関セス相談シタシト欲スルコトナレトモ借款ヲ機会トシ之ヲ解決スルコトハ又一ノ便法ナリト認ムルニ付此点モ亦解決ニ至ル様考究スルヲ要スヘシト答ヘ置キ候

本件ニ関シテハ其後御訓電ニヨリ吉林省借款ト一併日本へ商議員派遣方当省官憲ニ勸告致居候其結果未タ判然不致候得共不取敢成行一応及報告候 敬具

本信写送附先 山座公使

註 随欠地伍田地ノ意義性質ニ関シテハ次ニ掲載セラレタル附記参照

(附記)

機密公第一〇六号

大正二年四月二十三日

在奉天

総領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

奉天省借款ノ担保トシテ提議セラレタル随欠

地伍田地ニ関スル件

本件ニ関スル貴電第六五号ニ対シテハ四月二十二日付拙電第八二号ヲ以テ及御回答置候ニ付キ大略御承知之事ニ被存候即チ随欠伍田ノ所在地及ヒ畝数ハ奉天省旗務処ニテ近年調査ヲ遂ケタル委員報告台帳^(註)差進候間御査閱相成度候

本件借款問題發生當時随欠伍田ヲ抵当トスル旨申出来候得共右土地ガ如何ナル性質ヲ帶フル者ナルヤ判明不致候ニ付キ種々調査中佐藤滿鉄公所長ガ取調ヘタル処ニ拠ルニ其權利關係ガ如何ナル状態ニ在ル者ナルヤ不明ナルモ此等ノ土地ハ悉ク農民耕作ニ従事シ居ル者ナル旨談話致候間四月十九日趙財政司来訪ノ際更ニ其実情ヲ問糾シ候処右ハ官有地ナルモ小作人永ラク耕作ニ従事シ居リ且ツ民国ト成リタル結果小作人等ハ一定ノ金額ヲ納メテ完全ニ自己ノ所有地ト為サンコトヲ願出ヅル者アリ即チ此料金ガ一畝二兩乃至四五兩ニシテ平均四兩ニ相当スルヲ以テ之ヲ借款ノ担保ト為サントスル者ナル由説明致候間如斯基關係ノ下ニ在ル担保物ガ抵当流ト為リタル場合貸主ガ小作人ニ相当ノ賠償ヲ与ヘザレバ其土地ヲ自由ニ処分スルコト能ハザルガ如キ物ニテハ到底日本資本家ニ於テハ本借款ニ応スルノ望ミナク又

タ他ニ適當ナル担保ナキニ於テハ省内ノ鉄道布設權若クハ

礦山ノ採掘權ヲ担保トシテ提供スルノ途ナキヤヲ問試候処

此等ノ權利ハ共ニ省議會ノ協賛ヲ得サル可カラサルヲ以テ

頗ル困難ナル旨談話致タルヲ以テ財政窮乏ノ結果資金ヲ外

国ニ仰カントスルニ際シ資本家ノ満足スル担保ナキ場合其

窮乏ヲ救フノ手段トシテ此等權利ノ提供モ亦タ止ムヲ得サ

ルヘク其場合ニハ当局者ハ省議會ノ協賛ヲ得ルノ手段ヲ講

スルノ必要可有之旨談話致置候尚ホ随欠伍田ノ沿革ニ関シ

奉天省財政沿革利弊説明書ニ記載スル処ニ拠ルニ

官ヲ設ケ祿ヲ授クルハ原ト代耕ヲ以テシ古來田ヲ授クル

ノ制ナシ惟タ盛京省ハ旗人ノ根拠地タルヲ以テ国初各旗

官ヲ按シテ田畝ヲ分給シ之ヲシテ以テ自ラ養ハシム將軍

ヨリ下凡ソ協佐禦校ニハ皆ナ随欠ノ地アリテ年ヲ按シテ

租ヲ收メ藉テ津貼ニ資ス云々

此項ノ地段ハ官有財産ノ一種ニ属スルモ然レトモ地畝ニ

肥瘠ノ不同アリ各官ハ往々情形ヲ酌量シテ小作人ト自ラ

租佃ノ増減ヲ行ヒ間々各州県ヲシテ代徴セシムル者アリ

此レ官随欠地ノ性質也云々

又タ兵随欠地ニ関シテ記載スル処ニ拠ルニ

又タ伍田ニ関シテ

伍田ノ一項ハ原ト各旗兵牧馬ノ場所タリ後養馬多カラズ

シテ土地曠廢シタル部分ヲ各旗兵ニ命シテ自ラ耕作セシ

メ牧政ノ經營ヲ以テ屯田ノ計画ニ易エ云々但シ旗兵ハ多

ク自ラ耕作スルコト能ハス遂ニ小作人ヲ招集シテ開墾セ

シメタリ云々

伍田ノ一項ハ本ト官有財産ニ属シ従前旗ニ於テ租ヲ徴シ

專ラ旗兵ノ津貼ニ供セシモ兵丁早ク已ニ現役ニ服セサリ

シヲ以テ各旗ハ之ヲ公務ノ費用及ヒ學務ノ經費ニ使用シ

タリ云々

即チ八旗官吏兵士ノ為メ清朝ニ於テハ彼等ガ其職ヲ奉シ又

タ兵役ニ服スル際特ニ官職ニ附随シテ土地ヲ与ヘ其土地ノ

収入ヲ以テ給与ヲ優ニスルノ手段ニ出テタル者ニシテ此等

ノ土地ハ又タ八旗官兵ガ小作人ヲシテ耕作セシメ小作人ヨ

リ地租ヲ徴取シタルヲ以テ官吏兵士ハ更迭スルモ小作人ハ

變更セズ數百年來因襲ノ久シキ今日ニ於テハ小作人ハ殆ン

ト永代ノ地上権ヲ有スルガ如キ状態ニ立至リ居ル者ニ有之候

本借款ニ関スル爾余ノ条件ハ拙電之通りニ有之候処随欠伍田ハ前陳ノ如キ性質ヲ有スル者ニシテ之ヲ担保トスルハ頗ル不利益ナルヲ以テ此際重キヲ担保ニ置カス拙電第八二号末段之通り別ニ四平街洮南府間ノ鉄道布設権又タハ滿鉄沿線ノ礦山採掘権ノ如キモノヲ副担保トシテ提供セバ借款申出ニ相当考慮ヲ費スヘキ旨ヲ以テ支那側ニ話ヲ持掛クルコト或ハ此等權利獲得ニ一歩ヲ進ムルノ手段トモナリ又タ資本家ニ於テ本借款ニ応セサル場合之レヲ拒絶スルノ好辭柄トモ可相成ト被存候間右報告旁此段愚見申進候 敬具

註 奉天省旗務処調査ノ報告台帳等省略

四八 二月十三日

在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天省借款二付テハ奉天当局ヨリ米國總領事

ニモ相談アリタル件

第二六号

北京發二月十三日奉天宛第一五号

左ノ通大臣ヘ転電セラレタシ

警告セシメラル、コト必要ナラント存ス

四九 二月十四日

牧野外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天省財政司長方借款談ヲ我方以外ノ国ニモ

持廻リ居ルニ付張都督ニ警告方訓令ノ件

第一九号

公使發第一三二号ニ関シ貴官ハ至急張都督ニ面会ノ上最近確ナル筋ヨリ財政司長方他国側ニ借款談ヲ持廻リ居ル噂ヲ聞込ミタル旨ヲ述べ且同電末段ノ趣旨ニ依リ条件ノ要領ヲモ布衍シ奉天借款ニ付テハ現ニ我方ト開談中ナルニ拘ラズ私ニ他国側ニ対シ此種交渉ヲ試ムルカ如キハ如何ニモ不誠実至極ニシテ若シ事実ナリトセバ由々敷事態ヲ起生スルニ至ルベキニ付速ニ手ヲ切ル様嚴重警告ヲ与ヘラルヘシ將又奉天借款ニ付テハ已ニ申入置キタル通本邦側ニ於テ相談ニ応スベキニ付成ルベク速ニ財政司長(又ハ相当相限ヲ有スル者)ノ来朝スルコト出来得レバ最モ好都合ナルモ右運ビ難キニ於テハ芳沢ヲ派遣スヘキニ付支那側ノ意嚮ヲ確カメ結果電報アレ

北京ニ転電アレ

第一三二号

二月十一日米國公使來訪ノ節奉天借款ニ関シ在奉天米國總領事ヨリ報告アリトノ話アリタルニ付二月十二日本使答訪ノ節其一覽ヲ求メタルニ右ハ一月三十日附報告ニシテ其内容左ノ如シ

「財政司長ハ五百万弗ノ外債ヲ起サント努メツ、アリ用途ハ行政費、利子七分五厘、手取り九四、トランサクテング、コミッション三分、担保消費稅土產稅(年額三百万弗ニ達スト云フ)三年据置キ、跡二年ニテ償還、支那官憲ハ初メ日本國銀行ト協議シ居リシガトランサクテング、コミッション分配方ニ関シ議纏ラス破談トナリシ由ニテ若シ之ニ応セントスル米國資本家アラハ支那官憲ハ喜ンテ之レト商議スヘク尚(總領事ノ信スル所ニ於テハ)政府所要材料(何ノ材料カ不明)供給ニ対シ「オブション」ヲ与フヘシ」

米國公使ハ斯ル愚ナル借款談ニハ相手ニナルモノハ無カルヘシト一笑ニ附シ居タルカ右ノ模様ニテハ支那側ハ他ノ方面ニ持廻リ居ルニ相違ナキニ付此際右報道ノ出所ハ嚴ニ秘密ニ且条件モ余リ委シク打明ケシテ落合ヲシテ支那側ヘ

五〇 二月十五日

在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天省借款談ヲ日本以外ノ国ニ持廻リタルコ

トナキ旨張都督陳述ノ件

第二七号

二月十五日張都督于交渉員ト同道來訪シタルニ付貴電第一九号ノ件面談シタルニ都督ハ當省目下五百万円ノ借款談ヲ他国側ニ持廻レリ云々ノ情報ハ全然無根ナリト答ヘタルニ付本官ハ都督交渉員等當省外債ニ関スル本官トノ約束ヲ熟知スル人々ニ斯ノ如キ不誠実ノコトアル管ナシト信スルモ當省官界中ノ人ニシテ内々借款談ヲ別國筋ニ持掛ケ未タ都督等ニ報告セサルモノナシト云ヒ難カルヘキニ付注意ヲ要スル次第ナリト述ヘタルニ都督ハ自分ト交渉員等ニ無關係ニテ當省借款談行ハル、管ナク又張財政司長モ當省ノ借款談ハ第一ニ日本側ト相談スヘシトノ本官ニ対スル約束ヲ十分承知シ居ル故安心アリタシト答ヘタリ尚當省ノミノ借款談ニ関シ財政司長ヲ日本ニ派遣スルコトニ付テハ同司長トモ協議シ尚篤ト熟考ノ上近々何分ノ回答ヲナスヘシト答ヘタリ

在支公使へ転電セリ

五一 二月十七日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天省財政司長ヨリ赴日ハ困難ナル旨竝日本
側ノ借款供与条件承知シタキ旨申出ノ件

第二八号

往電第二七号末段ニ関シ財政司長ハ交渉署長ト共ニ二月十七日来訪シ多忙ノ為日本へ赴キ難キニ付キ借款ノ商議ハ当地ニ於テ行ヒ度キ事且ツ五百万円ノ借款ヲ起シ度キニ付条件ノ大体ヲ打合セ予メ北京ニ電報シテ承諾ヲ得置カント欲ス仍テ本官ノ意見ヲ承知シタキ旨申出テアリ本官ハ早速其筋へ問合ノ上何分ノ回答ヲナスヘシト答へ置キタリ、右北京へ電報ス

五二 二月十九日 井上横濱正金銀行頭取ヨリ
松井外務次官宛

奉天省借款ニ関スル正金銀行大連支店ヨリノ
報告写送付ノ件

附屬書 二月十四日付正金銀行大連支店来翰写
奉天省五百万円借款成立ノ見込ニ関スル中井ノ

府ヨリ利息年五分ニテ朝銀ニ供給セラレ借款ヲ金トナスカ銀トナスカハ未定ノ由ナレトモ落合總領事ハ出シ抜カレタル為メ交渉司派ト共ニ其ノ成立ヲ喜ハス満鉄公所側モ寧ロ反対ノ態度ヲ執リ居候趣ナリシカ本借款ノ成立ハ十中ノ八九迄疑ヒ無之トノ事前記中井、三谷両名面会ノ節小生内閣ニ供シ置候様明言致居候ニ付御参考迄ニ申上度果シテ日本側ニ於テ斯程ニ進行致居候儀ニモ有之候ハ、当行為替關係モ有之候故御確メノ上要領丈ケニテモ電信ヲ以テ御回示被下度候也

五三 二月二十日 牧野外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天省五百万円借款ノ担保及条件ニ関シ回訓
ノ件

第二一号
貴電第二八号ニ関シ差当リ一時ニ五百万円全額ヲ融通シ兼ヌルヤモ計難キモ大部分ハ円銀兌換券ヲ以テ正金ヲシテ貸出サシメ得ル見込ニ付貴官ハ不取敢支那側ニ対シ担保トシテ奉天省ノ雜稅中三国団借款ノ担保トナリ居ル分ヲ除キタル全部ヲ提供シ且別ニ(一)採木公司ノ採伐区域拡張ニ同意ス

大正三年二月十九日

横濱正金銀行

頭取 井上準之助(印)

外務省

次官 松井慶四郎殿

拝啓奉天都督五百万円借款ノ件ニ関シ大連弊支店ヨリ別紙写之通り報告有之候間茲ニ同封供御内覧候 敬具

(附屬書)

大正三年二月十四日付 大連支店来翰写

拝啓政客中井喜太郎(錦城ト号ス)目下奉天ニ滞在致居リ朝鮮銀行ノ別働隊トシテ同地ノ三谷米次郎ヲ介シ張都督財政司ト直接ニ借款五百万円ノ談判ヲ進捗致居リ都督ハ之ヲ財政整理ニ充用致候筈ニテ利息年七分半期限五ヶ年担保ハ烟酒稅(是ハ雜稅ノ一種ニシテ年額八百万円位)ト出產稅(年額貳百万円位)表面九拾四円ナレトモ手取り九拾七円五拾錢即チ參円五拾錢ハ都督以下仲介者ノ Commission トナル筈ニ有之此借款ニ関シテハ中央政府承認ヲ与ヘ居リ日本側ニ於テモ首相並ニ外務大臣承認ヲ与ヘ居リテ資金ハ政

ルコト(一)奉天省内ノ鉞山採掘權ヲ日本以外ノ外国人ニ讓与セサルベキ旨及將來日本人ヨリ相当ノ条件ニ遵ヒ单独又ハ日支人合同ニテ右鉞山採掘許可ヲ申出デタル場合ニハ之ヲ承諾スベキ旨主義上同意スルコトノ二条件並ニ希望条件トシテ日支人合同ニテ奉天省内ニ於テ農業經營ヲ為スコトヲ主義上承諾シ且防穀ノ必要ニ障碍ナキ限り右合同經營ニ依ル產物ノ輸出ヲ特許スルコトヲ承諾スルニ於テハ直ニ本件借款ノ相談ニ応スベキコトヲ申入レ置カル、様致タシ委細ハ兩三日中芳沢ヲ派遣シ貴官ニ伝達セシムヘシ
右北京ニ転電アリタシ

五四 二月二十二日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天省五百万円借款ノ担保及条件ニ関シ張都
督等ニ申入ノ件

第三一号
二月二十二日張都督ヲ訪ヒ財政司長列席ノ上貴電第二一号ノ件申入置キタリ之ニ対シ財政司長ハ第一担保ニ所謂雜稅トハ何ヲ指サル、モノナリヤ往年ノ四国銀行団借款ハ五国借款成立ト同時ニ償還セラレ從テ目下當省ノ租稅ニシテ外

債ノ担保トナレルハ塩税ノ外ニナシト述ヘタルニ付本官ハ
当方ノ提議ハ既ニ担保トナレルモノヲ除キタル総テノ税ノ
コト、考フヘキ旨ヲ答ヘタル処先方ハ今回ノ担保ハ出産税
銷場税ニテ十分ト思考スル旨ヲ主張シ尚一応日本側ノ意嚮
ヲ確メラレタキ旨請求セリ第二採木公司伐採区域拡張鉦山
ニ関スル特権及農業合併事業等ニ関シテハ借款ノ必要条件
ニアラサルニ付本借款ノ商議ニ之ヲ関聯セシメサル様致シ
タキ旨ヲ主張セリ又都督モ採木公司伐採区域拡張ノコトハ
其必要ヲ認め居ルニ付早晚商議ニ応スヘキモ是等モ借款談
ニ附帯セシメントセハ借款問題其モノニ関シ中央政府ノ不
認可ヲ受クヘキコト必然ナルカ故ニ此際ハ之ヲ議セス全然
他日ノ話トセラレンコトヲ切望ス又鉦山ト農業ノ件ハ十分
ニ攻究ノ上何分ノ回答ヲナスヘシト述ヘタルニ付本官ハ本
日提出シタル条件ハ日本側ニ於テ十分熟慮ノ上案出シタル
モノト認ムルニ付其積ニテ慎重ニ攻究シ置カレンコトヲ希
望スルト述ヘ置キタリ
北京へ郵送ス

五五 二月二十五日

牧野外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛

ト主張スルニハ貴電ノミニテハ支那側ヲシテ首肯セシメ難
キニ付尚詳細電訓アリタシ採木公司伐採区域拡張ノ件ハ前
号電報ノ通り到底実行ノ見込ナキニ付之ヲ必要条件トセサ
ルコト且時機ヲ見計ラヒ財政顧問ヲ傭聘セシムル様提議ス
ルコトニ付承認ヲ得置キタシ返電ニ依リ直ニ支那側ト開談
セントス至急電訓セラレタシ

五七 二月二十八日

牧野外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天省五百万円借款ノ担保及条件ニ関シ回訓

ノ件

第二六号

貴電第三二二号末段稟請ノ件承認ス同前段ニ関シ改革借款及
幣制借款ハ各独立ノ借款ニシテ前者ニ後者ノ担保繼承ノ規
定ナキハ無論ノコトナリ而シテ右両借款併合ノ件ハ夙ニ主
義上決定シ居ルモ其実行ニ関シテハ目下関係国間ニ協議中
ナルニ付追テ実行ヲ了スル迄ハ幣制借款ハ依然トシテ効力
ヲ存続スル次第ナリ(支那財政部ハ昨年十月七日付書面ヲ
以テ三国団ニ対シ本年四月十四日迄幣制借款ノ延期ヲ承諾
スベキ旨約束ヲナシ居レリ)將又貴官ハ前貸金ノ弁済ヲ以

二 奉天省借款交渉ニ関スル件 五七 五八

奉天省五百万円借款ノ担保トシテ我方ノ要求
スル租税ニ関スル件

第二五号

貴電第三一号ニ関シ我方ヨリ要求セムトスル担保ハ出産税
銷場税ノ外煙草税及酒税ヲモ含ム(右四税ハ何レモ若干額
ツ、四国借款ノ担保ニ供セラレアリ)次第二付右様御了知
置相成タシ又四国借款前貸金カ五国借款ヨリ支払済トナリ
タルハ事実ナルモ契約其ノモノハ依然有効ナルヲ以テ前記
担保ハ未タ解除セラレタル次第ニアラズ御含迄申添フ 北
京ニ郵送アレ

五六 二月二十六日

在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天省五百万円借款ノ担保及条件ニ関シ請訓

ノ件

第三二二号

芳沢二月二十五日到著シタリ

貴電第二五号ニ関シ調査シタルニ五国借款ニ於テ四国借款
ノ担保繼承ノ規定ナク又四国借款前渡金弁済ニヨリ事実消
滅セル筈ナリ今日当省当局ニ四国借款ノ担保關係存続セリ

テ契約ノ消滅ト見做サレ居ルカ如キモ前貸金ノ弁済ト契約
自身ノ効力トハ別問題ナリ右様ノ次第ニ付幣制借款ハ今尚
有効ニ存続シ從而其担保ハ支那側ノ一方行為ニテ勝手ニ他
ニ流用シ得サル義ト御心得置アリタシ尤モ此際貴官ヨリ貴
地支那官憲ニ対シスル事由ヲ説明シ得心セシムル迄ノ必要
モナカルベキニ付我方ノ条件トシテハ往電第二五号ニ列記
セル四税中已ニ担保トシテ他ニ提供シアル部分ヲ除キタル
モノトナスニ止メ置カレ差支ナシ

本電貴電ト共ニ北京ニ郵報アレ

五八 三月二十四日

在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛

奉天都督英商ヨリ二百萬元借款ノ報道ニ関シ

調査ノ結果回報ノ件

機密公第五五号

(三月三十日接受)

大正三年三月二十四日

在奉天

總領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

奉天借款ニ関スル件

奉天都督カ交通銀行ノ名義ヲ以テ英商ヨリ借款シタル件ニ
関シ本月十二日附機密第二十六号ヲ以テ御申越ノ趣了承致
候当地満鉄公所ニ於テ何等カ承知致居ル処有之ヤモ難計ト
被存候ニ付キ佐藤公所長ニ相尋候処同人ニ於テハ昨年張都
督カ北京ニテ奉天省内ノ隨欠伍田ヲ担保トシテ借款シタル
者名義ハ交通銀行ナルモ其実ハ英商格林生公司ヨリ借入レ
タルモノナル旨ヲ聞込ミタルノミニテ詳細ノ事ハ承知セス
右ハ董審計処長ノ談話ナリシト答ヘ内容承知不致由ニ有之
候又タ本官カ昨二十三日別用ヲ以テ張都督ヲ訪問シタル際
夫レトナク問試シタルモ同都督ハ奉天省ニ於テ借入レタル
外債ハ日本以外ノモノナシト称シ交通銀行借款ニ関シテハ
甚タ曖昧ナル回答ヲ為シ居候又タ先般并原領事力于交渉署
長ト面会シ序ニ於テ隨欠伍田等ノ談話ヨリ不意ニ話頭ヲ転
シ昨年張都督カ交通銀行ヨリ借入レタル貳百萬元ノ担保ハ
隨欠伍田ニシテ其出資者名義ハ交通銀行ナルモ其実ハ英商
格林生公司ナリシト記憶スルガ利息其他ノ条件ハ如何ト于
ノ不用意ニ乗シ探問シタルニ于ハ右資金ハ交通銀行カ回收
ヲ容易ナラシムル為メ英商格林生洋行ノ名義ヲ用ヒタルモ
ノニテ期限ハ一ケ年ナルコトハ承知シ居ルモ借款ノ成立シ

タルハ北京ナレハ同人ハ之レニ干与セサリシ為メ内容ノ詳
細ハ承知セスト頗ル奇妙ナル返答ヲ為シタル由ニ有之候然
ルニ当省ニ於テ外国ヨリ借款スル場合ニハ必ス先ツ日本側
ト相談スルコトニ申合セアル關係上張都督カ日本側ノ抗議
ヲ恐レ交通銀行ノ名義ヲ用ヒ表面ヲ糊塗シタルモノニハ非
スヤト揣摩被致候処借款成立地ノ關係上当地ニテハ詳細ノ
事情判明難致候間北京公使館ニテ内偵相成候ハ或ハ判明
可致歟ト思考セラレ候一応ノ答申旁此段申進候 敬具

本信写送附先 山座公使

五九 四月九日

在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

五百万円借款ニ関連シ我要求条件ハ借款談ヨ

リ切離シ協議シタキ旨奉天財政司長來談ノ件

第五二号

往電第三七号ニ関シ張財政司長四月五日、別ニ八日于交渉
署長ト共ニ來訪当省借款ニ関スル本官ノ申込ミタル条件ニ
付滯京中周財政總長ト談話シタル旨ヲ語り周ハ本官ノ申出
デタル条件ハ借款ニ關聯セシメス別問題トシテ議スヘキモ
ノナリ奉天省ニ於ケル兩國特殊ノ關係上實業上兩國互ニ協

力スルコトハ大体ニ於テ賛成ナル処第一採木公司伐採区域
ノ拡張ハ如何ナル区域迄ナサントスルモノナルヤ拡張後ノ
伐採方法ハ如何ニナサントスルヤ第二水田ニ関スル合弁事
業ハ如何ナル方法ニ依ラントスルヤ等ヲ問ハレタルモ張ハ
出京以前是等ノ事項ニ付詳細本官ト打合ハス所ナカリシニ
付北京ニ於テ答弁スル能ハサリシニ付今ヨリ北京ニ送リ
其指揮ヲ仰クコトヲ要ス依テ本官ノ説明ヲ得タク第三鉱山
ニ関スルコトハ今回ノ借款談ヨリ此際除カレンコトヲ切望
スト述ヘタルニ付本官ハ第一ニ関シテハ在安東領事往電第
八八号第二案ノ区域ヲ説明シ略図ヲ与ヘタリ第二我方ノ提
議ハ水田事業ノミナラス広ク農業ニ関スル合弁事業ナリシ
コトヲ注意シ其水田事業ニ関スル方法及条件等ハ客年前任
財政司長ト交渉シタル次第ナルコトヲ語り第三鉱業ニ関ス
ル件ハ甚タ重大ニシテ之ヲ拒絕セラル、コトアラハ我方ニ
テ借款ニ応スルコトニ同意ヲ得ルヤ否ヤ明ナラス尚右ノ外
別ニ提議セル財政顧問招聘ノコトモ共ニ詮議セラルヘシト
ノコトナリシガ如何ト問ヘルニ先方ハ其事モ都督ヨリ承ハ
リタルカ借款ト關連シ此事ヲ承諾スルトセハ恰モ当省ノ財
政監督ヲ日本國ニ行ハシムルカ如ク感セラレ容易ニ北京政

府ノ承諾ヲ得難キニ付之亦見合サレタシト述ヘタルニ付本
官ハ上述ノ各項ニ付尚十分詮議ノ上回答セラルヘク其曉ニ
テ若シ帝國政府ニ於テ大体満足ナラハ直ニ借款談開始セラ
ルヘク然ラサレハ借款談ノ開始モ困難ナルニ付其積リニテ
慎重ニ攻究スヘシト述ヘ置ケリ于交渉署長ハ他用ヲ以テ居
残り其ノ去ルニ際シ同人一己ノ意見トシテ鉱山ニ関スル当
方ノ申出ハ奉天全省ノ鉱山ニ悉ク日本ノ束縛ヲ受クルコト
ハナルヲ以テ支那政府ニ於テ承諾ニ困難スルモノナルヘキ
ニ付他日特定ノモノヲ挙ケ合弁ノ提議アラハ商議ニ応スヘ
ク又財政顧問ノコトモ借款ト同時ニ決スルコトヲ止メ借款
成立ノ際ハ内約ヲナシ置キ成立後二三ヶ月ヲ經テ別ニ協定
シタルモノトシテ実行スルコト、セハ行ハル、ナラント述
ヘタリ財政司長ハ北京ニ於テ横浜正金銀行代表者ト会見方
周總長ヨリ勸メラレタルモ借款ノコトハ奉天ニ於テ商議中
ナルヲ以テ右会見ノ不必要ヲ認メ之ニ応セサリシ旨ヲ語り
又当省ノ借款ニ関シテハ他國筋ヨリ種々申込ノ次第アリタ
ルモ一切拒絕シ來レル旨内話セリ

北京へ郵報ス

六〇 四月九日 在奉天落合總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

奉天省借款談議繼續方竝正金代表者派遣方稟請
ノ件

第五四号

本省借款談ニ関連シ我方ノ提議シタル利権問題ニ対スル先
方ノ意向ハ往電第五二号ヲ以テ報告シタルガ如ク未タ満足
ト云フヲ得ス特ニ鈺山ノ件ヲ拒絕シ来レルハ甚タ遺憾ナル
モ当初此種問題ニ関シ頗ル頑固ナリシ先方モ漸ク調和ノ方
向ニ傾キ来リタルニ付テハ一方他国筋ヨリ借款談ノ起ルコ
トヲ防禦スル必要上此際本借款談ヲ繼續シ結局成立ニ至ラ
シメンコトヲ希望ス尚愈々借款ニ件フ諸条件ヲ協議スル場
合ニ至ラハ横浜正金銀行ヲ代表シ全権ヲ以テ談判ノ局ニ当
ルモノヲ任命セラルルコト必要ナルヘキニ付相当御詮議置
相成度尚次回ノ会见迄ニ大体御詮議ノ次第承知シ度ニ付本
官心得迄ニ電報アラシコトヲ請フ

六一 四月十三日 牧野外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天省借款ニ関シ協議ノ為武内總支配人代理

クヘシト答ヘタリ大体右ノ申込ニ応シ成ルヘク都合好キ条
件ニテ纏ムル様尽力スルコトトシテ本件談判ヲ開始スルコ
トニ致シタク御詮議ノ次第電報アリタシ

六三 四月二十八日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天省五百萬圓借款ノ条件ニ付訓令ノ件

附記 奉天借款条件

第七二号

貴電第六六号ニ関シ奉天借款契約案及附帶取極案ハ兩三日
中貴官ニ送附シ武内モ貴地ニ出向フ筈ニ付同人ト打合ノ上
交渉ヲ開始セラルヘシ尤モ此際遲滞ナク開談スルコト得策
ナリト認メラル、ニ於テハ左記ノ趣旨ヲ体シ直ニ話ヲ進メ
ラレ差支ナシ

(一)借款ノ名義ハ五国団トノ關係上実業借款トナス方可然ト
認メ奉天省ニ於ケル水田經營其他農工業振興ヲ目的トナス
コト、セリ從テ(二)農工業合併ノ件(工業合併ニ付テハ是迄
支那側ニ申入レザリシモ農業ヲ合併トスル上ハ之ニ件フ工
業ヲモ合併トナシタキ趣旨ニテ特ニ加フルコト、ナセリ)
ハ主要ナル附帶条件トシテ是非共支那側ヲシテ承諾セシメ

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 六三

派遣ノ件

第六三号

貴電第五四号ニ関シ条件商議ノ際ニハ正金ヨリ井上大連支
店長ヲ貴地ニ差向クルコトニ内定シタルモ不取敢近日本
店ヨリ武内總支配人代理ヲ派遣シ貴官ト協議セシムル筈

六二 四月二十一日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

奉天省借款ノ附帶条件ニ関シ于交渉署長ヨリ
北京政府ノ意向伝達ノ件

第六六号

往電第五二号ニ関シ于交渉署長四月二十一日來訪北京ヨリ
電訓アリ第一採木公司区域擴張ハ大体ニ於テ差支ナシ第二
農業ニ関スル合併事業ハ種々ノ弊害ヲ生スル虞アルニ付見
合セタシ第三鈺山合併事業ハ新鈺業条例ニ遵ヒテ三四ヶ所
指定ノ上申出サルナラハ承認スヘシ第四財政顧問備聘ノ
コトハ見合セタシト依テ右ニテ借款ヲ開始シタシト申出タ
リ

本官ハ一旦承認シタル水田事業ノコトヲ拒絕スルハ其意ヲ
得ス再考ヲ望ム旨申込ミタル処成否ハ兎ニ角一応詮議シ置

タシ(一)採伐区域擴張ノ件ハ曩ニ貴官ヨリ到底実行ノ見込ナ
キ旨電稟ノ次第アリ且村田ヨリモ先般出京ノ折余リ必要ヲ
認メサル旨申出アリタルニ付前記合併問題ヲ承諾セシムル
懸引上結局之ヲ撤回セラレ差支ナシ(二)鈺山ノ件ハ鈺業条例
ニ依リ願出ツル義ナラバ此際特ニ約束スルノ必要ナキニ付
日本人單獨願出ノ場合ニモ或ル条件ノ下ニ許可スルコト並
外国人ニ許可スル場合ニハ必ス先ツ日本人ニ優先權ヲ与フ
ルコトヲ確約セシメ置キタシ(三)財政顧問ノ件ハ借款交渉進
行中適當ノ機会ヲ以テ今回ノ通貨紊亂事件ニ関連シテ提議
スルコト、シ最初ヨリ条件トシテ持出サル、ニハ及ハス
右參考トシテ北京ニ転電アリタシ

(附記)

奉天借款条件

- 一、名義、実業振興
- 二、金額、金五百萬圓以内(円銀兌換券但シ通用公認ヲ条
件トスルコト)
- 三、利率、七分
- 四、期限、二十五年乃至三十年
- 五、担保、奉天省雜稅即チ出產稅、銷場稅、煙草稅、酒稅

但已ニ他ノ借款ノ担保トナリ居ル部分ハ其解除セラレ次第何等ノ手續ヲ經ス当然本借款ノ担保トナスコト

六、奉天省内ニ於テ日支人合同ニテ農工業經營ヲナスコトヲ主義上承諾シ且防穀ノ必要ニ障碍ナキ限り右合同經營ニ依ル產物ノ輸出ヲ特許スルコトヲ承諾スルコト
七、将来日本人ヨリ相当ノ条件ニ遵ヒ单独又ハ日支人合同ニテ奉天省内ノ鉱山採掘許可ヲ申出タル場合ニハ之ヲ承諾スヘキ旨主義上同意スルコト尚右鉱山採掘權ヲ外國人ニ讓与スル場合ニハ日本人ニ優先權ヲ与フルコト
本借款交渉中適當ノ機會ニ於テ左ノ二件ヲ申出ツルコト

(一) 奉天省内官私立支那銀行ノ紙幣發行ヲ取締リ引換準備金ノ用意ヲ命スルカ若クハ官憲ニ於テ引換ヲ保証スルコト

(二) 奉天省ノ財政ヲ整理スル為本邦人ヲ顧問ニ傭聘スルコト

註 右奉天借款条件ハ大正三年四月十五日小池政務局長、山崎大藏省理財局長、井上正金銀行頭取及武内總支配人代理協議ノ結果作成セラレタリ

六四 四月二十九日 加藤外務大臣ヨリ在奉天落合總領事宛

奉天借款交渉ニ関シ訓令ノ件

附屬書一 右借款契約案
二 取極案

政機密送第五四号

奉天借款ニ関シテハ現内閣ニ於テ之ヲ詮議シタル処根本ノ貸付方法ニ関シ議論モ有之候得共前内閣ヨリ継続ノ案件ニモ有之旁本借款ニテ別紙取極記載ノ如キ事業ヲ取付クルコトヲ得ハ好都合ニ付本借款ニ限り特ニ引続キ交渉ヲ進ムルコトニ決定相成候間其御含ヲ以テ精々御尽力相成度候別紙甲号契約案ハ貴官支那側トノ交渉ノ基礎トセラルヘキ目的ヲ以テ作成シタルモノニ有之候処右前文中本借款ノ目的ヲ奉天省ニ於ケル水田經營農工業振興ト規定シタルハ五国団トノ關係上実業借款ヲ標榜スルノ趣旨ニ有之第四条第二項ノ規定ハ他日幣制借款五国借款ニ併合セラレタル際現ニ前者ノ担保ニ供セラレアル奉天省ノ四税ヲ本借款ノ担保ニ編入スルノ趣旨ニ有之又第六条ハ将来奉天省官憲カ外國側ヨリ借款ヲ起ス場合ニ先ツ正金銀行ニ協議セシムル趣旨ニシ

度候此段及訓令候也

註 第二次大隈内閣ハ大正三年四月十六日山本内閣ニ代リ成立セリ

(附屬書一)

甲 号

契 約 書 案

奉天都督(以下単ニ都督ト称ス)ハ奉天省内ニ於ケル水田ヲ經營シ其他農工業ヲ振興スル目的ヲ以テ國務院ノ承認ヲ經之カ資金ヲ横浜正金銀行奉天支店(以下単ニ銀行ト称ス)ヨリ借入ルルニ付当事者双方合意ノ上契約スルコト左ノ如シ

第一条 銀行ヨリ都督ニ貸付クヘキ資金ハ円銀五百万円トス

第二条 本契約貸付金ノ利息ハ年七歩トシ毎年六月十五日、十二月十五日ノ兩度ニ都督ヨリ銀行ニ支払フモノトス

但利息ノ支払ハ實際現金ノ受授ノ日ヨリ計算スルモノトス

第三条 本契約貸付金ノ返済方ハ契約締結ノ日ヨリ起算シ

貳拾五ヶ年目ニ終了スルモノトシ第壹年目ヨリ第五年目迄ハ元金据置キ期間トシ第六年目ヨリ第貳拾五年目迄ハ年額円銀貳拾五万円トシ毎年六月十五日、十二月十五日ノ兩度ニ半額宛ラ都督ヨリ銀行ニ仕払フモノトス

第四条 都督ハ奉天省ノ雜稅即チ生産稅銷場稅煙草稅酒稅ヲ以テ本借入金ノ担保トナス

前項ノ諸稅中既ニ他ノ借入金ノ担保トシテ他ノ債權者ニ提供セラレタルモノアレハ該借入金ノ完済又ハ其他ノ方法ニ依ル担保權解除ト同時ニ何等ノ手續ヲ要セス当然本借入金ノ担保タルモノトス

第五条 都督ハ銀行ノ發行スル銀券又ハ金券ヲ奉天省内ノ公私一切ノ取引ニ無制限ニ通用セシムルコトヲ承諾シ此旨一般ニ布告スルコトニ同意ス

第六条 奉天省官憲カ支那以外ノ銀行又ハ資本家ヨリ資金ノ融通ヲ得ントスルトキハ其名義ノ如何ニ拘ラス必ス先ツ銀行ト協議スルモノトス

第七条 本契約貸付金交付ノ場所及ヒ元利金返済ノ場所ハ奉天トス

第八条 本契約書ハ日支兩文ニテ各 通ヲ作成シ云々

六五 四月三十日 井上横浜正金銀行頭取ヨリ
小池政務局長宛

奉天借款ニ関シ小田切取締役等へ電訓ノ次第報告ノ件

附屬書一 四月三十日在北京小田切取締役宛電信写
二 四月三十日伊東奉天支店支配人宛電信写
三 四月三十日井上大連支店支配人宛電信写

大正三年四月三十日

横浜正金銀行

頭取 井上準之助(印)

政務局長 小池張造殿

拜啓奉天總督借款ノ件ニ関シ在北京小田切取締役、井上大連支店支配人、伊東奉天支店支配人へ別紙写之通り電訓致候間右写供御内覽候 敬具

(附屬書一)

在北京小田切取締役宛電信写

四月卅日横浜発

今回奉天借款 S. ¥. 5,000,000—政府ニ於テ貸出方決定本行契約当事者タルコト、ナリ武内金平其筋ノ内命ニ依リ在

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 六五

(附屬書二)

乙 号

取 極 案

第一条 支那官憲ハ奉天省内ニ於テ日支兩國人合同シテ農工業ノ經營ヲナスコトヲ承認シ又防穀ノ措置ニ障碍ヲ及ホササル限り右合同經營ニ係ル生産物ノ輸出ヲ特許スルコト

第二条 将来日本人ヨリ相当条件ヲ以テ单独ニ又ハ支那人ト合同シテ奉天省内ノ礦山採掘ヲ出願シタル場合ニハ支那官憲ニ於テ之ヲ許可スルコト又支那官憲ニ於テ奉天省内ノ礦山採掘ヲ外國人ニ許可セムトスル場合ニハ日本人ニ優先權ヲ与フルコト

第三条 支那官憲ハ奉天省内官私立支那銀行ノ銀行券發行ニ関シ其監督ヲ嚴重ニシテ是等銀行ヲシテ常ニ相当正貨ヲ準備セシムヘキハ勿論方一ノ場合ニハ支那官憲代リテ右銀行券ノ兌換ヲナスコトヲ保証スルコト

第四条 支那官憲ハ奉天省ノ財政ヲ整理スル為ノ顧問トシテ日本人 名ヲ傭聘スルコト

本取極ハ日支兩文ニテ各 通ヲ作成シ云々

奉天總領事並ニ井上一男ト打合ノ為メ本日出發。本借款ハ実業借款ト為ス必要ノ為メ契約案文ニハ奉天省内ニ於ケル水田開墾其他農工業振興ヲ目的トス云々ト記載有之併シ之レノミニテハ実業借款トスルコト不充分ト考ヘ水田事業ノ場所ヲ指定スルカ又ハ水田事業ノ方法規定スルコトヲ希望シツ、アルモ若シ此希望達スルコトヲ得ス案文ノ儘トスレハ本行ハ五国団体規約上契約當事者トナルコト如何アルヘキヤ意見詳細電報セヨ契約書草案四月二十七日發送。頭取

(附屬書二)

伊東奉天支店支配人宛電信写

四月卅日横浜発

總督借款其筋ニ於テ決定武内金平其筋ノ内命ヲ帶ヒ總領事及貴殿ト打合ノ為メ本日出發就テハ貴殿ハ總領事ト協議ノ上井上一男ト共ニ先方ニ対シ交渉ノ任ニ当ラレタシ 頭取

(附屬書三)

井上大連支店支配人宛電信写

四月卅日横浜発

奉天借款其筋ニ於テ決定武内金平其筋ノ内命ヲ帶ヒ總領事及貴殿ト打合ノ為メ本日出發貴殿ハ同人到着時日見計奉天

一二三

へ出張総領事ト協議ノ上伊東小三郎ト共ニ交渉ノ任ニ当ラ
レタシ 頭取

六六 五月二日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛

奉天借款契約案第五條中修正ノ件

政機密送第五六号

奉天借款契約案ノ儀ハ四月二十九日付政機密送第五四号ヲ
以テ及御送付置候処該契約案第五條中「銀行」ナル文字ハ
正金銀行ヲ指ス趣旨ナリシモ本條ノ適用ヲ朝鮮銀行發行ノ
銀行券其他將來滿洲ニ於テ設立セラル、コトアルベキ我銀
行發行ノ銀行券ニモ及ホスコト得策ト相認メ該文字ハ之ヲ
「日本國銀行」ト改ムルコトニ決定致候間右様御承知ノ上
契約案修正相成度此段申進候也

本信与送付先 在支公使

六七 五月九日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

奉天借款ノ附帶條件ニ関シ北京政府ニモ勸誘

アリタキ旨奉天当局ヨリ申出ノ件

第八八号

ラルル様願ヒタシト申立タリ本件ニ付テハ在支公使ヨリモ
相当助力アル様切望ス

小田切へハ横浜正金銀行出張員ヨリ電報ノ答

以上北京へ電報シタリ

六八 五月十一日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天借款ノ附帶條件ニ関シ北京政府ノ承諾ヲ

得ル様尽力方在華公使ニ訓令ノ件

第八二号

左之通北京ニ転電アリタシ

第二三二二号

落合發第八八号ニ関シ政府ニ於テハ今回ノ奉天借款ノ条件
ト為シタル利権ハ是非共獲得シタキ考ナルヲ以テ其御含ニ
テ中央政府ヲシテ我提案ヲ承諾セシムル様十分御尽力相成
タシ

六九 五月十四日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

奉天借款条件ニ関シ周財政總長小田切取締役

ニ談話ノ件

五月三日著ノ武内ヨリ接到シタル機密第五四号貴信ニ從テ
本官ハ五月五日張都督ニ面會ノ上農工業鉱業及採木公司ノ
三件ニ関スル当方ノ提議ヲ申入レ置キタルニ五月八日交渉
署長ハ財政司長同伴本官ヲ訪問シ右三件ニ関シ北京政府ノ
意向ナリトテ要領往電第六六号ト同様ノコトヲ述ヘタルニ
付本官ハ以前ニモ説明シタル通農工業及鉱業ノコトニ関シ
満足ノ回答アルニアラサレハ本借款ノ交渉ニ入ルコト能ハ
サルヘシト述ヘタル処先方ハ甚タ当惑ノ模様ニテ実ハ当地
方官限ニテ計ラヒ得ルモノナラハ十分ニ讓歩ノ上借款ヲ纏
メタキニ付何トカ便法ナキヤト述ヘタルヲ以テ本官ハ地方
官ノ責任ニテ前記実業ニ関スル当方希望ヲ達シ得ラルル次
第ナレハ可ナルモ地方官ノナシ得ル程度ニテ承諾スト云フ
コトナラハ要領ヲ得難キニ付矢張一応北京へ申立テラレタ
シト答ヘタル処先方ハ之ヲ諾シ早速電報ニテ中華民國大總
統ニ申立ツヘシト答ヘ且此種実業上ノコトハ財政部ニテハ
何等異論ナシト思考スルモ事農工商部ニ關係スルヲ以テ北
京政府モ之ヲ承諾スルヤ否ヤ頗ル懸念ノ至リナルニ付日本
側ヨリモ北京小田切ニ電報セラレ彼ヨリ財政總長其他ニ対
シ相当勸誘ノ上本件借款ヲ成立セシムルコトニ助力ヲ与ヘ

第三八三三号

貴電第二三二二二号ニ関シ五月十三日小田切ハ財政總長周自齊
ニ面會シ奉天借款ヲ商議シタルニ周ハ本件ニ就テハ農商部
内務部トモ協議シタルカ農業ハ重農主義ノ見地ヨリ自國人
ノ為ニ保留シ置キタク地租ヲ借款ノ担保トスルコトサヘ差
控居ル次第ナレハ同意シ難シ(小田切カ水田經營ノ有利ナ
ルヲ説明シタルニ対シテ水田ハ方法次第ニテハ考量ノ価値
アルヘキモ彼ハ別ノ問題トシタシト述ヘ)工業ハ起サシム
ヘキ事業ヲ指定スルナラハ異存ナシ鉱業ハ特ニ某々地区及
鉱物ノ種類ヲ指定スルナラハ是亦異存ナシ採木公司ハ先ッ
整理ヲ要ス区域擴張差支ナキモ其範圍ヲ明確ニスルコト必
要ナリ既ニ右ノ趣意ヲ以テ奉天へ訓令シタリト述ヘ尤モ借
款契約ノ目的中ニ農業ヲ包含スルコトハ差支ナク且形式的
ニ技師僱聘ノ条項ヲ加フヘシトノ小田切ノ申出ニハ同意ヲ
表セル由

農商總長ニハ本使五月十四日面談ノ答

在奉天總領事へ電報シタリ

七〇 五月十五日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

奉天借款附帯ノ農工鉱業利権ニ付章農商總長
ト会谈ノ件

第三八八号

往電第三三八三号ニ関シ兼任農商總長章宗祥ニ会見シタルカ
章ハ奉天借款ノ件三週間程前財政農商内務三部会商シタル
ニ農業ノコトハ同意シ難シ(前電ノ理由ノ外ニ章ハ司法總
長タル立場ヨリ後段ニ述フル如キ意味ヲモ含ミ) 鉱業ハ鉱
業条例既ニ發布セラレタレハ之レニ依リテ地区ヲ指定スレ
ハ可ナリ採木公司モ追々森林ヲ伐採スルコト故区域サヘ明
確ニスレハ拡張異存ナシトノコトニテ其ノ旨當時奉天ニ訓
令シタリ爾來何等聞ク所ナキモ或ハ財政部ヨリ更ニ其ノ意
味ノ訓令ヲ發セシヤモ計リ難シト云ヘリ尚本使ハ農業ハ日
本側ノ最モ重キヲ措ク個条ノ一ツナルコト並ニ現ニ朝鮮人
ニシテ滿洲ニ於テ農業ニ従事スルモノ多ク日本人モ亦タ少
ナカラス之レ自然ノ趨勢ニシテ其ノ経営ノ發展ヲ人ヲ以
テ防クコトハ不可能ナルノミナラス現状ノ儘ニテ推移スル
時ハ却テ面倒続出スヘキニ付寧ロ公然許可スル方可然コト
ヲ述ヘタルニ章ハ實際ニ従事スルハ別問題ナレトモ公然之
レヲ許可スルコトハ啻ニ国内ノ反対アルヘキノミナラス領

事裁判ノ未タ撤回セラレサル今日種々面倒ナル問題ヲ生ス
ヘキニ付賛成シ難シト云ヘルニ付本使ハ方法次第ニテハ双
方ヲ満足セシムル途モアルヘク領事裁判權問題ハ現在ノ儘
ニテモ同様ニシテ殊ニ鉱業条例ニ拠リ外國人ト合弁ノ鉱業
ヲ許ス以上ハ外國人内地居住ハ当然起ルヘキコトナリ既ニ
鉱業ヲ外資ニ開放シタル以上農業モ同様開放シテ可然殊ニ
鉱業ヨリ利益ヲ受クルハ一部ノ支那人ニ過キササルモ農業ハ
其利益ノ及フ所一般的ナレハ寧ロ進ンテ断行スルヲ可トス
ト述ヘタルニ章ハ尚考慮スヘキモ農業ノコトハ關係スル所
広キニ付兎ニ角今回ノ借款条件トシテ急ニ纏ムルコトハ困
難ナラント云ヘリ本使ハ尚工業ハ農業ヲ許サハ自然伴フテ
起ルヘキモノニ付追加シタルコトヲ説明シ鉱業ニ付キテモ
直ニ地区ヲ指定スルコトハ困難ナルヘク現ニ膠州灣租借条
約ニハ鉱山トハ明記セサルモ一切ノ事業ニ付外國資本ヲ要
スル場合ニハ先ヅ独逸國人ニ協議スヘシト概括的ノ規定アリ
其他山西省等ニ於テ外國商人ノ有セル鉱業優先權モ頗ル
広大ナル区域ニ亘レル例モアリ日本國カ滿洲ニ費シタル多
大ノ犠牲ニ顧ルトキハ其主要ナル鉱業ヲ他ノ外國人ニ獲得
サルルカ如キハ到底忍フ能ハサル所ニシテ若シ斯ルコトア

スヘキニ依リ其御含ヲ以テ十分御尽力相成度シ又当局者操
縦ニ必要ナレバ相当金員ノ支出方ハ詮議スヘシ
右北京ニ転電アリタシ

七二 五月十六日

加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天借款ニ附帯スル農工鉱業ニ関スル我望ヲ

貫徹スル様尽力方訓令ノ件

第八八号

左ノ通公使ニ転電アリタシ

第二三九号

貴電第三三八八号ニ関シ農工鉱業ニ関シ広汎ナル權利ヲ得ム
コトヲ希望スルハ之ニ依リ間接ニ本邦人不開放地居住ノ途
ヲ開カムコトヲモ目的トスル次第ナルヲ以テ農工鉱業ニ付
一定ノ場処若クハ種類ヲ指定スルカ如キコトハ同意シ得サ
ル所ナルノミナラズ不可能ナルニ付其御含ヲ以テ此上共我
希望ノ貫徹セラルル様御尽力相成度シ將又前記貴電ニ依レ
バ章ノ貴官ニ語リタル支那側ノ方針ナルモノハ三週間前ニ
決定シタルモノナル趣ノ処果シテ然リトセバ奉天官憲ヨリ
ノ最近ノ電稟(落合發本大臣宛第八八号参照) 以前ノコト

ラハ国民激昂シテ面倒ナル事態ヲ惹起スヘキニ付秘密条約
ニテ優先權ヲ与フルコト安全ナリト説キタルニ章ハ日本國
ノ滿洲ニ対スル關係ヨリ云ヘハ尤千万ナレトモ外國人カ鉱
業条例ニ遵ヒテ出願スルヲ支那政府ニ於テ拒絕スルコトハ
不可能ナリ要ハ速ニ有望ナル鉱山ヲ選定シ之ニ先鞭ヲ付ク
ルニアリト云ヘリ本使ハ尚諄々ト説述シ置キタルモ章ノ言
フ所モ相当ノ理由アリ且中央政府ノ決心既ニ斯クアル以上
ハ我希望ヲ其儘貫徹スルコトハ余程六ヶ敷カラント考ヘラ
ル

奉天總領事ヘ電報シタリ

七一

五月十六日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天官憲ヨリ中央政府ニ対シ我望ヲ承諾セ

シムル様尽力方訓令ノ件

第八七号

公使發第三三八八号ニ対シ貴官經由別電第二三九号ノ通電訓
セルニ付貴官ニ於テモ此際奉天官憲ヲシテ中央ニ対シ我希
望ヲ容ルル様熱心ニ稟議運動セシメラレ先方ノ希望次第ニ
テハ多少借款額ヲ増シ又ハ手取額ヲ加減スル等ノ詮議ヲナ

ナルヘシト察セラル為念申添ユ

七三 五月十七日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

奉天借款ニ附帶シ日本ノ農鉱業ニ関スル要求
ハ達成困難ナルベシト趙本溪湖煤鉄公司總辦

談話ノ件

第九四号

機密第二六二号拙信輕便鐵道善後策ヨリ發展シテ本溪湖城
廠間ノ輕便鐵道ヲ滿鉄ト煤鉄公司トノ合弁業トナサントス
ル計畫アリ之ニ伴ヒ今回支那側ヨリ払込ムヘキ七十五万円
ノ増資負担金ヲ滿鉄ヨリ融通方支那側ヨリ依頼アリシカ滿
鉄ヨリ提出シタル担保条件苛酷ナリトノコトニシテ煤鉄公
司支那側總辦趙臣翼ハ五月十六日日本官ヲ訪問シ前記金額ヲ
目下本官ニ於テ斡旋中ナル当省五百万円借款ニ加ヘ約六百
万円ノ借款トナス途ナキヤト問ヒタルニ付本官ハ右ハ輕便
鐵道問題ヲ解決シ且借款ノミニ関シテモ滿鉄ニ對シ一応交
渉セラレ愈々成立ノ余地ナシト認メタル曉ニ於テ本官ニ依
頼アラハ攻究スヘシト答ヘ置キタリ此機會ニ於テ趙ハ五百
万円借款談モ当地地方官ハ是非共成立セシメント尽力シ居

在奉天

總領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

奉天省借款ニ関シ当方ヨリ必要條件トシテ提出ニ係ル農業
工業及鉱業ニ関スル要求事項カ中央政府ノ承認ヲ得ルコト
能ハス此事ニ就キ在支那公使及小田切正金銀行取締役ニ於
テ尽力セラレタル廉アルモ何等著シキ効果無之尚引続キ尽
力中ニ有之候処本借款問題ニ関シ当方ノ事情ヲ説明シ又北
京政府ノ狀況ヲモ承リ今後ノ交渉ニ参照スルコト有益ナル
ヘシト認メタルニ付貴訓ニ從ヒ水野參事官未亡人ヲ見送ラ
シムルト同時ニ右ニ関シ山座公使ニ面談セシムル為當館ヨ
リ井原領事ヲ北京ニ派遣致シ候同官ニ於テハ五月二十七日
故山座公使ニ面会本件ノ当地ニ於ケル詳細ノ成行ヲ陳述シ
タルニ同公使ハ同公使ノ其從來取計ハレタル次第ヲ語ラレ
更ニ近日中一時帰朝ニ先チ袁大總統ニ謁見ノ答ナレハ其序
ヲ以テ当局者ニモ面会シ充分尽力スヘキ旨談話アリ同時ニ
借款ニ関連シテ我カ獲得セントスル鉱山採掘權問題中優先
權ニ関シテハ之レヲ秘密協約ト為シ置クトモ早晚必ス発露
スヘク其場合ニ於テハ先年四國借款問題發生ニ際シ帝國政

ルモ北京ニ於テ日本側ノ提出條件ヲ承認セサルニ付頗ル行
悩ミ居ルモノノ如シト述ヘタルニ付本官ハ実ハ同人カ昨年
財政司長タリシトキ百万円ノ借款ニ関連シ承諾ノ旨答ヘタ
ル水田合弁事業ノ如キコトスラ今回ハ地方官ニ於テ容易ニ
承諾ノ旨回答セサルハ本官ノ了解ニ苦ム所ナリト述ヘタル
処趙ハ客年ハ借款ニ関スル束縛モ少ク同人カ至急ニ借款ヲ
纏メント欲シテ予メ北京ニ伺出デズ地方官限ニテ水田事業
ノコトモ承諾シ後北京ヘ報告シテ事後承諾ヲ得ル見込ナリ
シモ其後許民政長來任ト共ニ此種ノ計畫ハ破毀セラレ且地
方借款ニ関スル訓令等出デ今ハ中央政府ノ許可ナクシテハ
何事モ行ハレス而カモ北京ニ於テハ当地ヨリモ異リタル意
見ノ人多カルヘキニ付農業鉱業等ノコトニ付日本側希望ノ
如キ条件ヲ得ンコトハ頗ル面倒ナラント思考スト述ベタリ

七四 六月五日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

奉天借款ニ附帶スル農工業ニ関スル我々要求

徴シ難キ場合ノ措置ニ付請訓ノ件

機密公第一一〇号

(六月十一日接受)

大正三年六月五日

府ニ於テ之レト反對ナル政策ヲ採リタル關係モアリテ物議
ヲ生スルノ恐レアリ又タ周農商次長カ談話シタル如ク鉱業
条例ノ新規定カ外國資本ヲ輸入シテ鉱業ノ發展ヲ計ラント
スル趣旨ナル以上支那側ヲシテ特別ノ約束ヲ為サシメ置カ
ストモ差支ナキ様ナリ又タ農工業中農業ノ件ハ章農商總長
代理ニ於テ頗ル之ヲ嫌ヒ居ルヲ以テ承諾セシムルコト甚タ
困難ナリ尚ホ金額ハ減少シテ千五百万磅ト為リタルモ五國
借款近日成立ノ見込アリ此中ヨリ若干ノ金額ヲ奉天ニ送附
スルヤモ難計次第ナレハ余程注意ヲ要スル処ナルカ要スル
ニ僅ニ五百万円ノ借款ニ對スル利權關係ノ條件トシテハ其
要求稍々過大ナルノ嫌ハ免カレサルモノノ如シト述ヘラレ
タル由ニ有之候然ルニ山座公使ハ井原領事ト会谈後間モナ
ク薨去セラレタル次第ニ有之候次テ本官ノ電訓ニヨリ井原
ハ更ニ小田切正金銀行取締役ニ面会シ同人ノ立場ヨリ見タ
ル支那官憲ノ意向如何ニ関スル意見ヲ叩キタルニ同取締役
ノ意見モ亦故山座公使ノ意見ノ如ク今日ノ処我々要求ノ貫徹
ハ甚タ望ミ少ナキ由ヲ述ヘ帝國政府ニ於テハ右運動ノ為メ
相当ノ費用ヲ支出シ差支ナキ御意向ノ由ナル処運動費トシ
テ財貨ヲ散スル以上少ナクトモ五六十万円ヲ要スヘク夫レ

ニテモ我目的ヲ貫徹シ得ルヤ否ヤハ頗ル疑問ナリト称シタル由ニ有之候

然ルニ当地方頃日ノ状況ハ去月迄文官側ノ俸給支給モ常ニ滞リ勝ちナリシニヨリ去月末ノ旧暦端午節ハ如何ニシテ経過スルヤヲ注意致居タルニ別段紛議ノ起ルコトモ無ク兎ニ角各官署ノ経費ヲ支払ヒタル模様ニ有之又タ別ニ北京ヨリ送金致来リタル模様モ無之甚タ不思議ニ考居候処并原領事ハ数日前于交渉署長ニ面会ノ節如何ニシテ端午節ヲ経過シタルヤヲ尋ネタルニ于モ當時不思議ニ思ヒ財政司長張翼廷ニ如何ニシテ経過シタルヤヲ尋ネタルニ一時ノ融通ニヨリ端午ノ節期ハ経過シタルモ此処一ヶ月後ニモ至ラハ非常ニ難渋セサルヘカラスト答ヘタルガ右ハ多分張カ国税庁長ヲ兼任シ居ル關係上国税收入ヲ以テ一時ヲ凌キ置キタル者ナラント被思ト談話シ尚ホ財政司第一課長タル黃ハ借款問題商議ノ為メ上京中ナリシ処数日前帰奉シタルガ其談話ニ拠ルニ借款条件カ中央政府ニ於テ容レラレサル以上奉天ニテハ差当リ官銀号ヨリノ借入金約三百万兩中此際少クトモ二百万兩位ハ返済セサル可カラサルヲ以テ中央政府ヨリ二百万兩ノ支出ヲ得タシト相談シタルモ要領ヲ得サリシ由ニテ

ル条件ニヨリテナリトモ借款ニ応スル方得策ナルヤニ思考セラレ候尤モ本件ニ就テハ御訓令ノ趣モ有之支那側ニ対シテハ鉅山及ヒ農工業經營ニ関スル条件ニ非常ニ重キヲ置クノ意味ヲ以テ交渉致来リタル次第ニモ有之容易ニ右ノ要求中多少タリトモ譲歩スル態度ニ出ヅルコトハ不可ナル次第ニ候処成行如何ニヨリテハ或ハ結局農業中ノ水田合弁經營ノ条件ヲ極力主張シ其他ハ場合ニヨリ譲歩スルノ方針ヲ執ルコトモ亦一方法カト被存候尤モ右水田經營ノミノ条件ニ縮少スルモ亦タ中央政府ニ於テ容易ニ之レヲ応諾スヘキカハ疑問ニ有之候得共将来商議進行上支那側ノ意向如何ニ依テハ或ハ右御詮議ノ儀稟請可致場合モ可有之ト被存候間其辺ニ関シ予メ御詮議ノ上本官ノ心得方御訓示相仰度意見具申旁此段及請訓候 敬具

本信写送附先 小幡臨時代理公使

七五 六月十五日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

奉天借款談ハ成立ノ見込無キ旨于交渉員内話

ニ対シ別国筋ヘノ借款談持子廻リノ不可ニ付

警告ノ件

黃ハ滯京中周財政總長ニ二回面会シタルノミ是レ迎モ同総長病氣ノ為メ詳細ノ相談モ出来ス結局黃ノ上京ハ不得要領ニ終リタリト語り奉天省ハ如何ニシテモ借款ノ必要アルモ中央政府ノ意向甚タ要領ヲ得サルヲ以テ張都督トモ相談ノ上更ニ袁大總統ニ対シ同總統ハ果シテ奉天省ニテ借款スルヲ認可セラルルヤ將タ否認セラルルヤヲ明確ニ指示方電報ニテ要求スル積ナリト述ヘタル由ニ有之候

奉天省ノ現状ハ借款ノ必要切迫致シ居リ奉天官憲ニ於テハ当方ヨリ提出シタル条件モ可成之ニ応スルコトトシテモ借款成立ニ苦心セルモノト被認候得共中央政府ニ於ケル意向前陳ノ如クシテ農、工、鉅業等ニ関スル我カ希望ノ貫徹ハ甚タ容易ナラサル状態ニ有之候然ルニ一方支那側ノ財政窮乏ハ時々官憲ニ於テ之ニ反スル声明ヲ為スコトアルニ係ハラス動カスヘカラサル事実ナリト認メラルルニ就テハ我方ニ対スル借款談不成立トナリタル晩ニハ別国筋ノ借款談ヲ起サシムルノ虞極メテ多キヲ以テ之ヲ防禦スルノ必要上余リ不利益ナラサル条件ナラハ可成我方ヨリ貸附ルコト亦不得已次第ニ可有之此点ヨリ考慮スレハ此際支那側ニ於テ承諾シタル採木公司専伐区域拡張ノ外ハ支那側ニテ承諾シ得

第一〇九号

六月十五日于交渉員来訪借款ノ件ニ付先般来北京政府ト往復中ナリシカ当地方官ノ及フヘキ限り尽力シタルニ拘ラス成立ノ見込殆ントナキニ至レリ何レ両三日中財政司長ト共ニ来訪シ正式ニ回答スヘキモ一応内話スト述ヘタルニ付本官ハ北京政府ノ意嚮ハ借款ヲ不必要トスルニアリヤ將又条件ヲ其儘ニテハ認可シ難シト云フニアリヤト問ヒタルニ于ハ北京政府モ借款ノ必要ヲ否認スルニアラス只条件ニ付容易ニ認可セス農業工業ノ合弁ハ日本ノ勢力奉天省ノ内地ニ及ヒ其影響重大ナルノミナラス他外国モ之ニ倣フ虞アルニ付不可ナリ鉅業ハ場所ヲ指定シ申出デシニハ差支ナシ夫レ以上ニ譲歩スルコト能ハスト云フニアリ之ニ対シ当地ニ於テ借款ハ焦眉ノ急ナルコト特ニ官銀号ニ対スル返金ノコトハ一日モ緩フスヘカラサル事情ヲ送りタルニ対シ北京ヨリハ五百万兩ノ支那公債票ヲ送り来ルコトナレルニ付之カ受領ノ為人ヲ派遣シタル次第ナルカ此公債票ナルモノ果シテ引受人アリヤ否ヤ目下各地方ヘ問合中ナリト語レリ本官ハ此公債票ナルモノハ前ニ其例アリヤ額面利率等ハ如何ナリ居レルヤト問ヒタルニ対シ于ハ例トシテハ革命政府ノ

時孫文カ出シタルコトアリシモ額面等ノコトハ現物ニ接セサレハ分明ナラスト答ヘタリ本官ハ若シ支那官憲ニ於テ借款ニ訴フルコトナク当省財政ヲ維持スルコトヲ得ハ甚タ可ナルモ斯ノ如クシテ日本側ノ借款談ヲ謝絶シ更ニ別国筋ヘ借款談ヲ持チ廻ルカ如キコトアレハ頗ル重大ナル事態ヲ生スヘキニ付戒慎ヲ要スト警告ヲ与ヘ置キタリ

北京ヘ郵報ス

七六

六月二十日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天借款交渉ヲ具體的ニ進ムル様北京政府ニ
申入方小幡臨時代理公使ニ訓令ノ件

第一〇二号

左ノ通北京ニ転電アリタシ

第三〇一号

奉天總領事發第一〇九号ニ関シ奉天借款ノ義ハ支那側折角ノ希望ニ從ヒ当方ニ於テ南滿洲ニ対スル立場ヲモ顧ミ特ニ応諾スルコトニ決定シ已ニ資金ヲ調達シ交渉ヲ開始シタル処今日ニ至ル迄支那側ヨリ明確ナル回答ヲナササルハ御承知ノ通りナルニ付貴官ハ支那當局者ニ会见ノ上当方ニ於テ

款問題及洋錢兌換ノ件ニ移シ其成行及先方ノ事情等ニ就キ談話ヲ試ミ之ニ対シ張財政厅长及都督ノ本官ニ語リタル要領左ノ如クニ有之候

本官ヨリ当省ノ財政モ過日突然滿鉄借款返済ニ充テン為六十万円ノ現金ヲ準備シ得タルカ如ク又ハ久シキ以來協議中ノ正金銀行借款ノ成立セサルモ不得已ト為スカ如キ当省財政モ多少緩ヲ得タル觀アルカ事實如何ト問ヘルニ対シ先方ノ答ニ奉天省ニ於ケル財政ノ状態タル決シテ緩和ヲ得タル次第ニアラス依然「窮」ナル一語説明シテ余リアル次第第二日ニ月ニ益々急迫ヲ告ケ居リ借款ハ益々其ノ必要ニ迫ラレ居リ過般既ニ期限ノ到達セル滿鉄側ヨリノ借款ヲ返還スル為ニ六十万円ヲ調達シ得タルコトハ事實ナルモ右ハ本春以來中国銀行ニ托シ新ニ制定セラレタル契稅(奉天全省ニテ三百萬元ヲ得ヘシト云フ)ヲ徴收シ其收入ヲ同銀行ニ預入シ置キタル額約百萬元アリ其中ヨリ相場ノ順調毎ニ金票ヲ買入レ居リタルモノニシテ返済期ニ至リ該借款モ幸ニ又一年間借繼ノ猶予ヲ得タルヲ以テ該資金ハ之ヲ煤鉄増資ニ充當スルコトヲ得ヘキコトナリタルモ他一般ノ省費ニ対シテハ依然窮乏ヲ極メ居レリ從來本官ノ配慮ヲ煩ハシツツ

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 七七

ハ支那側ノ返答ヲ待居ル義ニツキ此際支那側ニ於テモ具體的ニ交渉ヲ進ムルヤウ致シタキ旨ヲ述ヘ先方ノ意向ヲ突止メラレタク尚其際北京ヨリ奉天ニ送付スル五百万円ノ公債票ハ如何ナルモノナルヤヲ質ダシ目下支那政府ニ於テ五国團ニ借款ヲ申込ミ居ル矢先明ニ公債ヲ発行スルカ如キハ大ニ慎ムベキコトナル旨ヲ指摘シ一応ノ警告ヲ与ヘラレ結果奉天經由電報アリタシ

七七

六月二十九日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

奉天省ノ借款及洋錢兌換ニ関スル張都督等ノ
談話報告ノ件

機密公第一二二号

(七月六日接受)

大正三年六月二十九日

在奉天

總領事 落合 謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本月二十七日日本官張都督往訪ノ際張財政厅长ヲ列席セシメタル上貴電第一〇三号御訓令ニ從ヒ本溪湖煤鉄公司増資払込ノ件ニ関シ談話スル所アリ其機會ニ於テ話頭ヲ本省ノ借

アル正金ノ借款ニ就テハ爾來引續キ書信又ハ電報ヲ以テ北京政府ニ対シ或ハ本省ノ情態ヲ説明シ補助ヲ得ルカ或ハ借款談ノ成立スル様百方上申弁疏スルコト幾回ナルヲ知ラサルモ北京ニ於テハ実業上ニ於ケル日支合弁提携ニ関シ異論多ク今日ニ至レル次第ニテ実ハ近日ノ中一応本官ヲ訪ヒ之カ成立ニ付キ新ニ研究ヲ請ハント思ヒ居ル儀ナルカ前ニ中央政府ヨリ資金ヲ送り救済スヘキ旨申来リタル次第アリタルヲ以テ之カ受領員ヲ出スコトニ成リ居リタルモ該資金ハ現金ニアラス公債票ヲ以テスヘシトノコトナリシヲ以テ公債票ノ如キ引受人無クハ何ノ用モナササルヲ以テ其後受領員ノ派遣ハ中止シタルカ何レニスルモ依然借款ノ必要アルヲ以テ更ニ日ヲ改メテ本官ヲ訪フヘキヲ以テ此上共該借款ノ成立ニ尽力アリタキ旨ヲ語り尚ホ本官ヨリ正金銀行ニ於テハ本借款ニ充テン為夙ニ五百万円ノ現金ヲ準備シ居リタル由ナルモ久シキニ涉リ該借款成立ヲ見ス在再其儘ニ為スハ不利益ナルヲ以テ該現金ハ之ヲ他ノ使途ニ充テントスルヤノ模様アリヤニ聞ケリト云ヒタルニ対シ財政厅长ハ伊東正金支店長ヲ訪ヒ暫時左様ナルコトハ中止ヲ請フヘシト語レリ

洋錢票兌換問題ニ関シテハ五月二日附機密第一〇四号信ヲ以テ既ニ及報告候通り五、六ノ二ヶ月ハ一日平均四万五千元ノ兌換ヲ為スコトトシ七月一日迄ニ貸付ノ回収其他必要ノ準備ヲ整ヘ七月一日ヨリ無制限兌換ヲ行フコトノ取極ヲ為シ以来該取極ハ順調ニ実行セラレ当初ハ日ヲ追ヒ銀紙ノ差モ減少シ漸次好境ニ向ヒツ、アリシカ本月中旬頃ヨリ再ヒ金銀貨ノ相場ニ著ク差ヲ生スルト共ニ亦復タ硬貨ト洋銀票トノ間ニ価格ノ差ヲ生スルコトナリタル次第ニシテ此事情ノ為頃日引換ヲ求ムル日本商人頓ニ増加シ昨今ハ一日四十余名三十余万円ノ兌換票要求スルニ至リ之ヲ四万五千ノ制限内ニ纏ムルコトニ苦心シ居レル次第ナルコト及無制限兌換ノ時期ニ至ラハ非常ニ巨額ノ要求ヲ為スニ至ルヘク其期限ハ眼前ニ迫リタル今日支那銀行ニテ充分ノ準備ヲ要スルコトヲ語リタルニ財政庁長ハ之ニ答ヘテ黒竜江官銀号及興業ノ二銀行ハ兌換ニ関シ十分ノ準備アルモ東三省官銀号ニ至テハ到底約ノ如ク七月一日ヨリ無制限兌換ニ応シ得ルノ見込ナキ次第ナルヲ以テ更ニ本官ノ尽力ヲ請ヒ其期ヲ緩ムルコトヲ得タキ希望ナリト述ヘタルニ付本官ハ単ニ支那側ノ事情ニヨリ延期スルガ如キハ到底行ハレスト答ヘタ

ル処先方ハ支那側ニ於テモ善後策ニ就テハ種々研究シタルモ未タ良策ヲ得ル能ハス目下東三省官銀号督弁畢鳳岡ハ上京中ニシテ本月末ニハ多少ノ資金ヲ得テ帰来スヘキ筈ナルモ差当リ暫時ノ猶予ニ関シ奉天市面ノ救済トシテ十分ノ尽力ヲ切望スル旨語り候ニ付本官ハ元来本件ニ関スル取極ニ於テ制限兌換ハ二ヶ月間ト為シタルハ二ヶ月内ニハ當時ヨリ協議中ノ借款成立シ關係銀行ニ於テ誠意紙幣回収ヲ実行スルト共ニ準備金積立ヲ為スコトヲ得ハ以テ銀行信用ヲ回復シテ銀紙ノ差消失スヘク銀紙ノ開キ消失セハ洋錢票ノ兌換ヲ求ムル者アラサルヘク万一有之トスルモ充分ニ之ニ応スルヲ得ヘキ目算ナリシ次第ナルカ此ノ二ヶ月ノ期限ヲ無為ニ消過シ去リ今日ニ至リテ単ニ銀行ノ準備整ハストノ理由ヲ以テ無制限兌換期ヲ延期セントスルカ如キハ到底行ハレサルヘシ当省金融界ノコトニ就テハ勿論本官ニ於テ能フ限りノ尽力ハ為スヘキモ右様ノ理由ニテ兌換延期ヲ求メラルルモ居留民ハ斷シテ之ヲ承認スルコトアラサルヘシト答ヘタルニ財政庁長ハ五百万円ノ借款談ハ他ノ使途ノ目的アリソレモ曩ニ述ヘタルカ如キ次第ニテ成立困難ナル次第ナルカ兎ニ角本件洋錢票兌換ノ儀ニ付テハ不日具体的研究案ヲ

齎シテ当方ニ懇請スル処アルヘキヲ以テ尽力ヲ請フ旨答ヘタルニ付本官ハ借款ハ他ニモ使途ノ目的アルナランカ元来洋錢票問題ヲ議シタルトキ支那側ヨリ三ヶ月間ノ制限兌換ト銀行ヲ債務者トシテ三百万円ノ借款ヲ起シタキ旨申出ラレ当方ニテ銀行ヲ債務者トスル借款ハ容易ニ成立セサルヘキヲ以テ恰モ協議中ナル五百万円ノ借款成立ニ尽力スルコト可然旨答ヘ其結果制限兌換ノコトノミヲ纏メテ一段落ヲ附ケタル次第ナルコトヲ語り候右為御参考及報告候 敬具

本信写送附先 在支代理公使

註 後出一二文書

七八 七月一日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

奉天省借款交渉促進方小幡臨時代理公使ヨリ
周財政總長ニ申入及附帶条件ニ付意見交換ノ件

第一二〇号

北京癸六月三十日

第四九四号

貴電第三〇一号ニ関シ其後当該責任者ニ会見申込中ノ所病

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 七八

氣其他ノ事故ニヨリ直接談判ノ機会ヲ得サリシハ深ク遺憾トスル次第ナルカ六月二十九日周財政總長ヨリ会見ヲ申込来レルニヨリ直ニ承諾同日午後数時間ニ亘リ巨細談合ヲ遂ケタル結果左ノ如シ
本官ハ先ツ第一ニ予テ山座公使カ章農商總長代理並ニ小田切カ財政總長ニ対シ開陳シタル本借款条件ノ妥当ナル所以ノ理由ヲ詳細敷衍シ更ニ支那当該官憲ノ切実ナル考慮ヲ望ム旨相述ヘ実ハ当方ニ於テハ既ニ横浜正金銀行ヲシテ所要ノ全額五百万円ヲ準備シ支那側ノ返答ヲ待チ居ル義ニ付此際支那側ニ於テモ具体的ニ交渉ヲ進ムル様致サレタキ旨ヲ告ケタルニ周ハ本件ニ対スル支那側ノ意嚮ハ既ニ確實ニ貴國責任者ニ通告シタル筈ト心得居ルモノナリト述ヘ第一ニ農業合併ノコトハ奉天全省ヲ日本人ニ開放スル結果トナリ自然彼我農民間意志ノ疏通ヲ欠ク等ノ原因ヨリ両國人間ニ紛争ヲ起ス機会ヲ繁クシ徒ニ訴訟沙汰ヲ多クスルノミナラス将来各地ニ散在スルニ至ルヘキ日本農夫ノ保護モ十分ニ行届キ兼ヌルコトアルヘク且農業ハ数千年来大多数國民ノ生業ナルヲ以テ日本農夫ヲ滿洲ニ移植スルコトハ滿洲農民ヲシテ日本農民ノ為ニ古来ノ生業ヲ奪ハルルモノナリトシ

テ不安疑懼ノ念ヲ起サシメ延テ誤解ノ極如何ナル變事ヲ惹起サストモ限ラス且自分カ財政総長タルノ見地ヨリシテ考フルモ目下滿洲ノ農民ノ状態トシテ此等農民間ニハ各小区域ニ於テ取引ノ仲立トシテ甚タシキ故障ナク鈔票ノ流通行ハレ居ル次第ナルカ日本農民ノ移住ニ伴ヒ自然此等新來農民ノ為ニ鈔票引換等ノ現象続出シ既ニ少カラス混乱セル滿洲ノ金融状態ヲ益々攪乱スル虞アリ旁農業合併ノ一事ハ支那トシテ數千年來ノ習慣ヲ破ルコトナリ慎重ニ考慮シタル上ナラテハ御相談ノ余地ナク從テ本件ハ借款問題ト離レ別ニ考慮セシメラレタク第二点タル鈔山採掘ノ件ハ既ニ外資輸入鈔山採掘ヲ標榜シテ新鈔業條例ヲ發布シタル次第ナレハ本條例ニ準拠スレハ支那側ニ於テハ喜ンテ日本國ノ希望ニ応シ其合併經營ヲ援助スルニ躊躇セサル所ナリ將又第三点タル鴨綠江森林伐採区域擴張ノコトハ御相談次第如何様トモ妥商ノ余地アルヘキ見込ナリ之ヲ要スルニ農業合併ノ一事ヲ除キ鈔山採掘森林伐採区域擴張ノ二点ナラハ何トカ御相談ノ余地アル様自分ノ確信スル次第ナリト述ヘ何トカ此辺ニテ折合ヒ速ニ借款ヲ成立セシムルコトヲ切望スル旨陳述セリ右ニ對シ本官ハ一々駁撃ヲ加ヘ先ツ農業合併ヲ

ナク鈔業條例ヲ別ニシテ概括的約定ヲナスコト差支之レナカルヘク特ニ斯ノ如キ約束ハ曾テ山座公使ヨリ章農商總長ニ縷々指摘スル所アリタル通り膠州灣租借條約ニ依リ山東省ニ於テ独逸國人ニ概括的鈔山採掘ヲ承認シ山西省ニ於テモ亦同様ノコトアルニ付此際支那側ニ於テモ十分誠意アル考慮ヲ加ヘラレ当方ノ條件ヲ容レラルル様致シタシト述ヘ最後ニ斯ノ如キ問題口頭ヲ以テ如何ニ論弁ヲ費スモ同様ノコトヲ繰リ返シ押問答ヲナスニ過キス談判ノ進行ヲ期スル上ニ於テ不便尠カラサルニ付袁總統初メ關係当局者ト熟議ヲ遂ケタル上予テ当方ヨリ提出シアル條件ニ對スル支那側ノ案ヲ覺書ニ認メラレ談判ノ基礎ト致シタシト述ヘタルニ對シ周ハ之ヲ諾シ一兩日中ニ認メ送附スヘシト約シ会见結了セリ右ノ覺書接手次第更ニ何分ノ措置ヲ執ルト同時ニ本件借款ニ對スル本官ノ意見モ開陳スヘシ

七九 七月四日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

奉天省借款ノ附帶條件ニ關スル北京政府覺書

ヲ周財政總長ヨリ小幡臨時代理公使ヘ送付越

ノ件

一 奉天省借款交渉ニ関スル件 七九

主義トシテ実行スル以上或ハ万一ニモ兩者ノ間ニ紛争ヲ来スヘキコトナキヲ保シ難キモ既ニ鈔山ヲ外資ニ開放シタル結果ハ支那内地隨處ニ同様ノコトアルヲ予期セサルヘカラス特ニ四川雲南甘肅地方ニ於テハ日露戰後比較的外人ト接觸ノ機會多キ滿洲ニ於ケルヨリ更ニ外人トノ紛争多キヲ覺悟セサルヘカラス既ニ四川雲南ノ如キ遠省ヲモ内外國人合併ニ開放スルノ主義ヲ採リタル以上比較的其懸念ノ少ナキ滿洲ニ於テ農業合併ヲ許スモ何等不条理ノコトアラサルノミナラス且支那古來生民ノ主業タル農業ヲ外人ニ開放スル結果ヲ予想シ多數農民ノ反感疑懼ヲ懸念スルカ如キハ徒ラニ杞憂ニ止マリ滿洲ニ於テ農作方法ヲ改良シ農産物ノ品種ヲ變改シテ其價格ニ於テ將又其數量ニ於テ増加スルコトトナレハ自然農民ハ其余沢ヲ受ケ資産ヲ増シ生計ヲ裕ニシ天与ノ恵ヲ樂シムニ至リ疑懼不安ノ念ヲ起スカ如キ万之レナキ義ト考フ特ニ鈔票云々ノ論拠ノ如キハ農民富力増加ニ伴フ樂觀スヘキ半面ノ事情ト幣制整理ノ実行ヲ度外シタル議論ニシテ何等耳ヲ傾クルニ足ル価値アルモノニアラス次ニ鈔業ノ件ニ關シテハ新鈔業條例ハ尚未タ各外國ニ於テ承認シ居ル次第ニモアラサレハ之ニ依リ本件ヲ決定スル必要モ

第一二二号

(北京發七月三日奉天宛第八五号)

第四九九号

往電第四九四号ニ關シ此際農商部当局ヘモ重ネテ説明ヲ与ヘ置ク必要ヲ認メ七月二日章宗祥(張謇近ク帰京復任セルモ行懸上先ツ前任者章ヲ訪ヘリ)ヲ訪問シ六月二十九日周財政總長トノ会见始末ヲ委細ニ申聞ケタル上更ニ山座公使ヨリ説明ノ要領ヲ反覆切言シ此際は非共協定ノ運ニ至ル様尽力アリタキ旨求メタルニ章ハ本件ハ彼我ノ經濟の見地並ニ滿洲開發ノ利害ヨリ打算セハ主義上異論ナカルベキ筈ナレトモ之ヲ何等直接ノ關係ナキ借款問題ニ引附ケ強テ解決ヲ告セント迫ラルルコトハ支那ノ最モ難シトスル所ニシテ内政上幾多ノ障害アルニ顧ミ到底同意シ能ハサル所ナリ自分(章)ノ考ニテハ本件ハ宜シク借款問題ト分離シ之ヲ他日ノ商議ニ讓ルコトトセラルル方可然ト言ヘルニ付本官ハ重ネテ一応反駁ヲ試ミ尚今後ノ尽力ヲ求メテ引取りタル処帰館後周財政總長ヨリ左記要領ノ覺書ヲ送り越セリ
「六月二十九日財政總長周ハ日本國代理公使小幡ト会谈シ小幡ヨリ奉天借款五百万円ノ件ハ条件折合ハサル為未タ

成立ヲ告ケサルガ支那政府ニ於テハ結局如何カノ意嚮ヲ有シ居ルヤト質問アリタルニ付周ハ日本国ノ条件ニ対シ左ノ通り答ヘタリ

(一)採木公司ノ区域ハ原約ヲ査照シ適宜拡張スベキモ其ノ里数等ハ奉天巡按使ヨリ実地調査報告ヲ待チ之ヲ定ムベシ

(二)奉天省鉱山独弁及合併並ニ日本人ニ優先権ヲ与フベシ云々ノコトハ先ツ予メ其地点ヲ指摘シ鉱業条例ニ依リテ弁理スヘシ但シ他国ニ辭柄ヲ藉スカ如キ優先権ヲ与フルヲ得ス

(三)中日合併農田ノ一節ハ支那ハ農立国ニシテ人民ノ生計ハ全ク農事ニ在リ若シ外国人ニ合併ヲ許ストキハ単リ小民ノ生計ヲ奪フノミナラス延テ輿論ノ沸騰各方面ノ反対ヲ招キ軋シテ兩國臣民ノ睦誼ヲ害フニ至ルヘシ断シテ行フ能ハス

以上三節ハ即チ支那政府ノ意見ニシテ其弁法ハ既ニ決定シ曾テ其旨奉天巡按使ヲシテ駐奉天日本国領事ニ通告シ銀行ヘ伝達方電報シ置キタル次第ナリ

右ニ依レハ支那政府ハ絶対ニ我要求ヲ拒否シタル姿ニテ要

スルニ是迄ト同様ノ趣意ヲ繰返シタルニ過キス斯クテハ中央当局ニ於テハ奉天借款ノ成立如何ヲ毫モ顧慮セザルモノトモ見受ケラレ同時ニ本件中央ノ意志ヲ奉天巡按使ニ電報セルハ何時ナリヤ其時日如何ハ最近同地交渉ノ成行ニ鑑ミ關係勘ナカラザル義ト認メタルニ付右質問旁即刻高尾ヲ周總長ノ許ニ遣ハシタルニ周ハ借款成立ハ切ニ希望スル所ナルモ条件ニシテ旧ノ如クナルニ於テハ借款ハ不成効ニ終ルモ致方ナシ又奉天巡按使ヘ中央ノ意見ヲ電報セルハ久シキ以前ノコトニシテ最初日本国ヨリ提議ノ報告ニ接シタル際ノコトト記憶スト言ヘルニ付高尾ハ最近ノ消息ニ関シ巡按使ヨリ何等報告ニ接セサルヤ又六月廿九日言明セラレタル農田ノ件ハ他日ノ商議ニ譲ルヘシトノ一節ヲ何故覚書ニ記入セラレサルヤ次ニ張謇氏ノ意見如何等ヲ質問シタルニ周ハ奉天ヨリハ爾來何等報告ニモ請訓ニモ接セス(財政部ノ関スル限リト言ヘリ)又最近何等送りタルコトモナシ他日商議云々ノコトハ財政部当局ヨリスル覚書ニ之ヲ認ムルコトハ管掌事務ノ範圍ヲ超ユル次第ナレハ行ヒ難ク張謇ニ於テハ借款ト關聯シテ商議スルコトハ不可ナリトテ是非ノ意見ヲ述ヘサリシト云ヒ要スルニ本件ハ遺憾ナカラ日本ノ

要求ニ応シ難ク去リトテ借款ハ何トカ成立セシメタキニ付此上トモ本官ノ尽力ヲ望ムト述ヘ頗ル当惑ノ模様ニ見受ケタル趣ナリ叙上ノ次第ニテ農田一件ハ余程困難ノ問題ニテ容易ニ同意セシムルノ見込立チ難ク存セラル尚不日張謇ニモ会见シ精々尽力致スヘシ右一応成行御承知置ヲ請フ

八〇 七月七日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

奉天省借款ノ条件タル農業合併要求ノ貫徹至

難ニ付之ガ対策ニ関シ稟申ノ件

第一二三号

北京發七月七日奉天宛第八八号

第五〇四号

奉天借款ノ件ニ関シ七月三日小田切ヲシテ農商總長張謇ヲ訪問セシメ本件成行ヲ陳述シ農田ノ合併經營等ニ関シ詳細説明スル所アラシメ尚參考トシテ借款条件案ヲ手交セシメ置キ越エテ七月六日本官更ニ張ヲ訪問シ種々談合ノ結果鴨綠江採木公司区域拡張並鉱山開掘ノ二件ハ先日財政總長ヨリ回答ニ及ヒタル通ノ趣旨ニテ何トカ話ノ纏マル余地モアルヘキカト思料スルモ農業開放ノ一事ハ關係スル所頗ル重

二 奉天省借款交渉ニ関スル件 八〇

大ニシテ日本側ノ要求ヲ容ル、コト殆ント不可能ナリ実ハ七月四日政事堂ニ關係各總長集合シ審議ヲ遂ケタルモ各總長何レモ農業開放ニハ不同意ナリ右様ノ次第ナルモ去ル四月中奉天都督ヨリノ電報ト前日小田切手交ノ覚書トハ多少相違ノ所(此ノ相違ノ理由ハ二月二十二日落合ガ張ニ口頭ヲ以テ申入レタルヲ直ニ打電シタル為其後交付ノ覚書条件ト多少文句等ニ相違アリシモノト思考セラル、ニ付其意味ニテ一応張ニ説明シ置ケリ)モアルニ付其辺ノ事情ト共ニ滿洲ニ於ケル日本人農業ノ模様乃至張都督ノ本件ニ対スル意見等電報ヲ以テ諮詢致置ケリ就テハ奉天ヨリ何分ノ回電アリ次第更ニ審議ノ上回答致スコト、スヘキ旨約束セリ然ルニ本借款ニ関スル從來交渉ノ成行ヲ審査シ当該責任者ガ山座公使其他ニ洩ラシタル口氣ニ察シ將又本官ノ着任以來周財政總長章前任農商總長及張謇等ト實際折衝ノ局ニ当リ彼等ノ態度並其ノ所説ノ要旨ニ鑑ミ感受セル印象ニ依レハ農業合併經營ノ一事ハ袁世凱トモ十分熟議ヲ遂ケタル上ノ意見ヲシク此ノ末如何ニ論議ヲ費スモ或ル特殊ノ事情アラサル限我主張ヲ貫徹スルコト至難ト思考セラレ寧ろ本条件ヲ撤回スルカ若ハ今少シク緩和シテ滿鉄沿線ニ区域ヲ限リ

此ノ主義ヲ認メシムルカ兎ニ角何等カ譲歩ヲ為スニアラスハ協議ノ纏マル余地ナキヤニ考ヘラル將又鉱山採掘權モ先方ニ於テ地区ヲ指摘シテ開掘ヲ要求スルナラハ考慮ノ余地アリト申述ヘ居ルコトナレハ此際奉天全省ノ鉱山採掘權ヲ占有スルカ如キ空名ノ利權獲得ヲ避ケ寧ロ同省ニ於ケル有望ノ鉱區ヲ指摘シテ直ニ中央政府ヲシテ開掘許可ヲ与ヘシムル様ノ程度ニ止メ本借款ヲ成立セシムル外殆ント其策ナキ様存セラル之ヲ要スルニ農工業並鉱山ヲ一時ニ且概括的ニ我手ニ収メントスルハ彼等ヲシテ滿洲經濟上全實權ヲ我國ニ与フルヤノ感ヲ懷カシムルモノニシテ其交渉至難ナルハ勿論此ノ一挙ニテ斯ノ如キ地步ヲ滿洲ニ占ムルコトハ容易ノ業ニ非ラスト考フ寧ロ此ノ大方針ヲ常ニ支持シ漸ヲ追テ我經濟の地歩ヲ確立シ他日終局ノ目的ヲ達スルノ途ヲ今日ニ於テ開クノ妥當ナルニ如カスト存ス張譽ヨリ不日何等回答アルヘキ筈ナルモ其回答ハ予メ之ヲ逆睹スルコト難カラサルニ付一応卑見ノ程開陳ス閣下宛落合發機密第一一〇号ト共ニ何分ノ御考量ヲ煩ハシタシ

八一 七月十三日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

承認セス北京ノ承認シ得ル程度ハ從來ノ話通りニテ当方ノ満足セサル所ナルニ付借款談ハ打切ルノ外ナキニ至レルモノナルカ本官ノ述ヘタル打切ノ結果ノコトニ就テハ考慮ヲ要スルニ付尙財政部ニ再電スルコトナサンガ万一同部ヨリ本官提出ノ条件ニハ多少軽減ナシ得ルヤノ質問アリタル場合ニハ如何ナル程度迄日本側ニ於テ譲リ得ヘキヤ本官ノ見込ナリトモ心得迄ニ伺ヒ置キタシトノコトナリシヲ以テ本官ハ右ニ関シテハ東京ヘ電報ノ上ニアラスハ答フル能ハサルモ本官差当リノ私見ニテハ實業上ノ条件即チ農工鉱業ニ関スル当方ノ提議ニ付大体満足ナル回答ヲ得ハ採木公司伐採区域拡張ノ件ハ之ヲ譲歩スルノ余地アルヤニ思考スト答ヘタルニ然ラハ右ニ付一応巡按使ヘ復命ノ上北京ヘ電稟スヘク財政部ニ於テ更ニ前議變更不可ナリトセハ当方ヘ再考ヲ請フ余地ナキモ万一更ニ右条件軽減ニ付商議方申来ルコトモアラハ再ヒ来訪尽力ヲ仰クヘシト語リ辞シ去リタリ

北京ヘ電報ス

(附記)

奉天借款問題ノ近況

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 八一

奉天借款ノ条件ニ付北京政府ノ承認無キ為借款談ヲ打切ル旨張財政署長ヨリ通告アリタル件

附記 奉天借款問題ノ近況(七月十一日奉天滿鉄公所調)

第二二八号

本月十三日張財政署長于交渉署長ト共ニ来訪數月来本官カ尽力シタル当省借款ハ北京ヨリノ命ニ依リ成立セシムル能ハサルニ至レルニ付此旨ヲ通知シ特ニ尽力ニ対スル感謝ノ為来訪セリト語レルヲ以テ本官ハ右借款談ヲ打切ルトセハ予テ横浜正金銀行ノ準備シ居ル五百萬元ノ銀ハ他ニ使用スヘク又本借款成立ノ見込ヲ以テ整理ノ計画ナリシ官銀号兌換券準備ハ別ニ方法ナシトノコトナレハ最早無制限兌換ノ延期モ無意義トナリ日本居留民ノ兌換要求ヲ緩和スル理由モナキニ至ル等結果各方面ニ及フヘク夫ニテモ差支ナキ次第ナルヤト問ヒ同時ニ借款見合トハ借款ノ不必要ナルニアラス条件ニ同意セストノコトナラムト問ヘルニ先方ハ然リ当初本官カ提出シタル三条件ニ対シテ満足ナル回答ナクハ借款談ヲ開始シ難シトノコトナル処北京ニ於テハ右条件ヲ

(七月十一日奉天滿鉄公所調)

奉天財政ノ困難ハ今ニ始メヌコトニシテ省庫空乏官吏ノ俸給不払數月ヲ算シ今ニシテ借款成立セザレバ兵餉モ不払トナリ軍隊ハ暴動ヲ起シテ奉天城内外ハ修羅ノ巷ト化スベシトハ屢々伝ヘラレシコトナルモ借款ニ対スル支那当局者ノ態度ハ常ニ強硬ニシテ折衝ノ為メ曠日弥久更ラニ苦慮スル処ナク而カモ交渉ハ遂ニ不調ニ帰スルモ財政ハ尚ホ維持セラレテ未ダ曾テ兵變ヲ見ザルノミナラズ不急ノ工事ヲ路傍ニ目撃スルサヘアリ何者ノ不思議カ之レニ及ブモノアラシ、支那ノ財政ハ到底常識ヲ以テ判スルヲ得ザル也
奉天政府ハ一昨年十月大倉ヨリ百万円昨年五月滿鉄ヨリ六十万円ヲ借款セル以後絶エズ借款談ヲ継続セルモ未ダ一ノ成立セルモノアラザルナリ

最近迄奉天当局者ト落合總領事トノ間ニ折衝セラレシ借款談ハ其端緒ヲ昨年七八月ノ交ニ開ケルモノニシテ當時支那側ハ秋季納稅前ニ際シ省庫支絀困乏セルヨリ新ニ奉天ニ開店セル朝鮮銀行ニ対シ借款ヲ申込ミ窃ニ其成立ヲ期シ居レリ金額ハ百万円ニシテ担保ハ採木公司ノ株券タリ鮮銀モ亦タ其商略上此借款ニ十分ノ色氣ヲ有セシモ外務省側トノ意

見合ハザリシ由ニテ交渉数月ノ後遂ニ破談トナリ其後借款談ハ断続的ニ財政司長ト総領事トノ間ニ交換セラレシモノ、如ク此間ニ中井喜太郎ナル者日本資本家ノ代表ナリトテ来奉シ無担保ニテ数百万ノ借款ニ応スベシトノ大法螺ヲ吹ケルヨリ一時支那側ノ注意ヲ惹キ財政司長ト中井トハ数回ノ会見ヲ為セルモ遂ニ要領ヲ得ルニ至ラザリシト云フ而シテ財政司長上京ノ結果奉天ニテ五百万円ノ借款ヲ起スベキ認可ヲ得シヲ以テ司長ト落合総領事トノ間ニ五百万ノ借款交渉開始セラレ今回コソハ必ズ成立スベシト予測セラレシガ条件ノ点ニ於テ両者相合セズ已デニ二個月前ヨリ交渉ハ全ク中止ノ姿トナレリ総領事提出ノ主ナル条件トシテ支那側ノ漏ス処ニヨレバ(一)奉天雜稅ヲ担保トスルコト(二)採木公司ノ伐採区域拡張ノコト(三)奉天省ニ於ケル鉱山及農工業ノ日支合弁ヲ許スベキコト(四)日本人ニ水田事業ヲ許シ且ツ内蒙開放地ノ払下ヲモ許スベキコト等ニテ奉天ノ官憲ニテハ大ナル異議ナキモ北京政府ハ到底之ヲ承認セザル模様ナリト

右ノ如クニシテ昨秋来継続ノ借款談ハ殆ント目下絶望ノ姿ニアリ而モ先キニ借款ヲ熱望シ今モ財政ノ困難ヲ叫ビツ、

アル奉天当局者ガ此情況ニ対シ別ニ失望落胆セル様子モナキハ一奇ト謂フベシ
茲ニ更ニ最モ奇ナルハ最近一二ヶ月間ニ起レル事実トス左ニ之ヲ述フベシ

大倉組ト奉天官憲トノ合弁事業タル本溪湖煤鉄公司ハ始メ資本金二百萬元タリシガ漸次増資シテ七百万元迄上ラシムルコトニ協定セラレ本年度ハ支那側ヨリ七十五萬元ヲ四期ニ分チ出資スベキ約ナルモ財政不如意ノ為メ第一回二十萬元ノ払込ヲ行ヒ得ズ大倉側ハ躍起トナリテ督促セシヨリ遂ニ借款ヲ行フコトニ決シ大倉組ノ仲介ニヨリ満鉄ト交渉ヲ開キシモ例ノ如ク条件ノ折合困難ニシテ洋銀七十五萬元ニ対シ満鉄側ヨリ(一)煤鉄公司新增資株ト撫順炭坑ヨリ納入ノ税金トヲ担保スルコト(二)更ニ採木公司ノ株金ヲ担保ニ加フルカ又ハ奉天瓦斯水道事業ノ特許ヲ与フルカ若クハ奉天ニ於ケル電気事業ヲ統一シテ之ヲ日支合弁トスルコトヲ許可スルカ三者其一ヲ承諾スベキコトヲ提議シ支那側ハ(一)ニ関シテハ異議ナキモ(二)ニ関シ容易ニ応諾セズ交渉一ヶ月余六月初旬ニ及ビ北京政府ノ認諾ヲ得ザル理由トシテ(二)ノ条件ヲ会社ヘ拒絕シ来レリ

然ルニ是ヨリ先、満鉄ノ六十万円借款ハ五月二十八日ヲ以テ満期トナリ支那側ニテハ更ニ一年ノ延期ヲ会社ヘ懇請シ来リ会社モ何等異議ナカリシガ未ダ延期契約ノ調印ヲ了セザリシ際ナリシヲ以テ会社側ニテハ前記(一)ノ条件ヲ強要スル為メ試ニ此延期契約ヲ利用スルモ一策ナルベシト做シ支

那側ヘ対シ奉天当局ガ(一)ノ条件ヲ容レザルハ畢竟会社平素ノ誠意ヲ認メザルコトニテ遺憾ニ堪ヘズ之レガ為メ会社ノ幹部ハ六十万円ノ延期契約ニ関シ躊躇ノ氣味アリト稍々威嚇的態度ニ出テシニ意外ニモ奉天官憲ハ然ラバ六十万円ヲ直チニ返還スベキガ可ナランカト申出デ、其態度タル決シテ一時ノ狂言ニ非サルコト明カナリシヨリ会社側ニテハ返還ハ固ヨリ切望スル処ナルモ元来本問題タル煤鉄ヘ払込ム

ベキ七十五萬元ノ融通ニ起レルコトニテ若シ支那側ニ満鉄ヘ返還スベキ金円アリトセバ何ソ早ク之ヲ煤鉄ヘ向ケザリシヤ満鉄ニテハ六十万借款ノ延期ヲ諾セザリシニ非ズ新借款ノ条件ニ関シ支那側ノ態度真面目ナラザルニ激シテ延期ヲ躊躇スルニ至レルナリ若シ支那側ニ余金アリテ新借款ヲ要セズトセバ条件問題ハ自然消滅トナリ六十万円ノ延期契約ハ交換セラレ煤鉄モ予定ノ払込ヲ得テ万事無難ニ結了ス

ルニ非スヤト説キ支那側モ之レニ首肯シ現存ノ六十万円ハ煤鉄ヘ払込ムベシトノ声明ノ下満鉄借款ノ延期契約ハ遂ニ締結セラル、コトトナレリ

右ニ関シ支那側ガ如何ニシテ六十万円ヲ準備セシヤ四月以来二個月ニ亘リ僅ニ二十万円ノ煤鉄払込金ニ窮シ居リシニ忽チ六十万円ノ懐金ヲ得シハ頗ル了解ニ苦ム処ニテ平素窃ニ奉天通ヲ以テ自任セル我等モ実ハ呆然タラザルヲ得ザリシ也

右六十万円ハ五月中旬ヨリ下旬ニ亘リ財政司長ガ中国銀行ヨリ同行ノ銀行券ニテ借出シ之ヲ以テ正金ノ銀券ヲ買ヒ其銀券ニテ奉天及大連ニテ朝鮮銀行ノ金券ヲ買入レタルモノナリト云ヒ又一説ニハ露亜銀行ヨリ借款セリトモ伝ヘラル、モ後説ハ未タ何等ノ憑拠ヲ聞カス或ハ前説事実ニ近カラシカ

其後支那側ガ煤鉄公司ヘ出資ヲ渋リツ、アル情況ヨリ察スルニ支那側ニテハ煤鉄払込ニ関シ当初ヨリ熱心ナラズ若シ輕易ニ借款スルヲ得バ払込ミテモ可ナリト思ヘルニ過ギザリシガ如ク之レニ反シ満鉄六十万ノ借款ニ付テハ大ニ苦慮シ若シ満鉄ニテ延期ヲ諾セズ而カモ償還ノ金ナキ場合ニ於

テハ担保タル商埠地及電燈電話事業ハ会社へ押収セラル、
ヤモ知レズトノ恐怖心ヲ起シ茲ニ遽ニ六十万円ノ金策ヲ百
方ニ求メシモノト解セラル

去レバ満鉄借款ノ延期確定セシモ支那側ハ煤鉄へ対シテ払
込ヲ実行セズ大倉組ヨリ再三ノ督促ニ会ヒ漸ク十万円ヲ六
月下旬ニ払込メリ然ルニ大倉及支那側ノ協定ハ四月一日ト
六月一日トニ二十萬元ツ、合計四十萬元ヲ払込ムベキニア
ルガ故大倉組八十萬元ヲ以テ満足セズ頻リニ爾余ノ払込ミ
ヲ迫ルモ支那側ハ言ヲ左右ニ托シテ容易ニ之レニ応セズ茲
ニ於テ大倉ハ支那側ニ六十萬元ノ存款アルヲ疑ヒ曩ニ満鉄
トノ借款不成立トナリシハ支那側ガ満鉄ヲ嫌ヒシ為メナル
ベク若シ大倉名義ニテ借款ニ応スルトセバ必ズ成立スベシ
ト妄信シ一方満鉄会社ニ借款資金ノ融通ヲ乞ヒ他方支那側
ニ対シ自ラ借款談判ヲ開カントシテ奉天ニ派遣員ヲ送り来
レルモ固ヨリ支那側ニテハ毫モ借款ノ意ナク払込ヲ実行セ
ザルハ他ニ理由ノ存セシコトナルガ故断然借款ノ提議ヲ却
ケ且ツ払込金ニ関シテハ七月中ニ三十萬元八月及十月ニ残
余ノ三十五萬元ヲ必ズ支出スベク奉天ノ財政ハ相変ラズ困
難ニ相違ナキモ目下之レガ為メ借款ヲ行フノ必要ヲ認メズ

報告等

第二五六号

大正三年七月十五日

横浜正金銀行

武内金平(印)

外務省

小池政務局長殿

拝啓奉天省五百万円借款交渉ニ関スル件ニ付在北京小田切
取締役ヨリ別紙写ノ通り本月七日付報告到着致候間右御参
考迄供御一覽候 拝具

(附屬書)

頭第二五五号

大正三年七月八日

於北京 取締役 小田切万寿之助

本店

頭取 井上準之助殿

奉天省五百万円借款交渉ニ関スル件

本件ニ関シ在奉天帝國總領事支那当局者間商議ノ顛末及当
地ニ於ケル故山座公使及本役カ農商總長財政總長ト交渉ノ

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 八二

ト明言セリト云フ蓋シ奉天官憲ガ煤鉄払込ヲ踟躕セル所以
ノモノハ煤鉄事業ニ何等ノ趣味ヲ有セザルト最近煤鉄公司
ガ北京農工商部ノ直轄トナルベシトノ報アリシトニ因リシ
モノニテ日本側ノ督促ニヨリ已ムヲ得ス北京政府へ電請シ
其指令ニヨリテ払込ヲ決行スルニ至レルモノノ如シ

最近借款交渉ノ曲折ハ以上詳述セル所ノ如シ要スルニ年余
ニ亘レル借款談モ茲ニ一段落ヲ告ゲ支那側ハ其靈妙ナル財
政上ノ遺繰リニヨリテ最早借款ノ必要ナシト公言シ得ルニ
至レルハ吾人ノ最モ奇絶トスル処ナリ然リ而シテ今後再ヒ
借款談ノ湧出スルコトアリトスルモ日本側ニテ例ノ如ク至
難ノ条件ヲ提出スルニ於テハ恐ラク毎時其成立ヲ見ルコト
難カルベク其結果野心アル列國ノ出資ヲ招クコト決シテ絶
無ト言フヲ得ザルベシ吾人ハ我が奉天借款ニ関シ須ク大ニ
研究スルノ必要アルベシ

八二 七月十五日

武内正金銀行總支配人ヨリ
小池政務局長宛

奉天省五百万円借款交渉ノ現状ニ関スル在北

京小田切取締役ノ報告書写送付ノ件

附屬書 七月八日付在北京小田切取締役ヨリ井上頭取宛

狀況ハ其都度兩地帝國官憲ヨリ其筋ニ詳報セラレ候ニ付貴
方ニ於テハ委曲御知悉相成居候事ト存候其後山座公使薨去
ノ為メ当地ニ於ケル本件ノ交渉ハ一時中絶ノ姿トナリシカ
小幡代理公使着任以來更ニ之ヲ続行スルコト、ナリ過般同
代理公使ハ農商總長章宗祥ヲ訪問シテ交渉セシニ同總長ノ
答フル所ハ其曾テ山座公使ニ告ケタル所ト異ナラスシテ何
等事局ノ發展ナク又去月二十九日周財政總長ト会谈セラレ
シニ同シク不得要領ニ終リ尚ホ同代理公使ノ請求ニ基キ本
月一日支那側ノ意見トシテ同總長ヨリ書面ヲ以テ採木公司
区域拡張ノ件ハ別ニ異議ナキモ同省巡按使ヲシテ实地ニ就
キ査照セシメ双方協議ノ上取極ムルヲ可トスヘク鉅山採掘
ノ件ハ独弁ト合弁ト問ハス一定ノ地点ヲ指摘シ且礦業条
例ニ準拠スルコトヲ要ス但優先權ハ他國ニ対シ同様ノ申出
ヲナスノ口実ヲ与フルヲ以テ承諾スル能ハス農田合弁ノ件
ハ古來農ヲ以テ立國ノ基礎トナス国情ニ付若シ外國人ト合
弁經營ノ端ヲ開カハ小民ノ生計ヲ奪フコト、ナリ輿論ノ反
對ヲ惹起スヘキヲ以テ断シテ同意ヲ表スル能ハサル旨別紙
写第一号ノ通り申越シタル由ニ有之候是レヨリ先キ農商總
長張謇歸京セシトノ報ヲ得タルヲ以テ本役ハ去ル三日久瀾

ヲ叙シ旁本件商談ノ為メ同総長ヲ訪問シ奉天並ニ当地ニ於ケル交渉關係ヲ述ヘタル上五月落合總領事ヨリ同地支那官憲ニ提出セラレタル覚書（即五月六日武内発頭取宛公信付属別紙A号）ヲ開示シ其考慮ヲ促シ併テ援助ヲ求メタル処同総長ハ之ニ対シ本件ノ顛末ヲ聞クハ本日ヲ以テ始メトス何レ關係各総長ト協議ノ上何分ノ回答ヲナスヘシト告ケ翌四日ニ至リ前記覚書所載ノ条件ハ本年四月同省都督ヨリ打電ノ条件トハ相違アル理由如何ト別紙写第二号ノ通り問合越候ニ付本役ハ之ニ対シ都督ノ電報ハ二月間奉天總領事ヨリ口頭ヲ以テ陳述セル条件ヲ基礎トシテ四月ニ至リ之ヲ打電シ来リタルモノト思ハル是レ前記覚書所載ノ条件ニ比シ字句ノ間多少ノ相違ヲ見タル所以ナランモ日本側提出ノ条件要旨ニ至リテハ前後何等ノ岐異ナキ旨相答ヘ尚ホ去ル六日小幡代理公使モ亦本件ニ関シ同総長ヲ訪問セラレタル処其際同総長ハ前記同様ノ事ヲ繰返シタル上右ニ関シ既ニ奉天巡按使ニ対シテ問合セノ電報ヲ發セシ趣ヲ語リタル由ニ有之候

本役ノ見ル所ニテハ張総長ハ真面目ニ本問題ヲ研究シテ或ル妥協点ヲ発見シタシトノ意見ヲ有スルモノ、如ク被思候

傾向奉天張巡按使所開條件三端分別答復如左

一、推廣安東採木公司區域一節查此事應查照原定合同酌量推展惟究推廣若干里數應由奉省巡按使實地查察報部再定總以彼此合宜爲主

二、奉省礦山獨辦或合辦均請照准並許日人有優先權一節應先指定地點並須查照中國政府礦業條例辦理但不能有優先權以免他國有所藉口

三、中日合辦農田一節查中國以農立國人民生計全在農事如許與外國人合辦不獨奪小民之生計且必大拂輿情引起各方面之反對轉傷兩國人民之睦誼斷不能行

以上三節即中國政府對於此事之意見其辦法已決定曾電知奉天巡按使告知駐奉日領轉達銀行矣此畧

第二號寫（張農商總長ヨリ小田切取締役宛問合）

小田切先生左右昨譚甚囑承

示奉天借款條件核與原案張都督四月間電陳條件語多岐異是否此項條件係

貴國駐奉領事與

先生自行商權並非當時提出原文茲將原件遵屬送還並乞

查明見復至爲盼頌

本件交渉ノ現状右ノ通りナルカ譲テ我提出条件ニ対スル支那側從來ノ態度及小幡代理公使並ニ本役ニ対スル各総長近日ノ語氣ヨリ察スルニ我ニ於テ提出条件ヲ株守スルモ到底支那側ヲ説服スルコト容易ナラサルヘク此以上更ニ交渉ヲ繼續スルモ果シテ予期ノ効果ヲ収メ得可キヤ疑問ニ有之候事ノ前途果シテ此ノ如シトセハ此際一応張総長ノ回答如何ヲ俟チ而シテ其回答ニシテ依然我ニ不利ナル曉ニハ我ニ於テ交渉局面ヲ一変スルノ必要可有之即我ヨリ支那側ノ最モ希望スル他ノ条件ヲ承諾シテ我カ既ニ提出セル条件ヲ全諾セシムルカ或ハ我カ既ニ提出セシ条件ノ一部ヲ支那側ノ承諾シ得ル範圍迄之ヲ引下ケ農業問題ニ関スル条件ハ他日別ニ商議スルコトトシテ本借款ヲ締結スルカ二者ノ中其一ヲ択行スルコトヲ得策ト認メラル、節モ有之候間貴方ニ於テモ充分ノ考慮ヲ加ヘラレ度狀況報告旁卑見及具陳候 敬具（別紙）

第一號寫（周財政總長ヨリ小幡代理公使宛覺書寫）

三年六月二十九日財政總長周 與日本代理中國公使小幡晤談小幡公使詢及前者正金銀行擬借與奉天省五百萬元一事因條件不合未成究竟中國政府意見如何等語周總長當將駐奉日

日祺

張謇 七月四日

八三

七月十七日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛（電報）

奉天借款談見合方ニ関スル北京政府ノ指令ニ

付于交渉員内話ノ件

第一三三號

往電第一二八号ニ関シ于冲漢七月十七日ノ十七会ニ於テ内話シテ曰ク北京ヨリ当省借款談ハ見合スヘシ官銀号ノ兌換準備ハ不利益ナル条件ノ借款ニ訴フル程必要ニアラス無制限兌換ヲ約束シタルコトハ既ニ間違ナリ況ンヤ日本人ノ所有セル洋錢票額ハ知レタルモノニアラスヤ農業合併ノ如キハ弊害百出到底承諾スヘキニアラストノ回答アリタルニ付甚タ遺憾ナカラ正金ニテ準備セラレタル銀ハ最早如何様トモ処分セラレタシト

北京へ電報ス

八四

七月十八日

加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛（電報）

日本ヨリノ借款拒絶ノ上ハ今後無斷ニテ外国

筋ヨリ金策スベカラザル旨中国側当局ニ警告

方訓令ノ件

第一一二号

貴電第一三三三号ニ関シ

我方ニ於テ奉天官憲ノ窮狀ヲ察シ特ニ資金ヲ用意シテ借款談ニ応シタル次第ナル処支那側ニ於テ条件ニ関シ委曲商議ヲ尽スコトナク今回突如破談ヲ申出デタルハ如何ニモ誠意ナキ仕打ト認メラル乍去借款不要トアレハ固ヨリ強テ勸ムル迄ノコトニモ無之ニ付貴官ハ成ルベク速ニ支那側当局者ニ面会シ政府ノ訓令トシテ右ノ次第ヲ述ベ且已ニ本邦側ノ借款ヲ拒絶シタル以上此末奉天省ニ於テ資金ヲ要スルコトアルモ苟モ我ニ謀ルコトナクシテ外国筋ヨリ金策スルカ如キコトアルベカラサル旨警告ヲ与ヘ置カレタシ將又日本人所有ノ錢票ノ數ハ言フニ足ラサルモノナル旨北京官憲ヨリ申越シタル趣ノ処若シ果シテ然ラハ最初ヨリ無制限ニ兌換ニ応スヘキ筈ナルニ先般來屢ハ右兌換ニ関シ支那側ヨリ当方北京及奉天ニ於テ特ニ懇願シタルコトヲ指摘シ此ノ如ク徒ニ無責任ナル言ヲ弄スルハ日支国交上不為ナルベキ旨序ヲ以テ戒メ置カルル様致タシ

右訓令トシテ北京ニ転電アリタシ

大正三年七月二十日

在奉天

総領事 落合謙太郎

在支那

臨時代理公使 小幡西吉殿

奉天省借款ニ関スル件

貴電第九〇号ノ件ニ関シ不取敢拙電第七〇号ヲ以テ大略回答申進置候通り是迄談判ノ經過特ニ最近ノ模様ニ照シ北京ヨリ農業合併ノ可否ニ関スル意見ヲ張都督ニ問ヒ合セ来リタルカ如キコトハ万無之ト思考シタルモ尚ホ為念本月十五日日本官他ノ要件ヲ帶ヒ張都督ヲ往訪シ于交渉員モ同席シ居リタルトキ余談ヲ借款談ニ及ボシ且ツ応接室ノ壁上張審ノ書ヲ掲ケアルヲ見タルヲ以テ話頭ヲ同人ノ経歴及同人ト張都督ノ關係等ニ転シ進ンテ貴電第九〇号ノ件ヲ夫レトナク探ランカ為張審ハ滿洲農業ノ模様及農業ノ日支合併ニ付張都督ノ意見ヲ重ンジテ之ヲ問合セ其ノ意見ニヨリ可否ヲ決スルヤノ模様ナキニアラズトノコトナルカ事実如何ト問ヒタルニ都督ハ一向ニ知ラスト答ヘ列席ノ交渉員モ亦斯ルコトハ知ラサルノミナラス耳ニセルコトナシト称シ若シ北京

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 八五

八五 七月二十日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

奉天借款ノ条件タル農田合併ニ関シ張農商總長ヨリ奉天都督ニ諮詢ノ事実無シト認ムル旨報告ノ件

附屬書

七月二十日付在奉天落合總領事ヨリ小幡臨時代理公使宛機密北第一一四号写
奉天省借款ニ関スル件

機密公第一三六号

(七月二十七日接受)

大正三年七月二十日

在奉天

総領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

大正三年七月二十日附機密北第一一四号小幡臨時代理公使宛往信写送附

奉天省借款ニ関スル件

(附屬書)

写

機密北第一一四号

ニテ左様ノコトヲ申居ル次第ナラハ之レ責任ヲ他ニ譲ルモノナリト語リ全然中央ヨリノ電訓等ヲ受領シタルガ如キ口吻無之就テハ本件ニ関シ張審ガ語リタル処果シテ誠意ヨリ出デタリヤ又責任遁レナリヤハ未ダ断定シ難キモ一体農業合併ノ件ハ当初ヨリ北京政府ニ於テ拒絕ノ方針中々ニ頑固ナリシモノト認メラレ当地方官ハ如何ニモシテ借款ヲ成立セシメントシ当初ハ此条件ヲ諾シテナリトモ借款ヲ成立セシメント焦慮シタル形跡アルヲ以テ本条件ノ不成立ハ無論北京政府ノ責任ナルコト明白ナリト思考セラレ候現ニ過般財政庁長カ來訪ニ際シ借款ニ付当方提出条件ニ苦ミ居ルコトヲ訴ヘタルニ付本官ハ農業合併ノ如キ客年一旦承諾シタルモノヲ本年承諾ニ躊躇スルカ如キハ甚タ不可解ナリト詰リタル処其答ニ現今ノ状態ハ旧時ト異リ地方ニ於ケル一件一事尚ホ且ツ中央ニ請訓シ其指令ヲ仰カサルヘカラサル次第ニテ地方限ニテ裁断スルコトヲ得ス当方提出ノ条件ニ就テハ數次電報又ハ文書ヲ以テ北京ニ上申シ或ハ説明シ百方其ノ認可ヲ得ント勉ムル処アリタルモ在再今日ニ至リ談亦不調ニ帰セントスルニ至レリト述ヘ又本月十日于交渉員ガ本官ヲ來訪シ其ノ語リタル処ノ大要ハ既ニ同日付機密公第

一四九

一二八号大臣往信ヲ以テ申進置候処同談話中ニ於テモ今
 回同交渉員ノ上京要件ノ一トシテハ五百万円借款ノ件モ含
 マレ居レル旨申述ヘ多少条件融通ノ途ヲ得タキ様ノ口吻ナ
 キニアラサリシニ付本官ハ交渉員ノ熟知セル通り農業合併
 ノ事ハ前ヨリ当方面ノ大勢ニシテ之ヲ拒絶シタリトテ防遏
 シ得ルモノニアラス寧ロ借款ヲ機会トシテ之ヲ承諾シ我方
 ト共同ニ利益ヲ享ケ弊害ヲ防グノ途ヲ講スルノ得策ナルコ
 トヲ北京政府ニ対シ説明スヘキ旨談話シタルニ同人ニ於テ
 モ上京ノ上ハ十分ニ当省ノ情况ヲ話シ置クヘシト語リ居リ
 タル次第ニテ要スルニ本省ニ於ケル農業殊ニ水田ノ合併ニ
 関シテハ客年十一月百万円借款談ノ際前財政司長趙臣翼及
 現在ト同一ノ都督及交渉員ガ責任ヲ以テ之ヲ承諾ノ意向ヲ
 言明シタル次第ニテ又現財政厅长張翼廷モ此事ニ関スル反
 対意見アル模様毫モ無之張警カ右合併ノ可否ヲ今更当省当
 局ニ問フ如キハ了解シ難キノミナラス若諮詢セハ当省ノ官
 憲ハ反対ノ回答ヲ為シ得ヘキ筋ニ無之然カモ事實ニ於テハ
 本条件ハ頑然支那側ノ拒絶ヲ受ケ居リ候前後ノ模様ニ照シ
 考フレハ張警ノ言ハ交渉員ノ言ノ如ク責ヲ他ニ譲ルモノニ
 外ナラスト思考セラレ候尤モ本月十七日于交渉員ノ内話ニ

ヨリ借款談謝絶ノ意思明ニナリタル節本官ハ進シテ其ノ爰
 ニ至リタル経路ニ付探ル処アリタルニ于ノ洩シタル口吻ニ
 ヨレハ過般來奉シタル張財政次長ハ当省ノ洋錢問題及農業
 問題ヲ調査シ行キタルモノノ如クナレハ多分同次長ヨリ農
 業合併ノ弊害アルコト及小洋兌換ニ関スル取極ヲ不可トシ
 タル復命ヲ為シタルモノナラント語リ居候右為御参考申進
 候 敬具

本信写外務大臣ヘ送附済

註 冒頭援用ノ小幡代理公使発落合總領事宛第九〇号ハ省略セ
 ルガ右ハ滿洲ニ於ケル日本人農業ノ模様、之ニ関スル意見
 等ヲ張農商總長ヨリ奉天都督ニ電報ヲ以テ諮詢セリトノコ
 ト(七月七日小幡代理公使発奉天經由外務大臣宛第五〇四
 号即チ八〇文書参照)ニ関シ問合ノ電報ナリ

八六 七月二十一日 在奉天落合總領事ヨリ
 加藤外務大臣宛(電報)

今後無断ニテ外国筋ヨリ金策スベカラザル旨

奉天当局ヘ警告済ノ件

第一三五号

七月二十一日張上將軍ヲ訪ヒ財政厅长モ列席セシメ貴電第
 一二二号ノ趣ニ遵ヒ警告シタル処兩人ノ答フル所ニヨレハ

令ニ從フ遺憾ナル立場ナルコトヲ察セラレタシト述ヘタリ
 北京ヘ電報ス

八七 七月二十二日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
 加藤外務大臣宛

奉天借款破談ニ関シ外交總長ヘ警告ノ覚書提

出ノ件

附屬書 七月二十二日附小幡臨時代理公使ヨリ孫外交總

長宛電書写

奉天借款破談ニ関シ警告ノ件

機密第三〇二号 (七月二十八日接受)

大正三年七月二十二日

在支那

臨時代理公使 小幡 西 吉(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ関シ七月十九日落合總領事宛貴電第一一二号御訓令
 ノ趣敬悉致シ候本件ハ専ラ財政部ノ主管ニ属スル事項ニ付
 同部總長ニ面会致シ口頭ヲ以テ申述フル方可然カトハ存シ
 候ヘ共同時ニ条件等ニ就テハ農商部司法部等ニモ関係有之
 儀ニ付寧ロ外交總長ヘ申入ル、方一般ニ亘リ有効ナルカト

思考シ誤会ヲ避クル為メ別紙ヲ認メ本日同部ヘ送附致シ置候右ハ本官同総長ヘ面会ノ上貴電末段ノ錢票兌換問題ノ警告ト共ニ委曲説明ノ上手交可致答ナリシ処同総長ハ数日来病氣引籠ノ為メ其意ヲ果サス然ルニ一方落合総領事ニ於テハ同官往電第一三五号ノ通り既ニ張將軍ヘ談話済ノ旨転電ニ接シタルニ付当方ニ於テハ不取敢覺書ノミ送附致シ置キタル次第第二有之候何レ総長出勤次第面会ノ上御訓令ノ趣意徹底方相努メ可申候

此段一応ノ報告申進候也

写送附先

在奉天落合總領事

(附屬書)

七月二十二日附小幡代理公使ヨリ孫外交總長宛覺書ヲ第九九号

覚書

大正三年七月十九日帝國政府ヨリ左記ノ趣貴國政府ヘ申入ルヘキ旨ノ電訓ニ接セリ

奉天支那官憲ハ該省財政ノ不足ヲ補フ為メ本年二月中日本ヨリ金額五百万円ノ借款ヲ起シ度キ旨在奉天帝國總領事ヘ申出アリタルニヨリ帝國政府ハ直ニ本邦資本家ヲ説

奉天借款破談竝新立屯駐在師団ノ日本人解職及独逸武官傭聘ニ関シ孫外交總長ニ警告ノ件

機密第三二六号

(八月六日接受)

大正三年七月二十九日

在支那

臨時代理公使 小幡 酉 吉(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

奉天借款商談破裂ニ付中央政府当局ヘ將來ニ於ケル同省ノ外国借款ニ対スル警告申入方並ニ新立屯駐在師団ニ於テ日本入解職独逸武官傭聘ノ件ニ関シ同様警告方々過般御訓令有之候処外交部ニ於テハ總次長共通次久シク病氣ノ為メ面会ノ機ヲ得ズ居候処本日孫總長ト会见相遂ケ御訓令ノ趣旨委曲相告置候当日会談ノ要領左ノ通ニ有之候

本官先ツ要談ノ端緒ヲ奉天借款問題ニ求メ該借款ノ成行其他ニ関シテハ外交總長ニ於テ已ニ委曲承悉ノ次第ト信ズル処本借款ノ遂ニ不成立ニ帰シタルハ奉天省財政整理其他ノ前途ニ顧ミ深ク遺憾トスル処ニシテ特ニ帝國政府力進シテ斡旋尽力ノ勞ヲトリ我資本家ヲ説得シ五百万円ノ金額ヲ準備セシメタルニ拘ハラズ其提出ノ附帯条件ノ如キ概括的ニ

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 八八

キテ之ニ応セシムルコト、シ資金ヲ準備シテ好意的斡旋ニ努メツ、アリタル次第第ノ処奉天官憲ハ帝國政府カ本件借款ニ関連シ該省財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムベキ經濟的合併事業ノ提議ニ対シ毫モ真摯ノ考量ヲ遂ケス只形式上ノ論議ニノミ拘泥シテ遂ニ自ラ要望セル借款提議ヲ破談ニ終ハラシメタルハ該省財政ノ現状及ヒ將來ニ於ケル經濟的事業發展ノ見地ヨリシテ帝國政府ノ深ク遺憾トスルトコロナルト同時ニ奉天官憲ノ諛意ナキ举措ニ対シテハ甚タ了解ニ苦シム所ナリ雖然既ニ借款不要ノ旨ヲ宣明セラレタル今日我ヨリ強テ之ヲ勸ムルノ要ハ無之モ同時ニ今後奉天ニ於テ資金ヲ要スル場合ニ帝國ニ計ルコトナク他外国筋ヨリ借款ヲ起スカ如キコトアルニ於テハ帝國政府ノ断シテ之ヲ默過シ能ハサル処ニシテ重大ナル結果ヲ惹起スルモノト承知アリタシ

大正三年七月二十二日

大日本帝國臨時代理公使 小幡酉吉

支那共和國外交總長孫寶琦殿

八八 七月二十九日

在中国小幡臨時代理公使ヨリ加藤外務大臣宛

否認シ去リ各条件ニ関シ詳細商議ヲ進ムル余地ヲ存スルコトナク一概ニ拒絕シ遂ニ折角ノ借款談ヲ不調ニ終ラシメタル奉天官憲並ニ其他ノ不誠実ナル態度ニ対シテハ帝國政府ハ少ナカラズ不満ヲ感ジ居ル次第也現ニ財政部ヨリ奉天当局ヘ洋帖引換問題ニ関シ日本人所有ノ錢票數ノ如キハ言フニ足ラサル旨申送りタル趣奉天總領事ヨリ來電アリ若シ果シテ如斯クンハ奉天官憲ハ最初ヨリ無制限ニ兌換ニ応ス可キ筈ナルニ其事ナキノミナラス後日ニ至リ我方ノ厚誼的緩和策ニ関スル誠意アル援助ヲモ無視シテ如此不謹慎無責任ナル放言ヲ敢テシ顧ミサルカ如キコトハ兩國ノ国交ニ少ナカラサル障害ヲ与フルモノタルヤ論ナク已ニ本借款ノ如キ幾多ノ波瀾曲折ヲ経タル末不幸ニシテ不調ニ帰シタル關係ト來歴トニ顧ミ將タ又タ滿洲ニ於ケル我帝國特殊ノ地位ニ鑑ミ將來万一奉天省ニ於テ資金ヲ要セラル、コトアル場合ニ日本ニ計ルコトナクシテ他國筋ヨリ随意金策スルカ如キコトアルニ於テハ帝國政府ノ默過シ能ハザル事情ニ在ルコトハ篤ト考慮アリタク且ツ之等ノ事柄カ遂ニ兩國ノ間ニ不愉快ナル紛争ヲ生スルノ種子トナル可キコトモ充分承知シ置カレ度本官カ帝國政府ノ訓令ヲ奉ジテ去ル二十二日附ヲ

以テ外交總長宛覚書ヲ發シタル所以実ニ此ニアル次第ナル旨相述ヘ本官ハ更ラニ進ンデ右ニ限ラズ滿洲ニ於テ稍々排日的ノ徵候トモ認ムルニ足ル可キ一例トシテ在新立屯第二十八師長馮中將ハ其傭聘者ノ予備砲兵中尉渡瀨二郎ヲ約束期限満了前ニ解職シ新タニ購入軍器操縦教師トシテ独逸武官ヲ傭聘セリトノ確報アリ之等ノ事ヲ彼是綜合シテ考フルトキハ滿洲ニ於テ支那政府カ排日的の体度ヲ採ルノ徵候ト解セラル、モ殆ント弁解ノ辭ナカラント信ズ元來滿洲ニ於ケル日本特殊ノ關係上日本ハ独逸武官ノ傭聘セラルル事ヲ欲セザル次第ハ支那政府ノ夙ニ諒知シ居ラル、処ト信ズルニ付如此帝國ト紛争ヲ生ズル虞アル措置ハ敵ニ之ヲ避ケラル、ヲ至当トスルト同時ニ渡瀨ヲ繼續傭聘スルカ若クハ新ナル日本武官招聘ノ舉ニ出テラレンコトヲ希望スト述ヘ斯ク支那政府ニ於テ事毎ニ進ンデ日本ノ快トセサル態度ヲ踏襲セラル、ニ於テ其結果ハ遂ニ重大ナル關係ヲ惹起スルニ至リ兩國親善ノ關係ニ不幸ナル事体ヲ生ズルナキヲ保セサル旨切ニ警告相与置候

右本官ノ所見並ニ警告ニ對シ孫總長ハ奉天借款ノ条件並ニ成行等ハ詳細夙ニ承知シ居ル次第ナルカ支那側ニ於テ敢テ

誠意ヲ欠キ概括的ニ日本ノ条件ヲ拒否シタル訳ニアラズ審議ノ上聴ク可キハ聴キ拒ム可キハ拒ミタルニ過キズ即チ日本側提出ノ三条件中鴨綠江森林伐採区域擴張ノ件並ニ奉天省礦山開掘ノ件ハ對案ヲ出シ交渉ノ余地ヲ存シ唯ダ農田合併經營問題ノミ關係スル処重大ナルニ付日本側ノ意向ニ副ヒ得ザリシニ過キズト考フト弁ジ次ニ洋錢票引換問題ニ關スル財政部ノ放言云々ノ件ニ就テハ元來洋錢票引換問題ハ當時財政部ニ於テモ非常ニ苦心シタル難問ニシテ取付ケ緩和策ニ付テハ独リ日本官憲ニ請ヒタルノミナラス支那人ニ對シテモ緩和策ヲ必要トシタル次第ナレバ如斯窮場ノ際ニ財政部カ日本側ノ厚意ヲ無視シ不謹慎ナル放言ヲ敢テスト云フカ如キハ殆ント想像スルヲ得ズ何等カ其間ニ誤会アラント信スル旨説明シ最後ニ新立屯日本武官解約独逸武官招聘ノ件ハ今初メテ耳ニスル次第ニテ何等承知シ居ラザルモ若シ期限満了前ニ解約シタルモノトスレハ弁事必ズシモ正当ナリト言フヲ得ス兎ニ角右二点ハ取調ノ上何分ノ回報ニ及フ可シト陳述致候

本官ハ茲ニ於テ奉天借款ノ破談ニ歸シタル今日事々前議ヲ反覆シテ茲ニ論弁ヲ費スコトハ無用ノ感ナキニ非ルモ外交

總長カ借款三条件中農業問題ヲ除キ二条件ハ交渉ノ余地アル對案ヲ提出シタル様説明セラル、モ鴨綠江採木区域問題ハ姑ク之ヲ別問題トシ奉天省礦山採掘ニ關シ支那側ノ提議ハ殆ント新礦業条例ニヨリ採掘ヲ請求ス可シト言フニ等シケレハ決シテ借款ニ對スル約因ト認ムルヲ得ズ該提議ノ如クナラバ殊更ラニ借款ノ附帶条件トセザルモ日本人ハ何時ニテモ鉱業条例ニヨリ採掘ヲ計画シ得可キ次第ナリ果シテ然ラバ借款第二条件ハ全然我希望ヲ容レラレサルト同様ナリ之ニ加フルニ農田問題モ一概ニ拒絕セラレタル訳ナレバ結局輕微ナル採木区域問題ヲ容レテ他ハ皆拒絕セラレタルモノト見ルノ外ナク今少シク是等二条件ニ對シ考慮ヲ費サレ誠實ニ意見ヲ交換シタルニ於テハ或ハ妥商ノ余地アリタラント考フ況ンヤ昨二十八日小田切カ張(響)農商總長ヨリ聞ク処ニヨレハ淮河水利事業ニ關連シ現出ス可キ沿河ノ農田經營ニ關シテハ米國ノ資本ヲ以テ米支合弁ノ計画ヲ立テラレ已ニ案ヲ具シ大總統ニ提出セラレタリトノ事モアリ尚又タ或ル方面ヨリノ確報ニヨリ是亦張總長ノ計画ニテ某米人ニ對シ滿洲ノ或ル一地域ニ農場經營ヲ許可セラレントスル案アリトモ承知ス(七月廿九日附機密第三二五号往信

参照)如斯中央政府部内高官カ或ハ南方ニ於テ外国人ノ農業經營ヲ奨励シ若シクハ滿洲ニ於テスラ同様ノ計画ヲ実行セントシツ、アルニ際シ滿洲ニ於テ特殊ノ立場ヲ有スル日本人ニ對シ平和的の經濟發展ヲ不当ニ妨碍セラレントスルハ甚タ意ヲ得ザル次第ナリ元來日本ハ本官ノ承知スル限り滿洲ニ於テ政治的の野心ヲ抱藏スルモノニ非ズ期スル処ハ一國ノ經濟狀態ニ顧ミ平和穩健ナル方法ヲ以テ滿洲其他ニ於テ經濟的事業ヲ見出サントスルニ外ナラス世界ノ經濟的趨勢ハ水ノ低キニ就クカ如ク日本人ノ滿洲ニ經濟上ノ仕事ヲ得ントスルハ蓋シ自然ノ趨勢トセサル可カラズ而カモ此自然ノ趨勢ヲ無下ニ排斥シ去ラル、ハ我方ニ於テ最モ痛切ニ不滿ヲ感スル次第ナルニ付農田問題ハ借款問題ニ拘ハラズ將來必ズ起ル可キ問題ナレハ切實ナル支那政府ノ考慮ヲ望ム旨陳述致候処張響ノ淮河農田經營策並ニ滿洲ニ農業許可說ヲ素破抜クニ至テ孫總長ハ意外ニ感シタル態度ニテ此二件ハ同人ニ於テ全然承知シ居ラサル処ニシテ多分誤伝ナラント陳弁致シタルニ付本官ハ淮河農田ノ事ハ張總長自身カ小田切ニ明言シタル処ニシテ疑ヲ挾ムノ余地ナク將又タ滿洲ニ於ケル米人農業問題モ確タル筋ヨリ聞及ヒタル処ナレバ

是亦タ殆ント疑ヲ容ル、ニ由ナキ事実ナルモ兎モ角一応外交総長ヨリ取調ヘノ上今少シク詳細ナル事実ヲ回示セラレタシト述べ其口約ヲ得置候或ハ何等カ申来ル可キカトモ被存候

右談話不取敢及具報候也

本信写送付先在奉天落合総領事

八九

八月九日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

奉天借款破談ニ関スル我方警告ニ対スル外交

部回答ニ付請訓ノ件

第五五五号

七月廿二日附機密第三〇二号拙信附属覚書ニ対シ八月八日公文ヲ以テ外交部ヨリ大要左記ノ回答ニ接セリ

貴公使ハ政府ノ訓令ニヨリ(中略)云々ト申越サレタリ査スルニ借款取極ハ貸借ノ行為ニ属シ其条件ニシテ協議調ハズバ成立スル能ハズ是亦理ノ常ナリ此次ノ奉天借款ハ彼我ノ協商緒ニ就カザリシ為メ沙汰止トナリタル迄ノ事ニテ最初ヨリ予期セシ所ニハ非ス貴国政府ハ是レヲ誠意ナキ挙動ト云ハル、モ右ハ聊カ誤解アルニ似タリ今後

外務大臣男爵 加藤高明殿

満洲借款ニ関スル将来ノ保障不承諾ノ旨外交

部ヨリ来照写送附ノ件

本件要領ハ八月九日往電第五五五号中ニ報告済ノ処本文ハ別紙写ノ通りニ候御査閱相成度候也

(附屬書)

八月八日附孫外交總長回答寫

外交總長孫

照會事准七月二十二日

照稱奉帝國政府電訓奉天中國官吏擬向日本借款五百萬一事未能認真考察徒拘于形式之議論遂自行破壞不解奉天官吏何以爲此無誠意之舉動此後或需借款苟不先儘帝國而向他國商借帝國政府斷不能默爾而息等因查訂借款項事屬貸借行爲其應訂條件或由双方協議不調未能成立亦事理之常此次奉天商借之款彼此不能協商就緒因而作罷原非始願所及

貴國政府謂爲無誠意之舉動似有誤會至此後該省倘需借款之時

貴國借款條件較他國合宜自可向貴國磋商並不預存成見相應照會

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 九〇

該省ニ於テ借款ヲ要スル際其貴国条件ニシテ他國ト比較シ合宜ナル時ハ自ラ貴国ニ向ヒ磋商スヘク敢テ予メ成見ヲ存セス云々

右ハ時節柄隨分思ヒ切リタル申分ニテ殊ニ滿洲借款關係ニ就テハ從來我方ノ支持セル優越ノ地位ニ対シ未タ曾テ支那側ヨリ明白ニ否認シ来リタル事実無之次第ニ付本件申越ニ対シテハ更ニ嚴重ナル反駁ヲ試ミ場合ニヨリテハ此機會ヲ以テ今後ノ紛争ヲ避クル為我優越ノ地歩ヲ確認セシメ置ク措置ヲ講スル事可然カトモ存セラル反駁ノ趣旨ト共ニ何分ノ義御電訓ヲ請フ

九〇

八月十日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

奉天省借款破談ニ関スル我方警告ニ対スル孫

外交總長回答写送付ノ件

附屬書 右回答寫

機密第三五四号

(八月十八日接受)

大正三年八月十日

在支那

臨時代理公使 小幡 酉 吉(印)

貴代理公使査照可也須至照會者

右 照 會

大日本國欽命代理駐華全權公使小幡

中華民國參年捌月八日

(右和訳文)(註外務本省作成)

書翰ヲ以テ啓上致候陳者七月二十二日付御照會ニ曰ク帝國政府ノ電訓ニ拠ルニ奉天中國官憲ノ日本ニ向テ五百万円ヲ借入レントスルノ件ハ未タ認真ニ考フル能ハズ徒ニ形式ノ議論ニ拘泥シ遂ニ自ラ破壞ヲ行ヘリ奉天官憲ハ何力故ニ此ノ如キ誠意ナキ行動ヲ為セシヤヲ解セス此後或ハ借款ヲ需ルトキ苟モ最先ニ帝國ニ謀ラスシテ他國ニ向テ借款ヲ商議セハ帝國政府ハ斷シテ禁止スル能ハス等ノ趣キ按スルニ借款事件ハ貸借ノ行為ニ属シ其定ムヘキ条件カ或ハ双方ノ協議調ハサルニ由テ成立スル能ハサルコトハ亦タ通常ノ理由ナリ此度奉天ニテ商議ノ借款カ彼我ノ協商緒ニ就ク能ハサリシニ因テ停止シタルコトハ最初ヨリ期待シタル所ニアラス貴国政府カ誠意ナキ行動ト称セラル、ハ誤會アルカ如シ此後ニ至リ該省ニテ若シ借款ヲ需ル場合ニ貴國ノ借款条件カ他國ニ比較シテ宜キトキハ自ラ貴國ニ向テ相談スヘシ決

シテ予メ確定シタル意見ヲ存スル訳ニ無之候此段御照会申進候敬具

九一 八月十日

加藤外務大臣ヨリ
在中国小幡臨時代理公使宛(電報)

奉天借款破談ニ関スル中国側回答不都合ニ付

嚴重反駁方訓令ノ件

第三三五号

貴電第五五五号ニ関シ支那側回答ノ趣旨如何ニモ不都合ナルニ付此際支那当局ノ腦裏ニ南滿洲ニ於ケル我特殊優越ノ地位ヲ飽迄徹底セシメ置クコト最モ緊要ト存セラル、ヲ以テ貴官ハ文書ヲ以テ本借款ニ付テハ当初支那側ヨリ財政窮乏ヲ訴ヘテ要望シ来リタル成行アルニ拘ラス我ヲシテ資金ヲ準備セシメタル後南滿洲ノ開發ヲ目的トスル日提携ノ經濟的經營ニ関スル附帶條件ニ付誠意ヲ以テ商議ニ応スルコトナク慢然借款自体ノ交渉ヲ拒否シ今又我方ノ久キニ亘レル尽力ヲ酌ムコトナク徒ニ枝葉ノ論議ニ走り加フルニ他國借款ト條件ヲ比較シ合宜ナルトキ初メテ我ト商議ス可キ旨ヲ公言スルニ至リテハ實ニ支那側ニ於テハ当初ヨリ本件交渉ニ誠意ナカリシコトヲ彼レ自ラ曝露スルモノタルノミ

ナラス南滿洲ニ於ケル借款ハ必ズ先ヅ本邦側ニ商議スベキ意味ノ北京并ニ奉天官憲屢次ノ声明ヲ履ヘスモノニシテ殆ント邦交ヲモ顧念セサル不信ノ措置タルヲ免カレススノ如キハ滿洲方面ニ於ケル我平和的經濟的發展ヲ妨碍スルニ等シク各般ノ關係ト二大戦役ノ結果トニ依リ中外ニ確認セラレタル我南滿洲ニ於ケル特殊優越ナル地位ト支那側ニ於テ常ニ唱導シ居レル日提携ノ精神トヲ無視スルモノニシテ帝國政府ノ到底承認スル能ハサル所ナル旨ノ趣意ニテ嚴重反駁ヲ加ヘ彼ノ反省ヲ促サル、様可然御取計アリ度尚貴電末段確認取付ケノ義ハ最望マシキコトニ付其含ヲ以テ精々御尽力相成度シ

註 本件訓令ノ執行ニ関スル文書ハ記録ニ存セズ

九二 十月二十二日

加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

奉天省借款供給ノ我方内意ヲ先方当局ニ通スル様訓令ノ件

附 記

奉天省借款ノ附帶條件輕減ニ関スル内定案
(政務局)

第一七二号

奉天省財政ノ益困難ニ陥リツツアルハ貴電第一八一号以下ニテ御申越ノ通ニ有之其困難ハ今後一層甚シキニ至ルヘシト予想セラレ将来ノ事モ深ク懸念セラルルニ付テハ支那側ヲシテ現下ノ難局ヲ過コサシメンカ為メ先方ノ希望次第ニテハ此際我方ヨリ四五百万円ヲ限リ借款ヲ供給スルコトモ詮議シ得ベシト存セラルル処前借款交渉ハ支那側ヨリ謝絶シ来リシ行掛モアリ此際先方ヨリ進ンテ借款談ヲ切出スコトモ出来難キ事情モアルベキニ付大体本年四月二十九日付政機密送第五四号ノ趣旨ニヨリ適當ノ機會ニ於テ貴官ヨリ進テ我方内意ヲ支那当局ニ通セラルル様致度シ
右含迄ニ北京ニ転電アリ度シ

註 前掲六四文書

(附 記)

奉天省借款ノ附帶條件輕減ニ関スル内定案

(政 務 局)

奉天借款ノ件ニ関シテハ別紙^(註)ノ通りノ條件ヲ以テ從來ノ交渉繼續方本年四月二十八日閣議ノ同意ヲ經タル上別紙所掲各条件中末項記載ノ紙幣引換及財政顧問傭聘ノ二条件ハ暫ク提出ヲ見合セ置キ差当リ一ヨリ七ニ至ル七条件ヲ以テ支

一一 奉天省借款交渉ニ関スル件 九二

那側ニ対シ交渉ヲ開始シ爾來折衝ヲ重ネタル処支那側ハ容易ニ我申出ニ応スルニ至ラス特ニ(一)鉱山ノ件ハ先ツ予メ其地点ヲ指摘シ新定ノ鉱業条例ニ依リテ辦理スルコトトナスヘク尤モ他國ニ辞柄ヲ藉スカ如キ優先權ハ之ヲ与フルヲ得スト主張シ又(二)農業ノ件ニ付テハ若シ外國人ニ合辦ヲ許ストキハ独リ小民ノ生計ヲ奪フノミナラス延テ輿論ノ沸騰ヲ招クニ至ルヘシト論シ右両点ニ関シテハ殆ト絶対ニ我要求ヲ拒否スルノ態度ニ出ツルニ至レリ然ルニ奉天省ノ財政ハ日ニ益々窮迫ヲ告ケ来ル現状ナルヲ以テ之カ救済策ヲ講スルハ滿洲ニ特殊ノ關係ヲ有スル我方ニトリテモ甚急務タルハ勿論万一支那側ニ於テ窮余他國筋トノ間ニ借款談ヲ試ムルニ至ルカ如キコトモアラハ我方ニ極メテ不利ナル事態ヲ惹起スルニ至ルヘキニ付寧口此際少シク条件ヲ輕減シ大体左ノ趣旨ヲ以テ更ニ交渉ヲ試ムルコトト致度シ尤モ今後ノ模様ニ応シ本条件モ更ニ多少ノ変更ヲ免レサルコトハ予期シ置クコトヲ要ス
(一)農工業合併經營区域ハ奉天省内遼河本支流流域ニ限ルコト、シ愈々事業着手ノ際ニハ予メ地域ヲ指定シ当該官憲ノ承認ヲ得ルコトトナスベシ

(二) 鉱業合併経営ノ件ハ支那側主張ノ如ク鉱業條例ニ拠ル位ナレバ此際特ニ交渉スル迄モナキコトナリ又支那側ニテハ我ニ優先権ヲ与フルトキハ他国ニ辭柄ヲ藉スニ至ランコトヲ懸念シ居ルガ如キモ我ニ於テ滿洲ニ對シ政治上經濟上特殊ノ地位ヲ有スルコトハ列國ニ於テモ已ニ之ヲ認メ居レル所ナルヲ以テ支那側ニ於テモ徒ニ列國ノ思惑ヲ顧慮スルコトナク日支國交ノ大局ニ顧ミ奉天省内ノ鉱山採掘ヲ外國人ニ許可セムトスル場合ニハ日本人ニ優先権ヲ与フルコトニ主義上同意スルコト而シテ我方ニ於テハ差向キ鞍山站ヨリ本溪湖方面ニ至ル一帶ノ鉄鉱ヲ合併トナサンコトヲ希望ス

本件借款交渉中適當ノ機會ニ於テ左ノ二件ヲ申出ヅルコト甲、近來奉天省ノ財政紊亂ヲ極メ之カ為日本商人最モ迷惑ヲ蒙ル次第ナルニ付同省財政整理ノ為日本ヨリ適當ナル財政家ヲ財政庁顧問トシテ傭聘スルコト

乙、支那官憲ハ奉天省内官私立支那銀行ノ銀行券發行ヲ嚴重ニ監督シ常ニ相當正貨ヲ準備セシメ若シ右準備不足ノ場合ニハ支那官憲代リテ兌換ヲ行フヘキ旨保証スルコト
註 別紙ハ前掲六三文書附記ト同文ナルニ付省略ス

九三 十一月四日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日中官憲間ノ不文ノ申合ニ付新巡按使張元奇

ニ申繼方張上將軍ニ要請ノ件

機密第二一五号 (十一月十日接受)

大正三年十一月四日

在奉天

總領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

(前略)

本月一日本官ハ張上將軍兼旧巡按使ヲ訪問シ新巡按使ヘ事務引繼ノ際當省ニ於ケル日支特殊關係ヨリ兼テ兩國官憲間ノ不文ノ申合ト為リ居レル二個ノ重要事項即チ當省ニ於テハ予メ日本ニ相談スルコトナクシテ日本以外ノ筋ヨリ借款ヲ起サザルコト及未開放地居住ノ日本人(朝鮮人ヲ含ム)ハ決シテ之ヲ送還シ又ハ圧迫ヲ加フル等ノコトヲ為サザルコトニ付確乎タル申繼ヲ為シ置カレタキ旨要求シ同上將軍ノ承諾ヲ得タリ(後略)

事項三 大倉組ノ本溪湖煤鉄公司借款及奉天省借款ニ関スル件

九四 二月二十一日 大倉組大倉身ヨリ
小池政務局長宛

本溪湖煤鉄公司株主會議ニ於テ資本銀七百万

元ニ増額議決ノ件

附記 明治四十四年十月六日調印ノ本溪湖煤礦有限公司合同附加條款

大正三年二月二十一日 (二月二十一日接受)

大倉組

大倉 發 身(印)

外務省

小池政務局長殿

拝啓益々御清穆奉慶賀候

一、本溪湖煤鉄公司増資ノ件

本月十日同公司ニ於テ第三回株主會議ヲ開キ奉天交渉員于冲漢氏出席民國二年度決算同三年度予算案ヲ決議シ尚炭礦製鉄兩部事業拡張費トシ資本銀ヲ總額七百万元ニ増額ノ件議決仕候此義御了承置被下度候

三 大倉組ノ本溪湖煤鉄公司借款及奉天省借款ニ関スル件 九四

一、江蘇鐵道借款返済ノ件

去十六日突然明日返金云々ノ入電ニ接シ候モ今ニ入金ニ至ラサル模様ニ御座候別紙往復電報寫シ御覽置被下度候 敬具

註一 本溪湖煤鉄有限公司ハ本溪湖煤礦有限公司ヲ改称シタル

モノナル処右改称ハ明治四十四年十月六日調印ノ本溪湖煤礦有限公司合同附加條款第一款ニ依リ行ハレタリ該附加條款ハ附記トシテ左ニ掲載ス尚本溪湖煤礦有限公司合同ニ付テハ日本外交文書第四十三卷第一冊四六八文書参照

二 江蘇鐵道借款ニ関スル往復電報寫省略ス

(附記)

明治四十四年十月六日調印ノ本溪湖煤礦有限公司合同附加條款

奉天交渉司ハ東三省總督ノ委任ニヨリ日商大倉喜八郎ト本溪湖煤礦有限公司合併契約ノ附加條款ヲ訂立スルコト左ノ如シ

第一款此ノ附加條款ガ清国政府ノ批准ヲ得タル後本溪湖煤